

ガンバレ、消防音楽隊！（その1）

昭和59年、当消防組合に入って4年足らず、弱冠24才の私は本署救急隊員としての日々を送っていました。

その年の9月、当時の次長（現藤井寺市長）に呼ばれ、楽器演奏の経験や現在の活動等を質問されました。

少し私のことを説明しておきますと・・・

私はというと中学2年生からバンドを友達と結成し、ギターとベースを曲目によって交替しながら担当していましたが、どちらもいまひとつの出来で、結局空席のドラムとメンバ全員が恥ずかしいから嫌がったポカールを担当することとなりました。ポカールはその後20年間、ドラムは25年以上経つ現在も続くこととなります。

高校入学後、いつでもドラムが叩けるという理由だけでブラスバンド部に入部しましたが、大太鼓、小太鼓、ティンパニからトライアングル、ドラ、ホイッスル、（叩いて音を出す）レールやバネ、水笛まで、「これ楽器ですか？」というものまで演奏するパカッション（打楽器）を担当。その後社会人吹奏楽団を経てこれも現在に至ります。

さて、質問した当の次長は、私の話もそこそこに、「実は、理事者（柏原市、羽曳野市、藤井寺市の市長や消防担当の助役のことを総じてこう言います）から消防音楽隊をつくるようにとされているのだが、やってくれるか？」とのこと。

自分の職場に消防音楽隊が出来るのかと喜んだのはその瞬間だけで、0.5秒後には、「やってくれるか？」の言葉が引っ掛かり、何とも言えない不安を覚えました。

私の気持ちとは関係なく次長はこれからの進め方について話を続けます。

こんな新米を呼び、偉いさんがニコニコしながら、新業務の説明をしている。

私は心の中でつぶやきます。「なんかヤバそう・・・」

皆さんも経験があると思いますが、悪い予感だけはよく当たります。

この日以来15年後の今日まで苦悩の日々を送ることとなるとは・・・この運命の日には想像を遥かに越えた重要な日だったのです。

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その2）

「消防音楽隊をつくるように。」突然のことに、「これからどうなの？」正直な気持ちでした。

当消防本部は4月1日と10月1日の年2回人事異動が発表されます。

民族大移動の様相を呈する大規模なものから、極小規模なものまで色々あります。

この指示の直後の昭和59年10月1日警備課救急係として日勤に異動することになりました。

いわゆる9時5時の毎日勤務です。

救急隊として実務するのではなく、救急に関する事務を担当します。

と同時に消防音楽隊発足に向けての下準備をすることとなります。

逆に言えばその準備の為に一旦日勤に異動した訳です。

係と言うと上に課長、課長補佐、係長、係員・・・となるものですが当時の救急係は私1人、係長は課長兼務。

実際の事務は全て私1人でやると言う状態でした。

救急係も結構バタバタしていました。

会議、調整、打合せ、府庁でのヒアリング、統計の報告、医師会主催の勉強会や医学研究会等での事例発表が多くあり更には自分で応急処置講習までやります。

休日出勤も多々。

さて音楽隊の方ですが、目星を付けた職員に次長が直接ピンポイント攻撃の嵐で次々撃沈していきます。

返事に詰まった瞬間、音楽隊員に決定と言われたと抗議の声が私の所へ。

結局興味の有り無しに関わらず仕方なくと言うのが半分、咄嗟の事で返事が出来なかったと言うのが半分の状態で隊員の頭数だけは揃ってきました。

しかし現在でも発足当時のメンバーが11名残っていると言う事は適切な人選だったのかも知れません。

ともかく吹奏楽経験者はこの1年後、現副楽長が就職してくるまで私以外皆無。

楽器演奏される方は分かって頂けると思いますが、自分の担当楽器以外はお互い詳しく知らないのが普通です。

ピッコロ、フルート、クラリネット、サクソ、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、そして打楽器群。

特に打楽器担当でやってきた私は他の楽器の手入れや奏法などほとんど知識がありませんでした。

友人、知人に色々教えてもらいながら、「なぜ同じ形、同じ材質をしても値段が数倍も違うか？」「なぜこんなに何種類もオイルやグリスがいるの

か？」「初歩からはじめるバンドにはどんな教則本があるのか？」「楽譜は？」休日には楽器店巡りをして実物を見ながら、初歩的な質問を繰り返していました。

出勤すれば机の上でカタログの山と格闘する毎日です。

まわりからは、「工作中そんなことしてんのか。」「仕事ないのか。」からかい交じりのお言葉が。それはないでしょ～。人知れず悩み続ける私でした。

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その3）

レスキュー隊に代表される様に消防と言えば「体力勝負」といったイメージを持たれている方が多いと思いますが、当消防組合はその傾向が一層強く、全国消防救助技術大会（いわゆる全国救助大会）にも地方大会を勝ち抜いた多くの職員を選手として出場させ、この消防組合の名を売っているところです。

そのせいか野球部、陸上部、サッカー部等の経験者は結構いますが、「音楽」と言うと「カラオケで歌う」のが唯一の接点で、それはそれで良いとおもいますが「音楽隊」と言う事になると事態は深刻です。

世の男達は概して楽譜が大の苦手。オタマジャクシはカエルの子、五線譜は無用の長物状態。消防業界は圧倒的に男が多数。

おまけに楽器演奏とは一生縁がないと信じて疑わない。

当時の消防組合はその極みといった感じでした。

季節は既に春。次長のピンポイント攻撃で陥落してしまった職員たちは30名前後になりました。

その勤務形態はほとんどが隔日勤務者で、24時間勤務して24時間非番の2交替制の人たちです。

まだ楽器は1つもありませんが、考えていてもしょうがないのでとりあえず1度集まってもらうことにしました。

文房具店で小学生用の音楽のノートを買ひ、音楽記号等が載っている裏表紙を参考資料様に用意し、自分が所属している吹奏楽団の演奏を録音したテープ、黒板、私個人所有の楽器数点等色々用意しました。

そして当日、全員が集まりました。

2時間懸命に説明し語り掛けますが、どうも今一つ表情が冴えない、と言うか能面の様。これから新しい業務を開始するという感じではない。

仕方なく来ましたといった感じが蔓延しています。

異常に疲れます。

終了後何人かと話しましたが一様に「音楽の経験も興味もない。出来ることならもう辞めたい。」今からはじめようと言う日にもう辞めたいとの申し出。

想像はしてはいたがかなりハードなスタートです。

中には多少やる気を持った者もいますが、全体として後ろ向き。今思うと無理も無いかもしれません。

実際興味が無いのに楽器を習う人はいないでしょうから。

でも、「ハイ、そうですか。」とはいかない。

楽器を1日でも早く揃えなければいけないと感じました。

その後数回、音楽の基礎の基礎を知ってもらうため集まってもらい、平行して最終的に購入機種を絞り込み数業者の方々と価格交渉を進めます。

いよいよ発注の段階に来たときある業者の方からの電話。

その声はかなり焦っていました。「河井さん、大変です。国内のサクスが品薄で入荷に何ヶ月かかるか分かりません。」「エ - ! × >_<;なんですか~?」

おまけ：「ガンバレ、消防音楽隊！」も第3回を数えました。非常に粗雑なうえ幼稚な文章でお恥ずかしい限りですが、少しでも興味を持って頂ければと言う想いで始めました。しかし皆さんにどの位届いているのか・・・?

「出演予定」「マリー・フラワーズ」「隊員の声」なども毎月1日に更新しています。Q & Aコーナーやメールボックスへこのホームページや当消防音楽隊に関するご意見、ご感想、お叱り、激励、ご質問、または実際に「演奏を見たよ。」などを皆さんから頂ければこれからの参考にしたいと思っていますのでどうぞよろしく願いいたします。

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その4）

「大変です。国内のサクスが品薄で入荷に何ヶ月かかるか分かりません。」
「エ-????」とにかく事情を詳しく聞くことに。

「河井さん、今何が流行っているか知ってますか？チェッカーズってご存知ですか？」と言われる。

言われてみれば巷では「な~み~だ~~の~・・・」とか「ギザギザハートの・・・」とかよく流れています。

他にTV番組の1コーナーで「サクスは最高！」と言うのもやっています。

その影響らしいのですがサクスが売れて品薄状態になっているのです。

当消防音楽隊で予定していた機種は、中学校のブラスバンドが使用しているグレードと同程度、つまり初心者層をターゲットにしているグレードで、この時点では一番品薄な状態でした。

もっとグレードを上げればそんな事はないのですが、値段が高く手が出ません。

市場には無名ブランドの品も出回っている状態です。

「それともう一つ問題が・・・。」「まだなにか？」消防音楽隊はパレード等の出演も多く予想されたため、行進で使用するスーザホンと言うカタツミりのオバケみたいな楽器も予定していましたが、こちらはあまり生産していなくて品薄と言うことでした。

いずれにしる、あまり時間はない上この問題はこちらが努力のしようがない。

「金額を上げることは出来ません。お願いするしかないのですが、国内の流通在庫を当たって転売してもらってでも、揃えてもらえませんか。お願いします。」

結局希望していたグレードで楽器は揃いました。
サクソもありました。
スーザホンも。

ただスーザホンには仙台の流通センターの荷札が貼られていました。バンド1隊分の楽器を前にして、なんかの縁でここに来たのだから、観念してガンバツテや！と心でつぶやいていました。

さて担当の楽器を決めなくてはなりません。
ここでもサクソの取り合い。

一番人気でした。「どうせやるんだったら俺もチェッカーズみたいにカッコ良く吹きたい。」そしてトランペットが2番人気。

なんだみんな見かけだけは気にするんだよな～。
希望をいちいち聞いては前には進まない。
後は独断で決めてしまいました。
次回は担当楽器の発表と実際に楽器をみんなに渡して練習？です。

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その5）

昭和60年7月、音楽隊員を一同に集め、いよいよ各担当楽器を渡しました。
キラキラと光るまっさらの楽器が次々とケースから取り出されます。
納入業者の方に協力してもらって組立て、メンテナンス、収納までの取扱いを説明しますが、恐る恐ると言うか、持て余している様に見える者、とにかく音を出したくて待ちきれない者、他人ごとの様に聞いている者。

さまざまな表情がそこに溢れています。
「とにかく叩けば音がる。」と、中でも一番余裕の表情をしているのがパカッション（打楽器）を担当する事になった隊員達。

私は「入口は広いけど、単純なだけに奥が深いんだぞ。」と言いたい気持ちをグッと堪えて、表情だけは穏やかに。

とにかく関心を引き出して、それを持続させることを第一に考えていました。

ヒヤヒヤしながらなんとか説明も一通り終わった時、あちこちで「出来ない。分からん。」の声。

譜面台を相手に格闘している人が数名。

出演の際、携帯性が良いように、あるメーカーの譜面台で、譜面を立てる箇所も折りたためるものにしたのが災い。

「ギュ-！」と、力任せに開こうとしている隊員を慌てて止め、務めて笑顔でもう一度説明。

心の中では「さっきも言ったでしょ。」

大きな事件(?)もなく無事に終了時間が近づきました。今度は実際に楽器を収納してもらいます。

ほとんどの隊員が数秒で収納完了。

「オイオイ、ちゃんと手入れしてなおしたか?」「バッチリです。」一番信用できない答えが返ってきます。

一方10分近く経っても未だ終わらない者も。業者の方と付きっきりでまた一から説明。頭が痛くなってきました。

どうにかこうにか楽器と「教則本」を渡し終わりました。しばらくは各パート毎に集めて、「音」を出す練習です。

曲目を演奏出来るようになるのは、いったいいつの事かな?と考えると頭痛が更にひどくなりました。

いま考えるとそのころから私は頭痛持ちになったような気がします。(現在も頭痛持ちです。)

次回、突如の合奏(?)練習へ!です

おまけ:「ガンバレ、消防音楽隊!」(その5)いかがだったでしょうか?自分の文才の無さをつくづく実感させられ、打ちのめされ、締切日に追われながら記憶をたどって書いています。

少し気が早いですが、1999年も終わりに近づきもうすぐ2000年。「Y2K問題」もいよいよ本番突入と言う感じのなか、私自身、防災関係者としては非常に不謹慎で心苦しいですが、21世紀が近づくにつれ、訳もなく心のどこかでワクワクした気持ちが溢れます。

これは多分子供のころに感じた21世紀への憧れから来るものだと思います。（「鉄腕アトム」ばかり見て育ったからでしょうか？）それとも暗い話が多い現実からの逃避なのか。

皆さんはどうでしょう？

今年最終の掲載ですので、この一年間の活動状況を紹介します。

- 1月7日（木）柏原羽曳野藤井寺消防組合消防出初式
- 1月10日（日）羽曳野市市制40周年記念式典
- 1月17日（日）羽曳野消防団消防出初式
- 5月5日（水）はびきの市民フェスティバル
- 6月1日（火）バンド・フロント「マリー・フラワーズ」発足
- 8月7日（土）柏原市民郷土まつり
- 8月20日（金）大阪府立消防学校初任科教育音楽観賞会
- 9月9日（木）太田地区消防組合盟約締結式典
- 9月10日（金）羽曳野市交通安全全国キャラバン隊来訪歓迎セレモニー
- 9月23日（木）藤井寺市民まつり
- 9月29日（水）大阪府立消防学校初任科教育終業式
- 10月3日（土）羽曳野市大阪府身体障害者河内連合スポーツ大会
- 10月21日（木）羽曳野市婦人消防隊消防操法大会全国優勝凱旋セレモニー
- 10月31日（日）羽曳野市農業祭
- 11月15日（月）羽曳野市婦人消防隊消防操法大会全国優勝祝賀会

練習回数 1回3時間 65回

累計出演回数 133回

今年一年の出演で演奏した曲目

アフリカン・シンフォニー / 錨を上げて / 慰霊の歌

オートマティック / 踊る大捜査線 / オーメンズ・オブ・ラヴ

川の流れのように / 君が代 / 北国の春 / 北酒場

Gメン 75 / 巡閲の譜 / スター・ウォーズ・メインタイトル

スリー・ファンファーレ / セブンス・ファンファーレ / 太陽にほえる

探偵物語 / 追憶のテーマ / 翼を下さい / 得賞歌 (勇者は帰りぬ)

76本のトロンボーン / はぐれ刑事純情派 / バック・ドラフト

パワー / フレンズ / マイ・ウェイ / 負けないで

マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン / ミッション：インポッシブル

雷神 / ルパン 世のテーマ

まだまだ出演数が少なく、皆さんに聞いて頂ける機会が十分ではありませんが、演奏曲目のバリエーションもほんの少しづつですが広げながら、がんばって行きたいと思っています。

神保彰さん、菅沼孝三さん、ミッキー東野さん、カルロス菅野さん、萩原尚さん、Mr アーマード&Mrs アンディー・ジルジャン、Mr デイヴ・ウィックル、Mr マヌ・カッチュ、Mr トリロク・グルー、Ms ティナ・クラーク、Mr イブス・ティエッシュ、Mr ロバート・ナン、高沢和成さん、井坂昌彦さん・・・。

私個人的には、今年もたくさんの方々にご直接お会いし、いっぱいお世話になった、思い出深く、一生忘れることの出来ない一年でした。皆さんには親切にして頂き大変感謝致しております。有難うございました。

高久荘太郎先生、竹平寿一先生、小田淳子先生、辻本剛志先生、伊勢敏之先生、岡田明子先生、高見真理子先生、これからも当音楽隊を宜しくお願いいたします。

大阪市消防音楽隊をはじめ府下消防音楽隊の皆さん、神戸、尼崎、西宮、名古屋、京都、川崎、広島、北九州、そのほか全国の消防音楽隊の方々。本当に、本当に不出来な音楽隊ですが、嫌がらずお付き合い下さって感謝しております。

柏原羽曳野藤井寺消防組合音楽隊隊員の家族の皆さん。いつもお父さん、お母さん、息子さん、お嬢さんに助けてもらっています。

寂しい、つまらない、旅行に行けない、夏休みがない、不自由な想いをされている事と思っています。

非番や休日、土曜、日曜、祝日等の家族いっしょに過ごしたいような日ばかり

り、出演が、そして一年中ずっと行う練習日が重なってしまう事をお許し下さい。

皆さんの理解、協力と支えがあるからこそ、我々はがんばれるのだと心から思っており、また、感謝しています。

そして最後に、「市民の皆さんに少しでも喜んで頂ければ。」「災害や事故で被害に遭われる方が少しでも減れば。」私達はそのために活動しています。

このホームページもその「願い」からはじめたものでした。私達の「願い」が皆さんにもっともっと届くよう来年も努力して参ります。

どうぞご声援を宜しくお願い致します。

それでは皆さん、よいお年をお迎え下さえますようお祈り申し上げます。

MERRY 'XMAS & HAPPY HAPPY NEW YEAR!!

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

FIRE MAN'S MARCHING BAND

CONDUCTOR & DRUM MAJOR

FIRE CAPTAIN YOSHIFUMI KAWAI

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その6）

明けましておめでとうございます。本年もこのコーナー共々宜しく願い申し上げます。

今年はどんな一年になるのか？ 皆さんにも私にも良い年で有りますように。

さて、いよいよ定期的に練習していきます。

毎週金曜日 9時30分～11時30分の2時間（現在は9時15分～12時15分の3時間）以後現在まで金曜日の午前中の練習が定着してしまいました。（たまに曜日変更すると、隊員達が混乱するぐらいです。）

まだ楽譜は要りません。

楽器を配布しましたが、最初の練習はとにかく楽器の音の基本中の基本、吹き口、いわゆるマウスピースだけで「音」を出す練習です。

クラリネット等の木管楽器のマウスピースだけで音を出すと、山羊か野鳥が長く鳴いた様な音が出ます。

トランペットやトロンボーン等の金管楽器のマウスピースは、トイレの排水が詰まった時に使う「ポッコン」(すいません。正式名が分かりません。誰か教えて下さい。)を小さくした様な形で、上から下まで一直線に穴が貫通しています。

すこし雑な表現をすると、金管楽器はマウスピースから楽器本体全てが筒と言うか、一本の管(くだ)になっているのです。

私も最初は「なぜこれで音が出るのかな?」と不思議で仕方なかったです。(本当の事を言うと、今も納得しているような、していないような・・・。)

話をもとに戻しましょう。

この変わった筒状のマウスピースそれだけで音を出すと、長い音のブーブークッションみたいです。

しかしこれだけでドレミの音階を吹く事が出来る人もいます。

パーカッション(打楽器)はスティックの素振り、練習台の代わりに机の上に濡れ雑巾を畳んでそれをメトロノームの非常にゆっくりしたテンポに合わせ、延々とそして黙々と叩き続けるものです。

楽器配布の時は、余裕の表情だったパーカッションも「腕がだるい。」と不満顔。

他の楽器と違い口は使っていないので、常時文句が言える状態なんです。

何をやるにしても、基礎練習は最も重要な訳ですが、目的意識が希薄だとこ

れほどつまらない練習もない訳で、皆すぐに休憩したがるし、1回の休憩が長い。

もともと進んで希望した訳でないというのが、ここでも色濃く影を落としていました。

仕方なくと言う感じでマウスピースだけの練習から楽器もつけての練習へ。

教則本も使い練習曲を吹いてみます。曲目は「メリーさんの羊」。

男ばかりで「メリーさん」もあつたもんじゃない。音もブツ切れ、音程も。

もし、「メリーさん」がこの場に居れば、羊に乗って逃げ出すか、「メリーさん」マジ切れで、ビール片手にジンギスカン を食べ出すかのどちらかです。

こんな練習を1ヶ月足らず続けました。

隊員達は一様に「おもしろくない!」「もうこの教則本は出来るから他の曲にしてくれ。」のお言葉。

実際は今もこの手の教則本を練習時に使っています。

基礎練習はとっても大事なものです。しかし当時の隊員達には分かってもらう事も出来ず、外来講師と相談の上、誰でもが一度は聴いたことのある曲、ピートルズの「イエスタディ」と「大脱走のマーチ」の2曲の楽譜を配ることにしました。

ところが吹奏楽の譜面は、フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、トロンボーン、ホルン、ユーホニウム、チューバ、パーカッションとバラバラのもので、各自には自分の吹くことしか書いていない物です。

他の人が何を吹いているのかは、ほぼ全く分かりません。

全体が分かるのは指揮者用の譜面、指揮譜だけです。

「この譜面のどのへんが歌ですか?」「僕、伴奏だけじゃイヤデス。」 「何書いてあるか分からん。」 「この譜面のとおりの演奏を録音したものはないん

ですか？」「分からん。」の連発攻撃。

こういう要望や苦情を言う時だけは非常に反応が素早く、それこそ「非情」です。

練習指導用のキーボードで音を出して個々に説明していきます。

それでも数回目にはなんとなく、それらしく吹く事が出来る隊員が数人いました。

「エーイ、いっぺん合わせてみるか。」突然ですが全員で合わせて見ることにしました。

急遽、練習室（少し広めの会議室を間借りしていました。）に譜面台と椅子を並べ、私も初めての指揮で、いざ。

「いつ吹くんですか？」「いまどこ？」「あれ、もう終わったん？」「なにやってるか分からなかった。」・・・いくらひいきめに聴いても、なにを演奏しているのか分からないからすごい！

いずれにしても、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊の初の記念すべき(?)

「合奏(???)」が終わりました。

昭和60年夏も終わりに近づいた頃でした。「イエ～スタ～ディ～～」

次回、緊急事態発生！

伝説の講師登場です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その7）

いままで何度か話に出てきましたが（もう第7話なんですね。

良く続いたなーと他人事のように感心しています。）音楽隊の楽器の種類は

大きく分けて、フルート、クラリネット、サクソ、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーホニウム&チューバ、パーカッション（打楽器）の8群に分かれます。

これを私一人で全て初歩から指導するのは不可能ですので、外来講師として専門の先生をお願いしています。

この先生方は、どこかの団体に属していたり、フリーで活動したり、学校で講師として教鞭をとっていたり、さまざまな形で音楽活動をしている人たちです。

音楽隊員が生徒となる訳ですが、結構申し訳ない状態です。

なんせウチの音楽隊員ですから。

最初、私の友人でプロの奏者がおりましたので、外来講師としてきてもらっていました。

この彼とは高校時代の同級生で、お互いプラスバンド部に所属していました。彼はチューバ、私はパーカッション。

ほかにホルンとユーホニウムの2人を含めた4人は俗に言う悪友で、卒業後も同じ社会人吹奏楽団に在籍し、良く遊び、良く飲み良く飲み（練習の後には毎回飲んでました。それ以外も・・・）私以外の3人は演奏もとても上手だったと思います。

そして、彼だけがプロになっています。

（成り行き上、私も音楽を仕事にしておりますが。）

最初は「自称だけのプロ」だと思っていましたが、一応、今もその世界で活躍しているようです。

とは言うものの、その頃はまだ予定がいっぱい詰まっている訳でもなく、時間に余裕があったので、音楽隊の練習の後時間を調整するために、一人暮ら

している私の部屋にしょっちゅう遊びに来ていました。

その友人曰く、「自分の専門以外でも教えることは出来ると思うが、やはり専門の人に来てもらう方が一番いい。

特にフルートとホルンは特殊だから。」これは私も感じていた事なので、早速心当たりを当たってもらう事となりました。

彼の紹介でフルートの先生が見つかりました。

それも「女性」です。（バンザーイ!!）

すでに結婚されているらしい。（ガクッ）と言う事は「人妻」です。

男ばかりの職場ですので、犬笛で反応する犬と同じように、せんべいのおいに反応する奈良の鹿のように、「女性」という言葉には敏感に反応してしまいます。

9月の第1回目の練習から来てもらう事と成りました。

フルート担当の隊員は皆に冷やかされ、少しテレ気味でその日を待つ事に成りました。

フルート担当の隊員は3人でしたが、このうちの1人に、7月8月の2ヶ月間入院し、その期間中3回も手術をした隊員がいました。

手術の跡は左脇腹からオヘソの横までかなり大きな傷痕です。

始めて見せてもらった時、「恐怖の腹切り男！」と声を掛けたら、すごい怒ってたような記憶があります。

大変まじめで何事にも熱心な彼は、2ヶ月間の入院を終え、9月からに職場復帰しましたが、お腹の中には腎臓から膀胱まで管（クダ）が入ったままで、3度の手術で左側の腹筋が一部切られたままで、まだ繋がっておらず、お腹に力が入りません。

お腹にサラシをグルグル巻いていました。「それ、妊婦帯？」と言ったらま

た怒ってましたけど。

オマケに投薬のせい、「冷感アレルギー」が出て、金属などの冷たい物が長く触れると過敏に反応するらしいのです。(フルートって金属なんですけど。)

この隊員も偶然ですが、9月第1回目から練習に復帰する事となりました。

昭和60年9月5日、「フルートの先生」が来てくれました。

友達の講師以外で初めて、その上「女性」です。

私の印象は「シッカリした感じの人」で、初めてのせいでしょうか少し表情が硬い様でした。

フルート3人の隊員を先生に紹介します。

例の隊員もいます。いつもより少し口数が少ないぐらいで、外見上は2ヶ月も入院して、3回も手術をし、お腹に管が入っている様には全く見えません。

その頃、練習場所として使っていたのは、旧庁舎(平成6年12月より新庁舎に移転。余談になりますが、私は新庁舎事業の設計の構想段階から竣工式典まで担当していました。新庁舎には小さいですが音楽隊専用練習室が一応あります。)で唯一の会議室と当直職員の3つの仮眠室で、2段ベットと2段ベットの間で練習してました。

「女性」と言う事に気を使い、ベットのある部屋は避け、6畳ぐらいの何も置いていない部屋を使ってもらう事にしました。

「これ使って下さい。」と4人分の椅子を持っていくと、「いりません。」
「エッ?」「椅子はいりません。」今度は3人の隊員が「エッ!」「必要になったらお願いしますので。」「そうですか。じゃ、あとお願いします。」と扉を閉めました。

今思い起こすと、その時のフルート3人組はとてもおびえた目をしていた気がします。

私の音楽隊での仕事は、演奏時の指揮者、楽器・消耗品の調達、使用曲の決定、出演打合せ、練習・出演の為の内部調整及び時間調整・勤務時間関係の決定、講師の調整、練習内容の決定、隊員の安全管理、予算取りと執行、パーカッションの練習指導、隊員の任命・解任手続き等、そして当時は練習場所の確保と言う余分な仕事もあり、場所が取れなくて練習が出来ないなんてこともありました。

この日一番心配だったのが、隊員が失礼な事を言ってせっかく来てくれた講師を怒らせるんじゃないかって事でしたが、フルートの隊員3人は信頼出来る人だったので、私はパーカッションの隊員の練習を見る為、この女性講師に後を任せました。

練習時間9時30分～11時30分(現在は9時15分～12時15分)で、途中1回休憩を入れる事が多いですが、この日もパーカッションを休憩させて手洗いに行くと、そこには・・・？

うっすら涙を浮かべる彼らの姿が。

「どうした！フルート3人組」次回に続く

ガンバレ、消防音楽隊！（その8）

真っ青な顔をして、あぶら汗を出しながら、空エツキを繰り返す、今にも倒れそうなフルート3人組に、「どうした！？」驚きながら尋ねると、あの後、椅子無し、立ちっぱなしで、長～く音を吹き伸ばすロングトーンと言う練習を、マウスピースだけで、1時間ぶっ続けでやらされたらしく、どうやら酸欠状態

の様でした。

その練習光景を想像して、思わず声を出して笑ってしまいました。

本人達は、まだ目にうっすら涙を浮かべ、いかにもウラメシそうにこちらを見ながら、空エツキを繰り返しています。

皆さんも、夏のプールや海で、大きな浮き輪や空気マットを、口で膨らませたとき、目がくらんだり、星がいっぱい飛んだ事があると思いますが、あれも一種の酸欠状態らしいのです。

それを延々と1時間もやらされたのだから、顔も青くなることでしょう。

正真正銘ブルーな状態。

「真剣に指導してくれてる証拠だから、ガンバッテヤ〜」休憩終了、再び練習へ。

私はパーカッションの所へ戻りましたが、例の隊員のことが心配になりました。

「あと1時間もつかな〜？」でも、すぐに「まーイッカ！ダメな時は本人が言うだろう。」切替が早い事も私の取り柄。

11時30分練習終了。皆、後片づけをしています。

フルート3人組も無事(?)練習を終えた様ですが、今度は白〜い顔をしています。

人間の顔ってこんなにもいろんな色になるんだな〜と、つくづく感心してしまいました。

3人ともメッチャ無口になっています。「フルートの先生」に挨拶し、感想を尋ねたところ「大丈夫ですよ〜。根気良くやって行きますから〜。」と、**とっても、とっても明るいお返事。**

3人にも聞こえているはずなのに無反応です。

「お疲れ様でした。」と先生が帰ったとたん、3人は「こ - んなきつい練習タマラン！」と口々に言い出しました。

「なんだ元気やん。」そのうち1人は「冷感アレルギー - 」で唇がタラコのように腫れています。

「死ぬかと思った。」しゃべりにくそ~。笑ってはいけないと思う時ほど、我慢できなくなってしまいます。

ゆっくり話を聞くと、休憩の後も前半と全く同じ練習を、また1時間立ちっぱなしでやっていたらしいのです。

最後のほうでは、もうフラフラで吹く力も無くなってきた3人に「ここに力を入れるのよッ！！」とオヘソの所を手のひらで、相撲のはり手の様に「ドンッドンッ」と勢い良く衝かれたらしいのです。

あとの2人は耐えられたのですが、例の隊員は手術の痕にジャストミートの大当た〜〜リ〜。 「フッ」っと意識が遠のく程の激痛が走ってから「きれいなお花畑が見えた。」と言うのです。

「また~、ちょっと大袈裟ちゃうん？」と言うと、「これ見て。」とタラコ唇は上着をめくり上げて「妊婦帯」を見せました。

そこには・・・???

「血だ - - - !」

「手術痕がまだつながってないのか？」と尋ねると、「ちゃうワイ！抜糸も終わって、もう大丈夫って言われて退院したのに、また血が出てきた - 」とご立腹。

「病院行ったほうがいいよ。」と声を掛けると、「分かってるワイ！」またまた怒ってます。

なんともオトナゲない、すぐ怒るんだから。

怒りっぽいのも投薬のせいでしょうか。（どんな薬や）

「これがキッカケで、また手術になったら4回目。これは珍しいからテレビ出れるかもな。くちタラコやし〜」と思いましたが、さすがにこれは言えませんでした。

これ以上怒らせると本当に傷口が開きそうです。

そこまで我慢しなくても、事情を説明すれば良かったのにと言う。「言える雰囲気ではなかった。」とポツリ。なんとも変な所だけは弱気な3人です。

先生にしてみれば、何も知らずに一生懸命教えてたのでしょ。

ただ少々(?) 気合が入り過ぎただけで・・・

次の練習日「本来の練習は厳しいものなのは承知していますが、彼らは全くの素人です。

ここの隊員達にいきなり本格的な事を要求しても無理ですし、まず理解出来ないで、チョッピリ手加減してやって下さい。」とお願いしておきました。

その翌月の事、この「フルートの先生」は音楽の勉強の為、数週間海外へ行くこととなり、帰国後連絡を取り合うつもりが、そのままになってしまいました。

実は、私が連絡しようとする、必死に妨害する者が3名いて、そのうち特に1名は「フルートの練習で死にたくないヨ〜！」と哀願。結局「6週間のご縁」で終わってしまい、非常に短いお付き合いでした。「先生」せっかく来てもらったのにすいませんでした。

こんな経緯が有って、今でも隊員の間で「伝説の講師」として語り継がれています。

その後、フルート3人組は、平成8年12月13日新しい「フルートの先生」が来るまでの11年間以上、ながい、ながい独学の道を辿る事になってしまし

ました。

今度の「先生」も女性。独身でしかもキレイ。

(バンザーイ、バンザーイ)

フルート奏者は女性が多いんだなー。

あっ！そうか、今ごろ気がついた。木管奏者は女性が多いんだ - 。それに比べて打楽器奏者は男が多いよな～。実際、女の子が同じパートにいた記憶がほとんど無いぞ。いててもチョット変わった子が多いぞ。「へエ - 、こんにちは。」「へエ - 、よろしくお願いします。」「へエ - 、お疲れさまでした。」「へエ - 、さようなら。」こんなシャベリの女の子が・・・。おまけに私がよく担当したドラムセットやティンパニなどは、場所を取るため、いつもバンドの一番うしろか横の外れのほう。近くにはトロンボーンやユーホニウム、チューバといったこれまた男ばかりのパートが、こちらにお尻を向けて、ウジャウジャと演奏している姿に埋もれてしまっていたような気がスッゴイしてきたゾ。

たまにステージが狭くて木管の近くの場所になっても、こちらは好意的なのに、セッティングしている時から、「うわー、ここで叩くんですか～？」「イヤー、うそでしょー？」といきなりイヤな顔をされていたような記憶があるなー。演奏してても、「カーッ、うるさいなー。」とでも言うように、ジロツてにらまれたり。いい思いしてないな～。木管楽器やってたら良かったなー。ドラムは家で練習しにくいし、場所とるし、スタンド類は気を失うくらい重いし、ドラム用のケースは高いし、ドラムセット持って電車には乗れないし、移動には普通のセダン型乗用車では無理だし、ドラムセット持ってても必ず担当させてもらえるとは限らないし、ずーっと伴奏やし、おいしい所は全部ソロ楽器に持っていかれるし、かたずけるのは時間かかるし、親には「ドラムスコ」とくだらないチャレ言われるし、なんでドラムなんかやってるのかな？・・・すい

ません、グチに力が思いっきり入って、話が全くそれてしまいました。

話を元に戻します。

「どないや、ながいあいだ待った甲斐があったやろ。人間辛抱が肝心や！ハッハッハッ」と例の「腹切り」隊員も超御満悦。

3人組は全く別の意味で練習に熱が入ってます。

ところがこの「先生」、ここ3年間で2回も骨折する「骨折女」。一見おしとやかなのだが、どうやらオッチョコチョイらしい。

でもカワイイので許しちゃいます。（やっぱり、木管やってたら良かったなー）

でも本当フルートパートは明るく、特に隊員達は練習も非常に楽しそう。

このままの状態が続いてくれればいいなと思っております。

ちなみに、音楽隊員で1年と8ヶ月の間に、左右の大腿骨を骨折した「骨折の達人」がいます。別に名前はつけてませんが皆に「大バカ野郎」と呼ばれます。

現在入院加療中。いっそのことトドメをさしてもらえ！ウソウソ、早く直して出て来いよ。

*注意：当音楽隊は変わった人ばかり集めた訳ではありません。念のため。

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その9）

「消防音楽隊です！」と言うと、「365日、ずっと音楽だけが仕事ですか？」とよく聞かれます。

手数王で有名なドラマー菅沼孝三さんにも、世界的に人気のこれまたドラマー神保彰さんにもそう聞かれ、「違いますよ。」と言ったら、「エー、違うんですか～」と驚かれてしまいました。

少し変な表現ですが、音楽隊の仕事だけをしている消防音楽隊、いわゆる専務隊は、全国で東京、横浜、名古屋、京都、神戸、そして大阪各都市の6隊のみ。ほかの消防音楽隊はすべて兼務隊です。

つまり、隊員は消防士本来の仕事が他にあって、更に音楽隊の仕事もやりますヨ - ッと言う隊です。

(多くの兼務隊では、なかなか音楽隊を仕事と認めてもらえないと言う状況も、よくある話です。変な話でしょ?)

チョコット固い話になりますが、各市町村にそれぞれの消防行政を行う責任がある事が法律で決まっています。

その方法、内容などの最低限は、法律に細かく規定があるのですが、その規定以上の行政サービス等は各市町村毎の考えで多々存在し、特色を出しています。

消防音楽隊を設置するかどうか、各々判断が分かれるところです。

ですから、消防本部に必ず消防音楽隊がある訳でも、消防音楽隊を比べても必ず同じ業務内容と言う訳でもありません。

大阪府下の状況は33(4月1日以降34)消防本部のうち消防音楽隊は13隊有ります。

(4月1日付けでもう1隊増え、14隊になる予定)

特に専務隊や大きな都市の消防音楽隊には、音楽大学や芸術大学、大学の音

楽専攻科やその他専門的に音楽教育を受け、本格的な演奏能力を身につけた人達が、音楽隊員に成りたいと思って就職して来る事もあるそうです。

(ア~~~、うらやましいな~~~)

現在、当音楽隊は38名の隊員で活動していますが、驚くなかれ、元音楽隊員は39名。なんと隊員数より多い。

(調べてみて、私自身ビックリ!!これだけ音楽隊に入隊させて、これだけ辞めてもらったのか)

そのうち6名が退職をしています。別に音楽隊が嫌で職場を去った訳では無いと思いますが。

元音楽隊員39名 - 退職者6名 = 33名と、現音楽隊員38名、計71名が音楽隊に一時でも在籍していた職員で、総職員数250名ですから、3.5人に1人の割合になります。

おまけに音楽隊員は平均年齢31才、在職平均11年程度で比較的若い職員ばかり、30才以下職員で見ると多分、半数前後が音楽隊経験者になると思います。

音楽隊を続けてもらうのも大変だけど、辞めてもらうのも私の立場上、つらい経験いっぱいです。

誤解を恐れないで言いますと、平気で無断欠席を繰り返す、辞める事ばかり考えてる、練習に来て来ても来てただけの多くの音楽隊員、「ラッパで火がきえるか!」「ラッパ買う金あったら給料増やせ!」とイヤミを言う、音楽隊を快く思っていない古参、先輩職員達、それを「かかわると損する」とばかりに静観する職員達、そしていったん舞台に出れば一般の皆さんの(演奏に対する)冷たい視線、私にとっては「敵」に感じる事が頻繁に有ります。

四面楚歌、いや16面楚歌、いやいやもったかも。

(今でも音楽隊員はある意味「最強・最大の敵」ですが・・・)

迎え撃つ「私」は、決してTVのスーパーヒーローではなく、普通の生身の人間。単なるごく普通の若い職員なのです。

1週間で1つの問題が起こり、解決、メデタシメデタシとは行きません。音楽隊の仕事だけでなく、通常業務もちゃんと(?)やっています。

音楽隊の仕事をしているのが、唯一私ひとりだけと言う所に、問題の根源があるのです。

指示をした「次長」に事情を説明しても、忙しい為そこまでフォローしてくれません。

かなりマイツてきました。特に精神的にズタズタになる事が多すぎる。そんな日々でした。

(今も時々ボロボロになります。でも今まで鍛えられた分、こちらの反撃も強力になった様です。)

脱退者1号が出たのもちょうどこの頃で、退職の挨拶に来たのを見て初めて知ったのでした。「仕事辞めるのか?」「ハイ」「楽器はどうなってる?」「さ-楽器置場にあるんとちゃいますか- - -?」「ちゃいますかって・・・」カチンとききました。

それ以外は言葉も交わさなかったように記憶しています。

楽器を確認しました。ちゃんと(?)ありました。正確に言うと数回使っただけですから、ほとんど新品の楽器がそこに転がっています。

「この楽器も、他の所に行ったら、きれいな音を出して、大事にされていただろうに」と、自分の置かれている状況もオーバーラップして、本当に情けなく感じました。

練習の方は、「ホルンの先生」が見つかりました。

昭和60年9月18日から現在も来てもらっています。「運が悪かった」と、既に観念してくれているようです。（お気の毒です。）「この人も他の所に行っていたら、もっと大事にされているだろうに」と、自分の置かれている状況もまたまたオーバーラップして、今度は「少し気が楽」になりました。

隊員達は相変わらず。「水」「肥料」ばかり、それも飲むだけで芽のでない「恐怖植物」のよう。（まさしく、SF映画の世界）

いずれ必ず必要になるので、式典用の曲目も練習に入れました。当時、友人の講師に全体の合奏を指導してもらってましたが、私も指揮の練習をしなくてはならないので、私が指揮をしている時は、「友人」は合奏中の隊員達を廻って様子を見ていました。

その日も、私が指揮をして合奏の練習をしている時、ある隊員のところで、突然「ウヒヤ〜！」と叫んでのけぞり、床に倒れてしまいました。

（決して発作ではありません。）

普通（うちの普通は、普通じゃないですが）演奏する時には譜面を見ています。

譜面とは俗に言う「オタマジャクシ」が「五線譜」の線の上や下に、音の「高さ」や「長さ」を表す様に記入され、曲の「速さ」を表す記号など、演奏に必要な情報がいっぱい書かれています。

演奏する上では、また音楽を記録し、「音」以外の方法で伝えるには、非常に便利なものです。

その隊員の見ていたものは、譜面を裏返して何もかかれていない白い方に、「レドレミソミレミソラソラレシラソミ〜」と1曲まるまるカタカナだけで書かれたもの。まるで暗号です。

ここで問題です。この曲の題名は何でしょう？

正解は・・・、今何かと話題の多い「君が代」です。

当の隊員は、「なんか悪い？」って感じです。

「友人」はこの後、興味津々。「これはどうやって吹いてるの?」「ここはどうしてるの?」「音の長さはどうやって分かるの?」「他の曲もこうしてるん?」と質問攻め。

そして最後に一言。「天才だ - ! 消防恐るべし」

そろそろ年末。年明けには消防恒例の「出初式」があります。

毎年の行事で、この業界にいる限り、切っても切れないものです。

いつ「音楽隊、出勤」の話が飛び出すかヒヤヒヤしていましたが、そんな声もなく、ホッとしました。

「よかった～。いつまで逃れられるかな? 次の年はどうなってるかな?」と思いつつ、私は、一人のゴク普通の若手職員として「出初式」に出ていました。

「君が代」「得賞歌」「行進曲」などなど、レコード(まだCDは一般に出回ってなかったのです。)は上手だな～と、妙に感心して聞き入っていました。

今思うと、これが普通の職員としての「最期の出初式」になってしまいました。

その後、あと2名、家庭の事情で音楽隊を辞める事に成ります。(これから休日出勤も多くなるだろうし、家庭の事情ならしょうがないです、私も納得する内容でしたから。自称「ホトケの河井」)

昭和61年2月12日、「トランペットの先生」が来てくれる事になり、この先生も現在引き続き来てもらってます。

「この人も、他の所に行っていたら、もっと大事に・・・」

(もうエエっちゅうねん!)

友人、ホルン、トランペット、そして私。十分ではないですが、何とか指導

の体制が出来つつあります。

ある日、例の「次長」が私の所に来て、「河井、どの楽器が一番簡単や？」
「エ？何するんですか？」（モ -、隊員だけでもややこしいのに -。何がしたいんですか！？）

「ヘッヘッヘ、ちょっとな」（ヤ - ナ感じ - ）

次回に続く！

ガンバレ、消防音楽隊！（その10）

「河井、どの楽器が一番簡単や？」当時の次長（現藤井寺市長）が、突然こんな感じで私のところへやって来ました。 「ハイ？何するんですか？」と言いながら、また～どうせ変なこと言い出すんでしょ～？だいたい、あなたが言い出したことで、私はこんなに辛い目にあってるんですよ！！分かってるんですか？！

「ヘッヘッヘ、ちょっとな」

うわ - ヤ - ナ感じ - 。

秘密で音階吹けるように練習して、俺でも出来るんやゾって隊員たちに言いたいんだろうな～。

「このユーホニウムと言う楽器は、音が出しやすいらしいですよ。マウスピースも大き目ですから。」

「おっきな楽器やなー。サクスはどうや？カッコええやないかー。」

あちゃー、隊員と同じ事言ってるよ。

比較的音出やすいけどなー。

「木管は、指使いが難しくなっていくしますので、避けたほうが無難ですよ。」

ほんとはサクスは、私も吹いたことがあって、すぐ音は出たんだけど、もし次長が簡単に音出るようになったら、隊員達が立場悪くなるだろうし。指使いや音色をマスターするのは、簡単に出来る事ではないし、ウソついてるわけじゃないよね。

「そうか。クラリネットはどうや？」

「なかなか音でませんよ。指使いも、非常に難しいらしいです。」

「トロンボーンは？」

「さっき言ったユーホニウムとマウスピースの大きさが同じですけど、スライドのポジション（伸ばしたり、縮めたりして音を出すので、音ごとの場所を覚えなければならぬのです。）がややコシイですよ。」

「トランペットは？」

「マウスピースが小さい分、音を出すことが難しいと思います。」

「よし、トランペットにしよう。」

ガクッ、この人ぜんぜん人の話しきいてないよ。

「実はな、内緒で練習して、ドレミ吹けるようになろうと思ってな〜」

「誰が練習されるんですか？」

「だから、俺が練習して、音楽隊員みんなに、俺でもこれくらい吹ける事見せてやろうと思ってな。」

「次長がですか？」

「そうだ。」

出たー！思ったとおりの大当たりだー！

「誰にも言うなよ。みんなを驚かしてやるからな。俺でも吹ける事を音楽隊員に見せつけてやる。」

「ハ～」と、私は返事して少し複雑な気持ちでした。

まっいいか。

すぐ飽きてくれるだろう。

思えば、次長はやる気のない隊員達に、ハッパをかけるつもりで、一念発起したんでしょうが、私が見た隊員達のやる気の無さは、次長が感じているレベルを遥かに越えていて、かえって逆効果になると感じていました。

これは皆さんにも想像がつくことと思いますが、偉いさんに見せる態度と、下っ端に見せる態度は、少なからず違いがあって当たり前です。

うちの場合、次長と入って4年の駆け出しとでは、その差がありすぎるのです。柏原羽曳野藤井寺消防組合は、3市の市長が管理者としていて、その次に消防長、そして次長ですから、職員から見たらメチャメチャ偉い人となります。私はトランペットの扱い方を簡単に説明しました。

私自身、次長が練習するということ、あまり本気にしていなかったのかもしれない。

この日の事をすっかり忘れていました。

数日後の昼休み時間、非常に小さい音なのですが、壊れたクラクションの様な音が、途切れ途切れに聞こえてきました。

だんだん気になってきて、耳を澄ますと、かすかにですが、とてもヘタクソなトランペットの音が鳴っています。

他の職員は気がついていないようです。

「誰かな～？本当にヘタクソやな～。」

でも昼休みに練習してくれてるのは、私にとっては非常に嬉しいことなので、嬉々として楽器置場をそーっと覗くと・・・。

「ゲッ、次長！！！！」

次長は私に気づいてないようなので、そのまま楽器置場から遠ざかりました。

「あちゃー、まいったなー。本当に練習してるよ〜」

この秘密特訓は、しばらく続きました。

そして音階もほんの少し聴こえる様になってきました。

ド、レ、ミ、ファ、ソまでですが。

さすがに音色は、相変わらず壊れたクラクション。

でもこのまま続ければ本当に隊員より上手くなるかも。

やっぱり悪かったかな？サクソにしてあげたら良かったかな？

気は引けますが、今となってはしょうがないから、放っておこうと。

1ヶ月ぐらいは続いたと思いますが、その後、ピタリ、次長のトランペットが聞こえることはなくなりました。

とうとう諦めたようです。

「忙しいだろうに、せっかく練習したんだから、もう少し続ければ良かったのになー。残念残念。でも、諦めてくれたほうが隊員を刺激することなくていいや。」

私が言うのも偉そうですが、楽器を演奏する為には、1日も休まず、向上心をキープしながら、ひたすら続けること。

これに尽きます。

30分でもいいから、毎日楽器をさわることです。

あるプロプレーヤーの人が言ってました。

「1日休むと、自分が苦しい、3日休むと人に分かる。」

それほど、シビアーなものだと。

次長がトランペットの事を諦めてから、ずいぶん経った音楽隊の練習日。 次

長が久しぶりに練習を覗きに来てくれました。

私語でざわついていた練習場も、水を打ったように静まり返ります。

演奏は相変わらず、散々な出来です。

この日も、なんとか練習を終え、隊員達が楽器を片付けている時、次長がスーッとサクスの隊員に近寄り、「**チョット吹かせてくれ。**」と言っているのが聞こえました。

「ヤバイッ！！」

「**ド、レ、ミ、ファ、ソ、・・・・・・・・ド~**」

（ありゃー、ばれちゃった~）

次長の顔が見る見る**真っ赤な赤鬼に！**

「**かわいーーーーーーーーっ！！！！**」

「**すいませ~~~~ん**」

訳言っても分からないので、次長が怒っている間、ずーっと直立不動の私でした。

次回に続くのかな~（？）

ガンバレ、消防音楽隊！（その11）

昭和61年3月、音楽隊の発足を公式に発表する日が近づいて来ました。昨年6月に始めて隊員を集めて説明し、7月に楽器を揃え、約10カ月間、隊員達と格闘してきました。

格闘の結果は惨敗の連続。

次長に呼び出されたあの日、59年9月のあの時、断っておけば良かったナ
~っと思っておりました。

正式に音楽隊を発足する時、いかにも「お役所」的な話しですが、音楽隊規
程と音楽隊内規が必要になります。

隊の組織や役割等を定める規則で、音楽隊のある所は必ず決めてあります。

早速あちこちお願いしてコピーを送ってもらいました。

いろいろ参考にしながら、規定と内規を作り、総務課に提出したところ、「せ
っかくだから、パソコンのワープロで打って、出し直して下さい。」とのお言
葉。

「パソコン？ワープロ？それなーに？どこにあるん？」今では信じられない
話でしょ？

楽器の購入の時、楽器屋さんに電話して交渉をしようとしたら、「楽器のリス
トをファックスしてください。」と言われ、「うち、ファックスないんですけ
ど・・・」と言ったら、呆れられた経験がありました。

そのあと34名分の楽器の型番をひとつずつ読み上げましたが、完全にバカ
にされていた感じでした。

その後、当消防本部はやっとファックスとパソコンを1台ずつ導入したとこ
ろで、使い方を知っている職員は、ごく限られた人だけでした。

特にパソコンのほうは、「これがパソコンか~！」って感じです。

フロッピーも紙のケースに入った5インチのデカイものでした。

もちろんウィンドウズなんて言葉もありません。

おまけに業務用のパソコンでしたので、画面には黒地に緑の文字でした。

さて、「自称パソコンをとってもよく知ってる！先輩職員」をつかまえて、
パソコン教室です。

「まず、最初に電源はココ。」

「ハイ。」

「そしてワープロを起動して。」

「これですか？ハイ。」カタカタ。

「最初はこのフロッピーをここに入れて。」

「ハイ。」ガシャ。

「シヨキカすんねん。」

「ハ〜？。」

「初めは必ず初期化をしないとあかんの！」

「ハイ？」

「なんでもええから、これ押して。」

「ハ〜イ。」カタカタ。

先生のおっしゃったとおりに操作していきます。

「キーの場所は使っているうちに慣れるから、次は終わり方の説明をするぞ。」

「文章の名前つけて、保存して・・・」

「エ？エ？エ？？？」

パソコンの電源を切り

「もう十分分かったやる。次からは自分でやれよ！分からん時はエスケープ
押せ。」

パソコン教室修了。（エ〜もう終わり？）

「もうこれ以上は聞くな！」と、無言のプレッシャーが「自称パソコンをとっ
てもよく知ってる！先輩職員」の全身から放射されていました。

いろいろ聞いたかったのですが、あまり尋ねると、怒り出しそうなので「ま
ーやっっていけば分かってくるだろう。」と、その時訳も分からず終わったので

した。

さて後日、放っておいても誰もしてくれないので、パソコンの前に一人で座り、独り言をブツブツ言いながら、バトル開始です。

「これ押して電源入れて、これ選んで、起動して、次にフロッピー入れて、初期化して・・・」どうにかこうにか見覚えがある画面になりました。

ＪＩＳ規格の文字列に翻弄されて、格闘すること丸一日、ほぼ打ち込むことが出来ました。

「ハー（ため息）、メッチャ時間かかるな～。

今日はこの辺で許してもらおう。」またまたブツブツ言いながら、「これ押して、記憶させて、ここ押して・・・」「でーきたっと！パソコンってかしこいな～。漢字いっぱい知ってるし。文章を打つのは、ＪＩＳ規格の文字列で大変だけど、少し慣れてきた。出来ないことはないやん。」結構いい気分になってその日は終わりました。

実はこのパソコンは、総務課の給料計算に使う為に導入されたもので、総務課が所管になっていますので、当然優先権的に総務課が使います。

練習場と同じく、パソコンも間借り状態ですので、空いている時を見つけて使わせてもらいます。

「前回がんばったからなー。よーしっ、今日で仕上げよう！」この時は、前回一人で出来たし、もう少しやればほぼ完成のところまで来てたので、「楽勝、楽勝」と思っていました。

またまたパソコンの前に一人で座り、今回は鼻歌混じりに、「これ押して電源入れて、これ選んで、起動して、・・・」「次にフロッピー入れて、初期化して・・・？」アレ？初期化って、いつが初期なん？初期って最初の事やんな～、最初は何の事をさしてるのかな～？先日の「パソコン教室」で、「初め

は必ず初期化をしないとあかんの！」と言われたことを思い出しました。

「エイ！実行。カタカタ、ポン！」

前は気にしなかったのですが、フロッピーの事でしょうか、画面に四角い絵が出てきてます。

初めは緑の色が付いていたのですが、四角の上のほうから、スーッとだんだん白くなっていきます。

すごい不安になってきました。止めようとして、「エスケープ」をカタカタ止まりません。

全てのキーを押してみたって言うぐらい色々押しました。

やっと止まりました。

そしてジャ～ン「初期化完了！」の堂々とした表示が出てきました。

(キーを操作して止まったのではなく、初期化が完了するまであちこち押してたんです。)

とにかく、次へ。前に打ったファイルを呼び出して・・・？アレ???

ない！なんにもない！！あちゃーー

苦労して打ったのに。初期化ってそういう意味だったのか、トホホ。ひどく落ち込みながら、また最初から打ち直しです。

こんなことしているうちに、時間が流れ・・・、

昭和61年4月1日、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊が正式に発足いたしました。

当消防組合の例規集には、昭和61年規程第1号として「音楽隊規程」が今も変わらず載っています。（私を変えてないので、変わる訳がない。）

同じ日付の人事異動で、音楽隊発足の準備期間が終わった私は、本署救急隊の隊長として9時から5時の毎日勤務から、24時間勤務の隔日勤務へと異動しました。

この日、音楽隊をつくれと指示した次長（現藤井寺市長）は、消防長に就任しました。（会社で言う社長みたいなもんです。）

「やっと、正式に発足したな〜。」私は感慨深くこの日を迎えたのでした。本人にとっては非常に意味のある日だと思っていました。

でも、人事異動以外は昨日と何も変わらない日でした。

「ここまではしんどかったな〜。でももう大丈夫。これからは少しは楽になるだろう。

今までとは違って、演奏の事だけを考えていけばいいことになるだろう。

また救急隊に戻る。ガンバロー！！！」

期待に胸を膨らます26歳の春でした。その後の事も知らずに……………

次回、「**ショック！出席者ゼロ**」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その12）

NO PROBLEM！ 順風満帆とまでは行かなくとも、これまでの苦勞が報われ、これからは軌道にのって……………

自分が非常に甘い考えを持っていた事を思い知らされることとなります。

音楽隊は、通常、隊長、楽長、その他の隊員で構成されます。

隊長は、音楽隊に関する全ての責任者として、特に運営面での責任者としておかれ、多くの場合、音楽隊の事務担当係を所管する課長職が、隊長をされている事がほとんどです。

音楽隊の音楽的な事、演奏上の責任者として、音楽隊員の中から隊長が選ばれます。

隊長が音楽隊の責任者として任命されている隊も見受けられます。

我々の音楽隊の発足に際しては、隊長だけは必要要素として、絶対に決めて下さいと、幾度となく強く消防長（現藤井寺市長）に要望していました。

最終的には「俺が隊長をする。」と消防長が言い出しました。

「それではダメです。消防長は消防組合全体の責任者ですが、音楽隊の細かいところまで、全てに目が届くはずもなく、事務担当係を決め、その課長職が相当だと思います。」

今まで何度も言った事を繰り返し述べるだけでした。

これも今まで何度も見てきた様に、消防長の顔がだんだん赤くなってきました。

「そろそろ来るぞ！」と思いました。

「俺が隊長や！文句あるか！！！」

「ありゃ～。」こうなっては議論にもなりません。

「なも怒んなくたって～～～。話してるだけなのにー。まったく大人げないんだから。」と思いました。

数年経ってから聴いた事ですが、消防長は各課長を集め、消防音楽隊の事務所管を依頼したらしいのですが、この時点では、（今もですが）海のものとも、山のものとも分からない「音楽隊」を担当する事に難色を示したらしく、受け皿が決まらなかったらしいのです。

当然そんな事も知らない私が「正論」を述べるので頭にきたようです。

(しかし私は、以後、何年も隊長の決定を消防長に迫ることとなります。)

体制としては、隊長の設置が期待できない中で、音楽隊の運営上の責任者の存在として、1番クラリネット奏者で年長者の北田氏を副隊長に。

私以外で唯一の吹奏楽経験者である香川君を副楽長に推薦しました。

私は行きがかり上、音楽演奏の責任者として楽長に成りました。

但し、すべて辞令や書類上の処理はなく、事実上、私が決めて消防長の承諾を得、私が口頭で各人に伝えるだけ。

しかし指名された人たちも、「何のことかな?」と、ただただ困惑しているだけのようでした。

結局、事務担当係もなし、隊長も決めてもらえず、外部発表は隊長不在の発足になってしまいました。

つまり、事務は引き続きお前一人でやれという事です。

この事により、準備の日々から現在に至るまで、事務的な事は私が対処しています。

どこへ異動しようと、階級、役職が変わろうと、私が異動する時は多量の音楽隊関係書類を持って新しい職場へ行くという事が続いています。

そこでは必ずしも音楽隊に理解の有る上司ばかりではなく、露骨にイヤな顔をされる事も有ります。

事務担当係が決まらなかった事、隊長が決まらなかった事が「音楽隊は仕事でない。」という意識を、消防組合全体に決定的に印象付けました。

昔の人は言いました。

「最初が肝心！」

さて、この季節になると毎年あちこちの消防署で見かける風景があります。

オレンジ色の服を着た職員が、炎天下のもと、暑さにもめげず、訓練に励んでいます。

(あの隊員達の頑張りには本当に頭が下がります。みんなガンバレ!)

毎年行われる「消防救助技術練成会」俗に言う「救助大会」に向けて頑張っているのです。

以前にもお話しましたが、当消防組合は、全国消防救助技術大会(いわゆる全国救助大会)にも地方大会を勝ち抜いた多くの職員を選手として出場させ、「救助の柏羽藤」と言わたこともある程に、この消防組合の名を売っているところですよ。

ですから、この時期、この消防署では上層部も、中堅職員も「救助大会」一色になってしまいます。

若年層の職員で、体力に優れている者は「大会出場者」へと引っ張りダコの状態です。で、私はと言うと、救助大会も関係なく、当然救助隊でもなく、消防隊でもない(救急救命士制度の出来る前の)救急隊で、まったく消防の業務と思われていない「音楽隊」の唯一の担当者です。

消防署全体が「音楽隊」の事を忘れていたような感じさえありました。

だからって、もう練習をしなくて言い訳ではありません。

年間10回、20回の出演があっても、1回の出演しなくても、(まだ初演奏の予定もないですが)練習は一年中継続しなければなりません。

こんな状況に乗じて、多くの隊員が平気で無断欠席を繰り返しました。

誘い合って欠席するものや、中には3ヶ月以上も練習にこない隊員もおります。

「辞めさせれるもんなら、辞めさせてみる。」そんな感じでした。

以後、最大の難問として存在する事ですが、音楽隊の準備段階から平成8年

4月1日まで、実に11年間、音楽隊の練習は仕事として全く認められていませんでした。

(この件に関しても何年間も幾度となく消防長と交渉し、ぶつかります。)

30数名にひとりひとり電話連絡します。「練習に来るように・・・。」

非常にバカバカしい事ですが、これでもしないと、音楽隊など消えてなくなりそうです。

今思っても、あのまま放っておいたら、音楽隊は一時的にでも消滅していただろうと思っています。

電話攻撃、FAX攻撃、口頭攻撃・・・、しかし誰一人真剣に受け止めてくれるものはいませんでした。

やり切れない、むなしい気持ちいっぱいでした。

ここまでやってても、本当に36名も隊員がいている音楽隊なのか？練習出席者は、毎回7～8名集まればまだ良いほう。

わざと私に聞こえるように「ラッパで火事消えるか！」「楽器買う金あったら給料増やせ！」音楽隊を快く思っていない古参職員が嘲笑います。

かなり後で分かった事ですが、「音楽隊は、河井が自分の点数稼ぎに消防長に進言し、多くの職員を巻き込んでいる。」「音楽隊の業務の全てが、河井の昇進、昇格のためのものだ。」という見方が有ったようです。

穿った見方をするもの、またそのデマを真に受けるもの。

実際、先輩職員に「お前は上役の機嫌ばかり取りやがって！」と、多くの職員が見ている前でなじられた事も有りました。

私には意味がさっぱり分からず対応に困ってしまいました。

しかし、そんな見方も関係なく「単純に音楽隊を快く思っていない」人のほうが圧倒的に多かったです。(今も結構いますヨ)

そんなある練習日。

いつものように、私は開始時間の9時30分までに、練習場の用意をして隊員を待っていました。

3人の講師の先生が時間どおり到着しましたが、まだ誰も来ません。

先生達に待ってもらいながら、私は外へ見に行ったり電話したり。

30分経ち、40分経ち。でも誰も来ません。「すみません。すみません。すみません。」先生達を前に謝るしことしか出来ない私でした。

とうとうこの日は、誰一人として練習場に現れる事なく、時間だけが流れていきました。

11時30分、ひとりで最後まで隊員を待ちました。

練習場を片付けて、当務明けの重い体で帰路につきました。

私も24時間勤務の隔日勤務で、なお且つ、本署救急隊の隊長。

当時は救急隊の数も今より少なく、毎日10数件の出動がありました。

今でも24時間で18件の救急出動の最高記録保持者だそうです。

まったく仮眠もなしで、当務明けの非番日音楽隊で指揮を振る。

そんな日々を送っていました。

自宅に帰るとそのままベッドに倒れこむ日々が続きました。

精神的にも相当参ってきて、仕事以外の日は、職場の人間と付き合いをしなくなっていました。

積極的に避けていたというほうが正しいのかも知れません。

パートリーダーとして長年続けてきた「社会人吹奏楽団」も、なんとなく興味がなくなってきました。

軽度の人間不信と言えはいいのでしょうか、「吹奏楽」や「管弦楽」のように多人数で音楽を創っていくことが、他人に関わる事が大変苦痛になって来ま

した。

反面、自分の存在を確認したかったのか、昔やっていた、ごく小人数で気の合う人だけで出来る「バンド」の活動を再開ドンドン傾倒していました。

馬鹿正直に正義感・使命感・忠誠心を貫き、そのために心と寿命を切り売りしているような感じのなか、自嘲と屈辱だけが自分を取り巻いているようです。

完全に悲劇のヒーロー状態です。

(お許し下さい。26才の未熟者ですので。)

でも、何故この時辞めなかったんだろう？気が弱くて言い出せなかったのかな？不思議です。

「救助大会」が終わっても、状況はたいして変わりません。

夏の旅行などに夢中です。

練習には、来ても10人前後。

相変わらずダラダラ練習と長い休憩。

先生達の言う事も聞きません。

「救助大会」が終わるまでは我慢していましたが、いくら温厚で気が長く、鈍感な私でももう限界です。

決めました。

「全員、引きずり出してやる。」

次回「**反・撃・開・始(！？)**」です。

ガンバレ、消防音楽隊！(その13)

いつまでも皆の好き放題、やられっぱなしではこちらも面白くありません。

無理矢理でも音楽隊の出演を入れて、練習せざるを得ない状況に追い込んでやる。

もっとよい方法があったのかも知れませんが、これしか思い付きませんでした。

出演当日の演奏なんかどうでもよい。

音楽隊員も含め職場全体の意識を少しでも変えさせる事が目標でした。

ダメで元々。これ以上悪くはならない。絶対に。

吹奏楽を続けていた事や、社会人吹奏楽団に在籍していた事から、少しは顔を知られるようになっていた私ですが、これからは消防音楽隊の指揮者として音楽に携わるのだから、全くのイチから出直そう。

大恥をかくのは自分自身である事も充分承知していました。

そこで目を付けたのは、毎年9月23日に行われている「藤井寺市民まつり」です。

この時点からほぼ8週間の時間が有ります。

やってみなくちゃ分からない。

でも、どうやって出演の段取りを付けるのか、この時は全然分かっていませんでした。

市役所に問い合わせ、「市民まつり実行委員会」なるものがあって、そこに話を持っていく必要が有る事を知りました。

8月のある非番日の夜、「市民まつり実行委員会」の会議が有るということで、いきなりお邪魔しました。

既に何回目かの会議で、結構細かい打ち合せが行われている場面に「すいませ〜ん。パレードに出たいんですけど・・・」実行委員のメンバーの方々は、

突然の侵入者に「あんた誰？」って感じです。

「消防音楽隊で、パレードに参加させて頂きたいのですが、どうすればいいですか？」「じゃー、そこで待ってて。」打ち合せの邪魔になっているようです。

会議は出展者のテントや、ステージスケジュール、演技内容の確認、資材の調達など。

熱心に、楽しそうに、無駄無く、皆さんボランティアのようですが、テキパキ打ち合わせが進んでいきます。

「市民まつりって、こうやって組み立てていくんだ〜。」その様子を見ていて、市民まつりに行った事すらない私にとり、非常に驚きを感じたのを今でも憶えています。

随分待たされました。

「何でしたっけ？」

(ガクッ)

やっと声を掛けてもらいました。

「消防音楽隊の者なんですが、市民まつりでパレードに参加させてもらいたいのですが。」

「パレードの係は今日来てないよ。」

(ウッソー)

「係には言っておくけど、パレードの打ち合せは、別の日だから出直してよ。」

(オイオイ、早く言ってくれ〜。)

一打席、三振アウトで終わってしまいましたが、一応話は通して来ました。

(と、良い方に勝手に解釈します。)

さー残るは最大の難関、消防長にOKをもらわないと出演出来ません。

でも、ここさえ乗り越えれば、出演はほぼ「決定」です。

「消防長、藤井寺市民まつりのパレードに出ようと思っているのですが、よろしいですか？」

「おまえ、そんなん出来んのか？」

(ウッ！それは聞かないで。)

「準備段階から1年経ちました。正式発足もして数ヶ月、そろそろ本番を経験させないといけません。」

「何をするつもりだ。」

「パレードに出演するつもりです。」

「出来るんか？」

この時点では、まだ2曲しか練習してませんでした。「大脱走マーチ」と例の「イエスタディー」のみ。

それも満身に演奏できていない状態です。

おまけにパレード演奏ですから、隊員全員が、演奏曲を曲を丸暗記してなければいけません。

ちなみに「イエスタディー」はスローバラードですけど、これで強引にパレードしてやるつもりです。

「今練習している2曲で、ほんの500mほど歩くだけですから、その2曲を交互に演奏して、あとはドラムマーチでつないでモゴモゴモゴ・・・」

「フーーン。で、段取りは出来るんか？」

「ハイ、市民まつり実行委員会と言うところが有りまして、様子を尋ねたところ、とっても良い感触で、先方も是非、是非出演してもらいたいとおっしゃってました。」

(ア～ア～、言っちゃた～。超拡大解釈。実行委員会の方には、多分こうい

う風に言って大歓迎してもらえる予定です。たぶん！きっと。自信はないですけど・・・)

「でも、出来るんか？」

「やってみる価値は有ると思います。」

「そうか。なら後は任せる。」

難関突破！

よほど心配らしくて、何回も「出来るか？」尋ねられました。

でも、「出来ます！」なんて絶対言えません。

だってどう考えたって、そんな簡単に出来る訳ないでしょ。ね～皆さん、そう思いませんか？

そして後日再び、「市民まつり実行委員会」の打ち合せにお邪魔しました。

「今日はパレードの打ち合わせが有りますよね？パレード係の方いらっしゃいますよね！？」また前回のようになってはたまりません。

「はい、パレード係はあそこにいます。」

(よかった)

「こんにちは！消防音楽隊の河井です。」

「はい？」

「大変お世話になります。よろしくお願いします。」

「なにがです？」

「聞いてもらってないですか？」

「はい。」

またいちから説明します。でも、答えは

「吹奏楽関係は、もう既にたくさん出演が決まっていますし、パレードの予定団体数も限りがあって・・・」

(マズイ！)

「たくさんいらっしゃるのなら、もう一個増えても大丈夫でしょ？」

(初対面で無茶な理論です。)

「消防として音楽隊を発足させましたので、是非市民の皆さんにお披露目をしなくてはいけないと思っています。」

「そうですか～。」

無理矢理納得してもらいました。

「では、パレード出演者の方々と一緒に打ち合せしてもらいますので、こちらへどうぞ。」

そこで始めて出演団体の名簿を見せてもらいましたが、知り合いの団体が2、3有りました。(当日は顔を合わせないようにしようっと。)

パレードの関係事項は、毎年行っている事なので全部調整が終わっていました。

ただ、消防音楽隊が予定されていなかっただけです。

時間関係、集合、待機場所、出発合図、パレード順序、駐車場、団体プロフィールの提出などこちらが聞きたい事はほとんど分かりました。

消防音楽隊の実態を尋ねられても、本当の事を言えず困りますので、もう長居は無用です。

さっき受け答えしてくれた人にとっても小さい声で、「これで失礼します。」相手の答えも聞かないうちに、さっさと引き上げました。

さて、とりあえず出演は決定しました。

起案処理をして、完全に既決事項として全員に通知してしまえば、一応覆す事は難しくなります。

その書類を作成していると、「音楽隊に出演依頼が来てるぞ。」と当時の消防次長（現消防長）に呼び出されました。

次長には報告してなかったので、藤井寺市民まつりの件まだ知らないんです。

消防長も「俺が隊長や！」って言うんなら伝えてくれればいいのに。

でも？市民まつり実行委員会が出演依頼をくれたのかな？そんな話してなかったのに随分気が利くな～。

そそくさと引き上げて悪い事したな～。なんて反省してしまいました。

「河井です。お呼びですか？」

「うん。演奏依頼の話があって、先方から打ち合せに来たいと連絡してきてるが、お前、いつ予定空いてる？」

（？？？もう打ち合せしてきましたヨ。もう一回するの？）

「パレードですか？」

「違うぞ、式典らしい。」

「エッ、パレードでしょ？」

（市民まつりって式典も有るのかな？）

「お前、なに言うてんねん。」

（いやいや、次長こそなに言うてんねん）

「富田林土木事務所長から、9月18日の外環状線国道170号線の式典に音楽隊出演依頼があったんや。」

（あつりゃ～～～、参った。別件だ！それを先に言ってよ。市民まつりより早い。しかも5日しか違わない！ヤバイ事になったぞ）

「いつ予定空いてる？」

（上の空で、）

「いつでもどうぞ。」

(もー、どうにでもなれっ！)

次回「出演予定の効果は？」へ続く

ガンバレ、消防音楽隊！（その14）

期せずして、出演が2件重なってしまいました。

1つは、自分で段取りした9月23日「藤井寺市民まつり」、もう一つが飛び込みで入った9月18日「外環状線、国道170号線クリーン月間式典」。

完全に予定外です。

国道の管理を行っている大阪府富田林土木事務所から打ち合わせに来られました。その内容は、式典曲の嵐。

「ファンファーレ」、「君が代」、「表彰曲、勇者は帰りぬ（通称、得賞歌）」や時間つなぎの演奏が2曲ほど。

今から間に合うかどうか不安材料テンコ盛り！

ひととおり打ち合わせが終わってから、「とにかく出来たばかりの音楽隊ですから、とってもとっても下手なんですよ。いいんですか？」

「出ていただけるだけで結構ですので、よろしくお願いします。」

ほんとの事なのに。知らんで～。

「いやいや、違うんです。ほんとーっくに下手なんですよ！」と一生懸命説明しますが、「とんでもない。来てもらえるだけで・・・」

ほとんど会話がかみ合わない状態です。どうもこちらが謙遜していると思っ

ているらしい。

「謙遜してるんじゃないくてっ・・・。」

「いえいえ・・・」

この人全然本気にしていないヨ。当日ビックリするで～～。

「ところで、」一番気になっていたことを尋ねました。

「うちに音楽隊が出来たのをどちらで聞かれたのですか？」

「はい、富田林市消防音楽隊に出演の打診をしたところ、こちらに音楽隊が出来たと聞きまして。」

実は隣の市があので「花火大会」で有名な富田林市で、そこには3年ほど早く消防音楽隊が発足していました。

知り合いもありましたから、音楽隊のことなど、いろいろ教えてもらってました。

そうか、そこから漏れたのかー。別に秘密じゃないけど。口止めしといたら良かったなーと反省していました。

5日違いで2件の出演となってしまいました。

「市民まつり」に使う予定だった2曲は使い回しで、あとは「式典曲」の練習をしなくちゃならない。

初出演なのに、間に合うかな？こりゃ大変だ！とにかく、この事をみんなに知らせなければ。

出演者は音楽隊全員。使用曲数は、全レパートリー4曲+新曲ファンファーレの5曲。当時としては、もう完全に能力オーバーです。

最初の予定では「パレード」の2曲だけで済んだのに。

全隊員の所属にFAXで送信しました。

みんなはどう思ったかは分かりません。

次の練習日。

半分強の約20人が集まりました。

講師の方も「今日は多いですね、どうしたんですか？」と聞いてこられます。

今までがそれだけひどかったんです。

簡単に事情を説明すると、「それは大変ですよ。」

(分かってますって。)

みんなの前で出演内容を説明します。隊員達は無駄口もたたかず静かに聞いています。

(静かだとかえって話づらい。)説明が終わると今度は質問コーナー。

内容はパレードの事ばかりでした。

私にとっては、パレードはメチャ心配、式典はメチャクチャ心配。

「それって、僕らが歩くんですか？」

「当たり前でしょ、パレードだから。」

「エ〜〜ツ」

「なに演奏するんですか？」

「だから、「大脱走マーチ」と「イエスタデイ」の2曲。曲の間はドラムマーチでつないで。」

「それ演奏しながら歩くん？」

「当然でしょう！」

「エ〜〜〜ツ」

「歩きながらどうやって演奏するんですか？」

「だーかーらー、演奏曲を完全に丸覚えしてもらいます！」

「エ〜〜〜〜ツ」

こいつら子供か！まるで幼稚園児やな〜。プリントにして家にもって帰らす

ぞ！！（保護者にハンコ押ししてもらってくるとか。）

静かに聞いているかと思えば、せっかく説明しても「頭脳」まで内容が届いてない。

ここからは、手取り足取りの指導になりました。曲を「憶える」前に演奏出来るようにしなくては。練習には毎回20人程度集まるようになりました。

ほんの少しですが、練習風景らしくなってきました。まーいつまで続くかは分かりませんがネ。

既に、この時点で目標は達成されていました。

指揮者としては言っではいけない事かも知れませんが、この時は「本番」はどうでも良かったのです。

練習さえしてくれれば。

そのうち、意外なことに「歩く練習がしたい。」と隊員から要望が出てきました。

旧庁舎では屋外にスペースがなかったので、間借りしていた会議室で、パレードの隊形になり、「その場足踏み」で練習しました。

パレード中は指揮者の「笛」や「指揮杖」（あのヒラヒラのついた長い棒です。）で「合図」を出しますので、これも隊員達に憶えてもらう必要があります。

1つ目の「笛」で演奏準備、2つ目で演奏開始などなど。

みんなで会議室で、ノッシ、ノッシ。

知らない人を見ると「変な団体」です。

ほとんどの隊員はまだ楽譜片手に演奏してます。

ただ、三分の一はほとんど演奏できてません、あと三分の一ぐらいは吹いている格好だけのようです。（クチパク大会ちゃうで。）

でも、見逃しておきます。練習に来るだけでも大きな進歩です。

この時、一番困ったのが、やはり「ファンファーレ」でした。

どこかの執行猶予中の元知事ではないですが、「パンパカパーン」と短いほうが、我々には扱いやすいものです。

当時は1曲しか「ファンファーレ」の譜面を所有してなく、少々長い「ファンファーレ」でした。

新たに探している時間も無いので、しょうがなくこの「ファンファーレ」を使用する事にしました。

練習中、合奏しても、まともに演奏出来る事は1回も無く、とうとう9月18日になってしまいました。

集合時間に続々と音楽隊員が集まってきます。まだ演奏服が無かったので消防の制服での演奏です。

今は消防署のマイクロバスで移動するのですが、当時はこれもやはり無く、何台かの車に分乗して現地へ。

打ち合わせに来られた大阪府富田林土木事務所の方と挨拶します。

「本日はお世話になります。宜しくお願いします。」

「式典の途中で司会者が、音楽隊の紹介をしますので・・・」

(オイオイ、聞いてないよ～。)

「そんなに気を使ってもらわなくて結構です。」

「せっかく来てもらってるんですから。」

(余計なことしないで、そっとしといてくれ。だいたいあなたが呼んだんでしよう?)

「いや、そんな気を使ってもらわなくても。」

「もうチャント原稿にも入れてますし。」

(ア～ア～、参ったなー。)

二人で話す姿は、喫茶店のレジ前で、支払い伝票を奪い合うオバチャンのようです。(「私が払うって~。」)

「その時、河井さんは来賓の方々の方を向いて一礼して下さい。」

(たのむ！それだけは許してくれ~)

演奏場所は、特設のテントの中。外は珍しくどしゃ降りです。

来賓席に消防長の姿発見!!!

(ウハ~。来賓になってるんだ。知らなかった。)

でも、消防長は、我々にプレッシャーを与えないようにか、自分にプレッシャーを与えないようにか、わざとこちらを向かないようにしているようです。

司会者のアナウンスが入ります。

「ご来賓の皆様にご案内申し上げます。間もなく開式となっております。ご着席の上、いま暫くお待ちくださいますようお願い申し上げます。」

(出来れば、そのまま2年くらい待ってくれませんか、ダメ?)

隊員の一人が「トイレ行きたいっす。」

「時間がない、我慢しなさい。」

「皆さん、大変ながらくお待たせいたしました。ただ今より……」

次回「初本番、スタート!」です。

ガンバレ、消防音楽隊!(その15)

「皆さん、大変ながらくお待たせいたしました。ただ今より……」

あ～あっ、はじまっちゃった～初本番！

無駄口は大得意の隊員達も神妙な顔付ですが、中身は分かりません。

「では、国歌斉唱を行いますので……」

一番目は式典の定番「君が代」です。

出席者が起立しています。

さー行くぞ！

初の演奏でしたが、なんとなく「君が代」に聞こえるかな～でした。

出席者の反応は「？,なんか変。」って感じです。

この式典の主旨説明や主催者、来賓方のご挨拶があったあと、次は感謝状の贈呈です。

表彰式の後ろで、静かに流れている例の曲です。

「それでは　　さま、前へお進みください。」

ソーミーファソード……

なぜかフルパワーです。

まるでボリュームの壊れたテレビの様です。

静かに、静かになって合図しますが、そんな調整できる技量は有りません。

「感謝状、　　殿、あなたは……」って言っているのが、何にも聞こえません。

口がパクパクしか分かりません。

出席者の数人がうるさそうにこっちを見ている視線を感じます。

いよいよ、なんとか「宣言」って言うやつです。

「……を宣言します。」って偉い人が言ったら、間髪入れずにファンファーレを演奏しなければなりません。

「宣言」する人が、宣言しちゃいました。

長い、辛いファンファーレが始りました。

出席者の反応は「ヤッパリなんか変だ！」と気づいたようです。

会場中には？マークがイッパイ飛んでます。

はやく終われよって聞こえそうです。

もし、？マークが見える物なら、「前が見えないぞー」って言われそうなくらい会場イッパイに？が飛び交ってます。

足元にも積もってることでしょう。

この後に、音楽隊の紹介が有ります。

応用力のない司会者が、これまた原稿どおりに読みだしました。

「本日の式典に、素晴らしい演奏をさせていただいているのは、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊の皆さん、指揮は河井さんです。」

ちょっとアドリブきかしてよ。

せめて「素晴らしい」ってのは削除して欲しかったな~と思いながら、一礼をするため振り替えます。

そこは極寒の世界。

ペンギンが流水にのってそうぐらい冷え冷えしています。

さっぶ~！

凍えそうな寒い視線が痛いです。

消防長は知らんぷりで、無関係を装っています。

拍手がパチ、パチ。

片手で数えることが出来そうです。

「ヘタクソやなー」って全出席者の顔に書いてあります。

出来るだけ急いで、元の方向に向き直りました。

その後暫くして式典は終了。

出席者が会場を出るまで演奏します。

まー聞いている人などいませんから、気が楽ですが。

消防長は、何か声を掛けてくれるかなって思っていたら、逃げ出すように、一番に帰っちゃいました。

怒ってるんだらうなー。

演奏も終わり。ハ〜〜とため息。

振り替えると、向こうの方から、富田林土木事務所の担当者の方がこちらに来ます。

その顔は、困ったような、笑ったような、怒ったような、とにかくなんて言ったらいいのか分からない顔をしています。

「今日は有難うございました。」

「お世話になりました。下手な演奏ですいませんでした。」

ねー、だから言ったでしょう。

どうだ、参ったか？（威張ってどうすんねん！）

「いえいえ。（沈黙）では、失礼します。」

あれっ、本当に言葉が出ないようです。

余程ショッキングな演奏だったんですね。

かわいそうに。

隊員達は何事もなかったような明るさで、さっさと片づけています。

やれやれ。

消防本部に到着して、数秒で隊員達は誰もいなくなりました。

まずい演奏と分かっていて、指摘されるのが嫌で帰ったのかな？とっていました。

先に帰っている消防長の所にも、顔を出しに行きます。

「消防長、今帰りました。」

文句いわれるのが当たり前とっていました。

文句いわれるほうが、音楽隊員には、これからのプラスになるとも思っていますし、私自身も気が楽になります。

「あ～、ご苦労さん。」

エッ、終わり？なんかないの？上手いとか、下手とか。

(この場合、上手いはないですけど。)

消防長が無反応だったので、よけい疲れてしまいました。

翌日は、金曜日。

練習日です。

出席者は約半分。

昨日の演奏に、少しはこたえたかな？って思っていたが、全く影響なし。

なんとも思っていないようです。

そのような神経が無いんです。

合奏の前に昨日のことを話しましたが、誰も聞いてません。

消防長も何も言わなかったなので、その事も言えません。

参ったな～

3日後の「藤井寺市民まつり」の練習もしなくてはなりません。

今度は2曲だけですが、丸暗記して演奏しながら歩く訳ですから、安心できません。

でも、メッチャ簡単な譜面ですし、縮小コピーでもしてカンペっていう方法もあるんで、どうにかなるだろうとっていました。

再び、みんなで会議室で、ノッシ、ノッシ。

パレードの隊形になり、「その場足踏み」で練習しました。

意外でしたが、指揮丈の合図も分かってくれているようです。

「どう？行進できる？」

「なんとか大丈夫です。」と非常に良いお返事が返ってきますが、この良い返事を聞くと、非常に不安になります。

そして、その不安は見事に的中します。ユリ・ゲラーもビックリ！

(今、考えるとハズスほうが難しい。)

次回、「伝説第2弾、幻の入場行進」です。

(次も寒い話です。風邪ひきそう)

ガンバレ、消防音楽隊！(その16)

昭和61年9月23日(火)、秋分の日、快晴。「藤井寺市民まつり」。

記憶では、とても暑かったと憶えています。

当時の消防本部からは、歩いて約10分の市民グラウンドが市民まつりの会場でした。

一応、予定時間どおりに音楽隊員は集合しました。

しかし、集合しただけで、わざわざ楽器を出して、ウォーミング・アップなどしてる隊員は皆無だったと思います。

運動をする場合は、アップなしでいきなり運動する事はない職員達ですが、楽器を演奏するために、アップするという事に馴染んでない、発想が連動していない、という感じです。

これも回数を重ねればその重要性が分かってくるでしょう。(たぶん。)

楽器は、2 tトラックに積んで、運転してくれる隊員と私は、その車両で、隊員には歩いて会場まで移動してもらいます。

演奏服は、5日前と同じ、やはり消防の制服です。

私は会場に先に到着してから、関係者の方々と最終的な打ち合わせがあります。

現在も、出演当日は、現地入りしてから最終打ち合わせが待ってて、出番ギリギリまで走り回っていることも、しばしばあります。

予定時間が、押したり、巻いたり、頻繁に変わる時などは、ステージに上がった時には、息が切れていて喋れないなんて事もありました。

この日は、走り回る事はなかったんですが、隊員がちゃんと会場に到着するか心配していました。

全員いてるかなぁ～？遠足で引率する先生の心境でしょうか。

集合場所の市民グラウンドには、市内中学校のブラスバンド部が3つと藤井寺市民音楽団が先に到着していました。

よく見ると、ある中学校のブラスバンド部の顧問は、私の知り合いの人でした。

そして、藤井寺市民音楽団とは、以前所属していた社会人吹奏楽団で共演したことも有り、ほとんどのメンバーが顔見知りです。

(そのときのことがきっかけで、私のファンの女の子も数人いたと聞いた事があるのですが、こうゆう形での再会になるうとは・・・)

覚悟はしていましたが、非常に辛い状況です。

出来るだけ目立たないように、目を合わさないようにしていましたが、扱いが悪いと言ってもまだまだ新しい楽器を持っている、制服を着た大人ばかりが30数名いますので、おとなしくしていても、自ずと目立ってしまいます。

中学生達なんか、思いっきりこっちを見てます。(こっち見んなよー！)

市民楽団以外の中学生達は、我々と同じようにパレードするのですが、演奏時間が迫ってきたので、音を出して準備に入りました。

その後、演奏曲を合わせておさらいをはじめています。

それを見ている（聴いてる）隊員達は、口々に・・・

「オー、カッコええがな～。」

「負けてんの～。」

「よし、俺もいっぺん吹いたろ。ピエ～～～」と、中学生の方を向いて、吹く隊員や、それを見て笑いながら「お前吹いたらカッコ悪い、止めとけ、止めとけ。替わりに俺が吹いたろー。プ～～～～」

と、ふざけ出す隊員達。

全く緊張感の片鱗もないご様子。

これから一緒にパレードするんやで！分かってるんかいな？でも、あまりにも幼稚で、注意する気にもなりません。

ヤレヤレ。

音楽を好きで、楽器が好きで演奏している中学生達の表情は、以前いろんなバンドで演奏を楽しんでいた、消防音楽隊をする前の自分に重なり、懐かしく又羨ましい限りで、寂しく感じました。

それも音楽隊をする事で辞めてしまったようなものでしたから。

さて、入場行進は、予備集合した市民グラウンドの外へ一回出てから、隊形をつくり、演奏しながら入ってきます。

市民グラウンドのすこし離れたところから、入り口をとおり、露店が両側に並ぶ通路を通過して、特設ステージの前の整列場所まで、約400メートル。

普通に歩いても6分前後、ダッシュしたら50秒(?)って距離です。

沿道に人がいないスタート地点では演奏もせず、ただ歩いて、そろそろ聞こ

えるかなって所から、演奏しました。

いや、するつもりでした。

さー、スタート時間です。

「ここから、演奏するから！」と、声を掛けてました。

「エ~~もうやんのか？」

「もっと、歩こうやー」

音無しパレードで、口々に文句言ってます。

いったい何しに来てん。

ごちゃごちゃしてるうちに、会場入り口には、すぐそこに迫ってます。

「アカンの！ちゃんと吹いてや。最初ドラム頼むぞ~！」

1曲目は「イエスタディ」です。

スロー・バラードで行進するっていうのも、少し無謀ですが、出来ない事はない。練習場では、一応、皆出来てました。

合図の笛を吹きました。

ドラムが、これも合図になっている「ロール・オフ」

(ジャジャン、ジャジャン、ジャ~~ン、ジャジャンって、やつです。)

を叩きました。

予定どおりに済んだのは、ここまでだけ。

その次に曲が始るはずだったのですが、????????????誰も吹きません。

ヤッパリ！

「おまえ等、ちゃんと吹けよ！」と怒鳴ってしまいました。

もう一度やり直し。

今度は何人かだけは、吹いてます。

ギリギリまで近くなってから演奏しようと思っていたので、このまま入り口に突入してしまいました。

会場内は、さっきより人が増えてて、イッパイです。

(さっきまでは、もっと人少なかったやん。)

露店の間を、抜けていきます。

パレード・コースの両側は、人の顔、顔、顔。

演奏は2曲目の「大脱走マーチ」になりました。

演奏と言えるか、どうか。

逃げ出したくなるような演奏です。

楽器に口を付けているだけの隊員も沢山います。

この日のパレード出演団体の中では、一番難易度の低い演奏曲を、ポロポロに演奏しながら、歩きました。

先に行進して入場している中学生も、自分達の整列場所に到着して、こちらを興味津々で見っていますが、少年少女の「期待」を完全に打ち砕きました。

でも、止める訳にはいきません。

パレードを続ける以外に選択肢は無いのです。

我々の整列場所の手前に、藤井寺市民音楽団の席があって、手拍子をしています。

その前を通らないと整列場所に行けません。

多分、入場してくる全ての団体を、同じように手拍子で迎えていたのだと思いますが、そちらをチラッとだけ見ると、全員こちらを見てみんな笑っているように見えます。

別に音楽団の人が悪いのでなく、それほど酷い演奏なのです。

応援してくれてる手拍子が、余計辛い。

音楽団の前を通過し、整列場所へ。

全身から冷や汗が吹き出た時間でした。

整列場所も、中学ブラスバンドのとなりです。

私は前方直視で、横も見向きも出来ませんでした。

「しんどいな〜。」「あつつ〜。」「腰痛いわ。」隊員達の声が聞こえてきます、しかも自分達の演奏時の音より大きい声で。

セレモニーのようなものが若干あって、すぐ解散になりました。

知り合いに捕まらないように、急いで会場を引き上げました。

予想を遥かに越えた、想像以上の出来です。

消防署に戻ってからも、「ポケーーー」と放心状態の私でした。

数日後、当時の総務課長に呼び出されました。

もう、次の出演の話です。

「これ〜、音楽隊出なきゃ駄目なんですか？」

「当たり前や！」

「これ〜、もう決定事項ですか？」

「もう決定してると聞いているぞ！」

「エ〜〜〜（嫌だなー、こんな時だけ勝手に決めて!）」

「なにか問題でもあるんか？」

「問題だらけですけど！（そんなんも知らんと勝手に決めたくせに！だいたい音楽隊の演奏、まだ聞いたことないでしょう!）」

またまた、憂鬱な日々です。

次回、「幼稚園児に挑戦！」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その17）

ズタズタの状態の音楽隊に、もう次の出演が決っていました。

「これ～、音楽隊は出なきゃいけませんか？」

これが、第一声だったと思います。

消防組合主催の「藤井寺市防火パレード&幼年消防クラブ、婦人防火クラブ
結成式典」でした。

（うちの消防が主催？）

今度の内容は、（簡単に言うと）消防としても、火災予防思想の普及、啓発
のため、一般の方の団体にも、ご協力いただくということで、当消防組合とし
ては初めての試みで、結成の式典等に音楽隊も出演するものでした。

音楽隊の内容は、駅前周辺のパレード演奏と市民会館大ホールの舞台演奏と
いうもの。

舞台では「有名私立幼稚園」の園児も演奏するらしいです。

既にこの時点では、私などの意見が入る訳も無く（この時点でなくても、意
見聞いてもらえる事はないのですが）、どうしようもありません。

しかし、当時の音楽隊の状態を思うと、自ずと声が出てしまいました。

藤井寺駅前の大型スーパーの前から駅前商店街のアーケードを通り、市民会
館まで1キロ強のパレード演奏。

そのまま大ホールでの式典に、ファンファーレをした後、約20分間の舞台演奏です。

現在でも、結構きついな～って感じですが、当時の演奏能力からは、どこをどう考えても無謀でしかありません。

たった400メートルのパレードでさえ出来なかったのに、そんな事もどう考えているのでしょうか？何も考えてないようなこの計画は、無責任そのものとしかしいようがありませんでした。

「買い物のお客さん達はいてるんですよね？」

「道幅が狭い商店街のアーケード内で、パレードが安全に出来るんですか？」

「道幅が狭いからって、通常3,4列で行進しているのを、2列でなんか、隊列が長くなりすぎて演奏出来なくなりますよ。」

「パレードに警備の係は付けてくれるんですか？」

「パレード演奏って、今の音楽隊にそんな1キロ強も出来ないと思います。」

「パレード終わってすぐファンファーレでは、音が出るかどうか。」

「あの会館の大ホールの収容人員って1,000人以上でしたよね。いっぱいになるん予定ですか？」

「この幼稚園は、演奏がすごく上手なんですよ。そこと音楽隊が同じ舞台上に演奏するんですか？」

「まだ満足に演奏できないのに、恥の上塗りになるだけですよ。」

「これって、本当にやるんですか？もう変更の余地はないんですか？」

思ってることの十分の一も言えない性格の私は、半ば呆れながら総務課の部屋を出ました。

「なんでこうなるんだか。魔法でも使わないと無理だっつうの！」

実はその時、私はもう一つ期限に追われる仕事を抱えてました。

これも全く私の知らないうちに、音楽隊のユニフォームをつくる予算が確保されていたのです。

それも正式に指示があったわけではなく、「ユニフォームつくるらしいな～」って他の職員から尋ねられて初めて知ったのでした。

とにかく事実を確認しておかなければなりませ「消防長。いままで知らなかったんですが、音楽隊のユニフォームをつくる予定があるんですか？」

「そうや。」

「今の状態では、制服はまだ早いんじゃないですか？」

「音楽隊に頑張ってもらいたいと言う気持ちと、励みになると思って予算取っていったんやぞ。」

「そうですか。ありがとうございます。あの～、それって、もう誰かが考えてくれてるんですか？」

「ほかに誰がつくってくれんねん、はよつくれよ！」

職員の誰もが、音楽隊のことは関わらないようにしている事が、ここでも現れています。

でも、はよつくれって言われても、これから調べて練っていかなくては。

少しでも音楽をやったことがあるという人は、たぶん膨大な数にのぼると思いますが、その中でユニフォームを一度でも作った事のある人は、本当に少ないと思います。

他の音楽隊の演奏を聴く機会も、ほとんど無いのにどうすればいいのか？

今では、インターネットで考えられそうな団体のホームページに次々アクセスして、写真などを見れるでしょうが、当時は演奏場所に出かけるか、了解をとってカメラ片手にお邪魔するか、取扱い業者の方をお願いするか。

(第一、取り扱い業者が分からない状況でした。)

既製品がほとんど無い世界らしいです。

だからこそ、各チームの個性を出せることも事実です。

想像するに、いわゆる「お役所」の音楽隊ですので、色は「紺」か「白」で、ブレザータイプというところが、誰でも考え付く、無難な線でしょう。

それが分かっているけど、でも、なんかそれでは能がなくて「すこし違ったカラー」を出したいと感じていました。

そう思っても経験の無いこと。

消防組合の中に相談できる人はひとりもいません。だいたい私自身、演奏時の服装は黒服に蝶ネクタイでしたから。

マーチングをやっている音楽団体なんてとても少なく、全く手がかりが無い状態でした。

そもそもマーチングという演奏形態は、アメリカンフットボールのハーフタイムショーとして発展してきた経緯があると聞きます。

広いフットボール競技場にいろいろなフォーメーションで、文字や絵等を描きながら、どんどん隊形を変化させてゆくのです。

私たちの音楽隊がそのようなことが出来るとは、思っていませんし、実際、現在においても、さまざまな制約等があり、マーチング（ドリル演奏）には着手出来てません。

当面その予定も無くなりました。

それでも、少しずつ資料を集めて自分なりに検討していきました。

ただ、その資料が本場アメリカ等の国外のチームや、国内でも大学生チームのものが大半でした。

それらは、派手派手か、メチャ渋のユニフォームです。

そして、ある日。

「消防長。音楽隊のユニフォームの件ですが、いま、時間よろしいですか？」

消防長、無言でコックリ。

「冬服、盛夏服、合服とを考えてます。」

「ふ〜〜ん。ほんで？」

「冬場には、出初式が毎年、絶対ありますので、ネクタイを着用出来るようにブレザータイプを、夏場は開襟タイプの半袖がどうかと思ってます。合服は上着のみづくり、ズボンは盛夏服と兼用出来ないかと考えてます。」

「何色にすんねん。」

「はい。決め兼ねていますが、冬用のブレザータイプは白がきれいだと思います。

半袖は落ち着いた赤とか黒を主にして、なにかデザインできないかと思ってるんですが。」

全くお気に召さなかったようです。

前消防長をまたまた怒らせてしまいました。

ありゃ〜。

ある程度、イメージや考えが有るようなので、前消防長に決めてもらう事にしました。

最初から話して貰ってたら苦労も無かったのに。

「冬服は紺のブレザータイプ、夏服は白で開襟タイプ。合服は夏服とズボン兼用で検討。」

は〜っ。

形式はどうであれ、今回は明確な指示をもらえたとし、目に見える「物」ですので、音楽隊員の演奏指導に比べたら、「屁のカッパ」です。

あとは私の思うスタイルの付属品などを決めたら出来上がり。

事務手続きは契約、発注など通常物品と同じですから。

納品までは、ゴタゴタした事もイッパイありました。

東京の会社から、付け忘れていたボタンだけをつけに社員が来られたり、その会社の社長が直々お詫びに来られたりした事もありましたが、「防火パレード&幼年消防クラブ、婦人防火クラブ結成式典」には、何とか間に合いそうです。

こんな経緯で音楽隊のユニフォームが決定しました。

この時決ったタイプが現在も、当時のスタイルのまま使われています。

一度ユニフォームを決めるとなかなか変えられるものではありません。

さてユニフォームは出来ても、演奏が出来なくては何もなりません。

反ってユニフォームがあるほうがカッコ悪い事だってあります。

ユニフォームが無くて、演奏が出来るほうがずっと良い。

さー、また音楽隊員みんなに説明して、練習させなければいけません。

気が遠くなります。

音楽隊の業務を担当しているからと言っても、同じように他にも通常の仕事を持っていますし（普通はこちら、通常業務だけでいいんですけどね。）、他の職員と同様に成果を上げるべく日々の業務に臨んでますので。

数日後の練習日。次回の出演内容を説明しました。パレード、ファンファーレ、舞台演奏・・・。

隊員達は一斉に

「そんな無理や～！」（ごもっともでございます。）

幼稚園児の演技も話すと、

「エ～～～、イヤや～～！」

（幼稚園児と同じような返事しか出来ません。）

「幼稚園児の演奏に負けないように頑張ろうな。」

「絶対負けるよ。勝てる訳ないやん。」（分かってます。）

「断って～な～！」

ブーイングの嵐。演奏の本番でもその元気が欲しいところです。

「もう決定事項だから、やります！」

ブーイングの大合唱になってしまいました。

（ヤレヤレ私も一度そちら側に座って文句言いたいヨ）

次回も、「新レパートリーは??？」です。

おまけ：「ガンバレ、消防音楽隊！」もお蔭様で「第17話」にもなっていました。

相変わらずの、低い国語力で申し訳ありません。

月日の経つのは早いもので、1年って本当にアっという間、去年の最終掲載でもこの1年を振り返っておりました。

その時は「Y2K問題」が心配されていました。

我々は大晦日から出勤して備えてましたが、比較的大きな被害も出ずに過ごせましたね。

「ミレニアム2000」と騒いでたことに比べ、今年の方が静かな気がしますが、私が知らないだけでしょうか？

先日、前消防長とお話する機会がありました。

毎月このコーナーを読んで下さっているらしいです。

有難うございます。

発足当時と同様、楽器経験者が皆無に近い状態のままなので、なかなか思うようには上達しませんが、前消防長が作られた「消防音楽隊」は、隊員一同、今でも15年以上前の「命令」を守り、頑張っております。

このコーナーでは、前消防長抜きでは「消防音楽隊」は語れないし、第一音楽隊自体存在していない訳ですから、自ずと登場回数が多くなってしまいます。

大変無礼な表現も多々ありますがどうかお許し下さい。

そしてこれからもご指導よろしくお願い致します。

年末恒例になりそうですが、この一年間の活動状況を紹介します。

1月 7日(金) 柏原羽曳野藤井寺消防組合消防出初式

1月 9日(日) 藤井寺市消防団消防出初式

1月10日(月) 平成12年羽曳野市成人式

4月 5日(水) 藤井寺市交通安全市民大会

5月 5日(金) はびきの市民フェスティバル

6月30日(金) 羽曳野警察管内防犯協議会総会

7月16日(日) 第15回「大阪の消防大賞」発表会

9月24日(日) 藤井寺市民まつり

9月25日(月) 藤井寺市交通安全市民大会式典

10月29日(日) 羽曳野市農業祭

練習回数 1回3時間 52回

累計出演回数 143回

今年一年の出演で演奏した曲目

ドラえもん / とんりのトトロ / 水戸黄門のテーマ / 大岡越前のテーマ / 名探偵
コナンのメインテーマ / YAYA ~ あの日を忘れない / イエスタデイ・ワンス

モア－ / 青春の輝き / 錨を上げて / 慰霊の歌 / 踊る大捜査線 / 川の流れのよう
に / 君が代 / 北国の春 / 北酒場 / Gメン 75 / 巡閲の譜 / スター・ウォー
ズ・メインタイトル / スリー・ファンファーレ / セブンス・ファンファーレ /
太陽にほえる / 探偵物語 / 得賞歌 (勇者は帰りぬ) / はぐれ刑事純情派 / 雷神
 / マイ・ウェイ / ミッション : インポッシ / ブルルパン 世のテーマ / バック・
ドラフト /

昨年もお話しましたが、まだまだ満足に演奏出来ませんし、出演数も少なく
って皆さんに聞いて頂ける機会が十分ではありません。

演奏曲目のバリエーションももっとも必要ですし、練習時間も全く不足
しています。

しかし、「市民の皆さんに少しでも喜んで頂ければ。」

「災害や事故で被害に遭われる方が少しでも減れば。」

この大きな目標のため、これからも努力していきたいと思っています。

大阪市消防音楽隊をはじめ府下消防音楽隊の皆さん、神戸、尼崎、西宮、名
古屋、京都、横浜、川崎、広島、北九州、富山そのほか全国の消防音楽隊の方々。

これからも当音楽隊を宜しくお願いいたします。

来年4月、神戸でお会いしましょうね。

高久荘太郎先生、竹平寿一先生、小田淳子先生、辻本剛志先生、伊勢敏之先
生、岡田明子先生、高見真理子先生、稲垣正司さん。

本当にいつまで経っても満足な演奏もできない、不出来な音楽隊ですが、嫌
がらずお付き合い下さって感謝しております。

神保彰さん、菅沼孝三さん、ミッキー東野さん、萩原尚さん、Mr ロバート・
ナン、Mr ソニー・エモニー、岩崎修三さん、水内栄一さん、相木 淳さん、井坂
昌彦さん、・・・。

今年もまたまた私個人的にたくさんの方々に直接お会いして、いっぱいお世話になった一年でした。

皆さんには大変感謝致しております。

有難うございました。

そして、昨年と同じ事になりますが、柏原羽曳野藤井寺消防組合音楽隊隊員の家族の皆さん。

旅行に行けない、休みがない、不自由な想いをされている事と思います。

非番や休日、土曜、日曜、祝日等ばかり、出演や一年中継続して行う練習日が重なってしまう事をお許し下さい。

皆さんの理解、協力と支えがあるからこそ、我々は活動を続けられるのだと感謝しています。

さて、とうとう20世紀にも「お別れ」と「お礼」を言う時が近づいてきました。

新しい世紀に突入します。

一生忘れることの出来ない「出会い」や「別れ」があった一年でした。

昨年の今ごろには全く予想もしてなかった自分が、いまここにいます。

その事に私自身大変驚いています。

大変偉そうで恐縮ですが、いくら新世紀になっても、たとえ「時」が経っても、それは、過去から脈々と続く「流れ」が変化しているだけだと思っています。

現在の「気持ち」や「心」「志」がその「流れ」の中に残っていくことを強く願っております。

それでは皆さん、よいお年をお迎え下さえますようお祈り申し上げます。

MERRY X'MAS

&

HAPPY HAPPY NEW CENTURY!!

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

FIRE MAN'S BAND

CONDUCTOR & DRUM MAJOR

FIRE CAPTAIN YOSHIFUMI KAWAI

ガンバレ、消防音楽隊！（その18）

あけましておめでとうございます。

新世紀になってしまいましたネ！チョット前まで「世紀末、地球滅亡」なんて騒いでたのに。

当柏原羽曳野藤井寺消防組合音楽隊の、21世紀最初の演奏曲目は、「ツァラトウストラはかく語りけり」。

あの超～有名な映画「2001年宇宙の旅」のメインテーマと言ったほうがわかりやすいでしょうか？

（サルがこん棒にしていた木を投げると、それが「モノリス」と呼ばれる物になるシーンとか・・・）

新世紀を予感させるには、相応し過ぎる選曲でしょう？ハマリ過ぎて、気恥ずかしい程です。でも「今」演奏しないとイケない、「旬」の曲ですから。

演奏はともかく、気分だけは荘厳に。

さー「新世紀、新世紀」と騒いでも、現実的には「1つ」歳をとっただけなんですけど、これからどんな事が待っているんでしょう？

私は、プライベートな部分で、新境地に進んでみようと密かに思っています。私自身をリニューアルするために。

そう言えば、この「ガンバレ！消防音楽隊」のコーナーも、筆者も含めて、そろそろリニューアルが必要な時期かな？

(誰か、私の代わりに引き受ける人いてませんか？)

でも、1年後、3年後、5年後、・・・本当に私達はどうしてるんでしょうね？

(GOD KNOWS !!) 願わくば、明るい未来でありますように。

消防組合主催の「藤井寺市防火パレード&幼年消防クラブ、婦人防火クラブ結成式典」。

イヤだ、イヤだと言っても、避けることは出来ないの、演奏曲目を決めて、さっさと練習にかからないと時間が有りません。

パレードは、アメリカ海軍の「海兵隊」と言う曲を、やさしく編曲してある譜面を使う事にしました。

他の消防音楽隊にお願いして、短くて使いやすいファンファーレも教えてもらいました。

問題は、初めての「舞台演奏」、しかも20分間。困りました。

ステージなんて当分の間無いと予想してましたので、選曲から考えなければなりません。

客層はお子チャマからご年配まで。

正直言って、「どないせーちゅうねん」って感じです。

当日、舞台上で順に演奏する「有名私立幼稚園」の演奏曲とは、絶対にかぶら

ない様にしなければ。

とりあえず、「幼稚園」に偵察に行こうかと。

(とほほ、情けない。) 担当者に探りを入れると、即座に返事をくれました。

「大丈夫や。完全に負けてるから。幼稚園のほうは、消防音楽隊の事なんか、気にもしてへんで~。」(やっぱりなー。)

偵察する必要も無いようです。

どうせ今から決めるんだから、隊員に演奏曲目の希望があるか尋ねてみました。

その結果、当時テレビCMに使われていた歌謡曲「翼の折れたエンジェル」と「アニメ主題歌タッチ」と言う2曲が希望として出てきました。

要望が有るならと、即採用。

あとはアニメ路線で「ドラゴンボール~日本むかし話」のメドレー曲にしました。

完全にお子さま狙いの選曲です。

(何が幼稚園児に受けるのか分からないので、アニメ攻撃になりました。決して「有名私立幼稚園」の皆さんに媚びようなんて気はありませんよ、すこししか。)

しかし、音楽隊には何を選曲しても、大変なことには変わりはありません。

すこしでも、音楽隊員が練習しやすいように、私の卒業した高校のプラスバンド部をお願いして、模範?テープを録音しました。

頼みに行ったとき、非常に怪訝な顔をされたことを憶えています。

隊員達はその「テープ」を聴きながら、楽譜とニラメッコです。

意外に苦労したのが「ドラゴンボール」と「日本むかし話」の主題歌でした。アニメ好きな隊員には好評でしたが、その他の隊員は今一つの反応です。

私自身もどんな曲かは知らなかったのですが、放映時間にテレビの前に座り、主題歌だけを聞くこともしました。

アップテンポに細かい音符がたくさんある「ドラゴンボール」と、高い音で始まり、きれいで丁寧な演奏を要求される「日本むかし話」が、当時の音楽隊には非常に高度な楽譜だったのです。

隊員達も頑張ってくれてはいるようですが、練習中、演奏が空中分解してしまう事も度々で、このままでは「本番」でも失敗しそう。

先日の「市民まつり」の再来か！それだけは避けなければ。

ん～～ん。仕方がない。使いたくはなかったけど、最後の手段です。

「あの一、先生。一緒に出演してくれますか？」

先生達の反応も三者三様です。

「私、出ますの？私、出ますんやね？はいはい、分かりました。」

「エ～！俺出んの～？ヒィヤ～！キャハハハ。」

「他の方が出るんだったら、いいですよ、僕は。」

とにかく、押し切ったかたちですが、出演してもらう事になりました。

(あー、良かったー)

これで演奏が空中分解することだけではありませんでした。

先生達の音に引っ張ってもらってるだけなのですが、先生3人が入っただけで、音楽隊の演奏は数段上手に聞えます。

と、言うか先生の音しか聞えないと言うか。

(流石プロだけのことはあります。先生の力は絶大。)

音楽隊の演奏服も、いろいろトラブルはありましたが間に合いました。

演奏服を初めて着て、大きな舞台へ。

実質的に消防音楽隊の「晴れのお披露目」です。

演奏服は、紺色のブレザータイプです。

まだ演奏出来ない隊員は別ですが、「特別な事情のない限り、音楽隊の出演には、全隊員を出演させる。」と言うのが、私の基本的な考え方です。

当消防音楽隊の場合は、必ず誰か仕事で、全隊員を集めることは苦勞するのです。

(音楽隊だけやってる専任隊や、人事的に配置が考慮された消防音楽隊ではそんな心配が無いのですが、うちの場合は隊員の9割以上が、消防車や救急車に乗っている泊りの仕事ですので。)

そんななか、実際いろいろな考え方があるので、完璧な方法はないと思いますが、この考え方は、当時も、今現在もほとんど変わってません。

当時、やはり、まだ演奏出来ない隊員が数名おりましたので、その者は出演者から外しました。

この外した隊員の演奏服を、先生達に着てもらうのですが、

「私ねっ、帽子ねっ、入りませんねん。」

「なんやこれ？ズボン下がってくるなあー。」

「僕、手が、手が出ない。でも何とかします。」

サイズまで考えて隊員を外してる訳ではないので、先生達に少々のごことは我慢してもらいました。

ある日、パレードに「華」を添えてもらう為に、管内の私立女子高校をお願いして、バトントワリング部が音楽隊の前を行進することになりました。

(決して私が発案した訳でも、なんでもありません。私の知らないうちにそうなったんです。お間違いなく！)

この話を聞いたその日、

「女子高校にお願いに行くから、お前も来い！」

って言われて、あまりよく分からないまま、上司の課長と二人で向かいました。

(なんでもこちらが知らないうちに決ってるんだから。)

「女子校」なんて、入るの初めてです。

別に意識しなければいいのですが、やはりすこし緊張してしまいます。

「女子校 = 女の園 = 楽園 = パラダイス！」という公式が子供のころから染みついてます。

意識してないつもりでも、平常心ではなくなるのでしょうかね。

建物は学校だから特に何も変わった所は無いのは分かっているのですが、知らず知らずキョロキョロしてしまいます。

こちらは消防の制服を着ているので、目立つと言うか、周囲から浮いてると言うか、変と言うか・・・。

職員室の前の廊下で顧問の先生にご挨拶してから、バトントワリング部の練習している体育館へ。(職員室や体育館って懐かしい響きです。)

体育館は、土足厳禁で、靴を脱がなくてはなりません。

ここへ来て、急に課長の落ち着きが無くなりました。

あっちへ行ったり、こっちへ来たり。かなり慌ててます。

むしろ「狼狽」に近い感じです。

本人が理由を言わないので、私にはさっぱり何が原因か分かりません。

(尋ねてはいけない雰囲気。)

課長もすぐ来るだろうと、私は靴を脱いで靴下のまま体育館の中へ。

いきなりピンクのトレーナーに白のスコート姿の女子高生が20人ほど、目に飛び込んできました。(ゲッ!ビックリした。)

すぐ来ると思った課長が、なかなか来ません。

???どこ行った???

ピンクのトレーナー軍団と私1人の、異様な空間になってしまってます。

しばらくしてやっと課長が、体育館内に響くような大きな、明るい声で「すまん、すまん。」と入って来ました。

(なんでそんな急に明るい？無駄に声大きいし。)

でも、なぜか「はだし」です。(あれ課長、靴下は？訳わからん人やなあ~。)

バトン部員の一人が我々に「スリッパ」を持って来てくれました。

課長は、スリッパを履いて、更に超ご機嫌です。

(だから、なんで「はだし」なん？)

顧問の先生が、「みんな・・・」と部員達に大まかな説明をしました。

次に「はだし」の課長から挨拶と今回の主旨説明。

この課長、気さくで、根はいい人なんですが、女性の前になると、俄然ハリキリマンになってしまいます。

話がなが〜い。胸の前で手を握ったポーズで話す癖があります。

(説明が難しいので読みながらやってみてください。ミズオチのところでは左手のひらを上にし、その上に右手のひらを置きます。

そのまま少しだけ左右に手をずらし、左右互いに親指以外の指で他方の指を握ります。最後に両肘を張れば出来上がり。演歌歌手のバックで「ワワワワ〜」って歌ってるスタイルです。分からない？すいません、忘れてください。)

消防の制服姿、濃紺の上下に白カッターに濃紺のネクタイ。手は「ワワワワ〜」で、足元「はだし」じゃ、知らない人が見たら「ちょっとアブナイ系」。

(滑ったギャグを、更にギャグで補おうとして滑りっぱなし、さっば〜。)

やっと、私も紹介されてご挨拶。

「消防音楽隊の河井です。よろしくお願いします。」

約3秒で終わり。

後日、行進曲の録音テープを渡してクラブ中に練習してもらい、あとはブツケ本番で音楽隊の演奏で行進です。

顧問の先生と部員達にお礼を言って体育館を引き上げます。

靴を履くとき、課長、おもむろにポケットから靴下を取り出し、履き始めました。（靴下に穴でも空いてたんかな？）

次の瞬間、私は目が「点」になりました。

「はだしのハリキリ課長」の一連の不可解な行動の理由も分かりました。

原因は「5本指の靴下」

私は生まれて初めて見たので、口も開いてたかもしれません。

「俺な、すっかり忘れてたんや。スリッパ有るんやったら、はよー持って来てくれたらええのになあ。せやろ？あの靴下じゃカッコ悪いしなあー」

あのね課長。「5本指の靴下」もカッコ悪いでしょうけど、制服姿に「はだし」もどうかと。

我々が帰ったあと、たぶん「女子高生」の人気者になってると思いますよ。（いろんな意味で）

「河井よ、この靴下ええねんぞ〜。」

（知らんがな。）

次回「いよいよ本番！」（あまり過大な期待しないで下さいネ！FROM 楽長）

ガンバレ、消防音楽隊！（その19）

消防組合主催の「藤井寺市防火パレード&幼年消防クラブ、婦人防火クラブ

結成式典」の当日になりました。

昭和61年12月1日、天候曇り。

寒くはなかったと、記憶しています。

パレードが中止になる雨を期待していましたが、そんなにうまくいきません。

小雨では決行されるので、本格的に降ってもらわないといけないし。

集合場所は、藤井寺駅前の大型スーパーの駐車場。

我々は、消防本部で出来たばかりの演奏服に着替えて、現地に向かいます。

演奏服の着方が分からないで困る隊員も数名いました。

この日は「紺のブレザー」タイプ。

今も同じデザインの演奏服を使用していますが、肩章にレニアード（肩からつける飾りの紐のこと）、ベルト、手袋等々。

付属品がいろいろあります。

「これ、どうやって付けるんですか？」

出演してくれる先生達も、付属品の付け方が分からずオタオタ。

出発の前から混乱している隊員を連れて、集合場所へ車に分乗して出発。

そこには、パレード参加者がソロソロ。

消防団関係者、幼年消防クラブの幼稚園児達や婦人防火クラブの方々、そして「ピンクのトレーナー」を着たバトン部の女子校生。

「思ったより、参加者が多い。」その時の印象でした。

私は、恒例の本番前の打ち合わせです。

隊員達は、今回は先生達がいるので、あまり緊張していない様子。

（前回の市民まつりも緊張してませんでした。）

「パレード参加者は、パレードの隊形に整列して、スタート地点まで移動して下さい。」

進行係からの案内で、音楽隊も整列します。

先頭は、「防火パレード」って書かれた横断幕。

プラカード、バトン部、音楽隊、市長や消防長、消防団長などの主催者、消防団、有名私立幼稚園の幼年消防クラブ、婦人防火クラブ・・・と言った構成です。

当然音楽隊は演奏しますが、有名私立幼稚園の園児も太鼓を演奏しながら行進するらしいです。

スタート地点にスタンバイしてからが、すごく長く待たされたように思います。知り合いが、通らないようにと、ハラハラしてスタートを待っていました。

随分待たされたあと、急に「パレード出発！」と声が掛かりました。

進行係も不慣れで、事前に知らせるなんて配慮は全く有りませんでした。

「エ？エ？エ？」って言う感じです。

「はよ、行け！」こんな声を掛ける職員もいたような。

(一応こっちにも、段取りがあるんです！)

音楽隊が演奏しなかったらパレードは始らないんだから、ヤイヤイ言うなって。

今でも、いつも皆に掛ける言葉が有ります。

「では、本番です。行きます！」

藤井寺駅前の大型スーパーの前から駅前商店街のアーケードを通り、市民会館まで1キロ強のパレード演奏。

たった400メートルのパレードでさえ出来なかったのに、音楽隊にとっては、無責任な企画がスタートします。

私が演奏開始の合図の「笛」を吹こうとした瞬間、「ストッパー！」(ガクッ)

「もう少し前に移動してから、整列し直してから出発するから。」

(また整列すんの?)

ころころと変更されます。(事前の打ち合わせイランで!)

演奏なしで再び前進。また、待機です。

あまり待ちが長いので、この時点で、パレード後の舞台演奏の音楽的なこと
でなく、体力的なことが心配になってきました。(バテないかな?)

先生にも気を使います。

さー、やっと「スタート」の声が掛かりました。

気を取り直して、演奏開始です。

とても上手とは言えません。変な音も聞えますが、先生達が入っているお陰
で、市民まつりとは比べようの無いほど、安定した演奏です。

パレードで非常に気になったのは、先頭の横断幕を持った2人の消防職員行
進。音楽隊演奏のテンポは全くの無視。

1.66拍に一步ぐらいのテンポでズーッと行進してます。

中途半端な宇宙遊泳のコントを見ているよう。

見ないようにしようと思うんですが、目に付きます。

こちらのテンポがおかしくなりそう。

道幅の狭い商店街アーケードに突入です。

道幅イッパイ、イッパイです。

一般の人と接触しないか、ヒヤヒヤしました。

どうにか市民会館に到着。

ハーもうクタクタ。

一部の隊員と先生達は余裕の表情。

隊員達でチャント演奏してた人は、疲れた顔をしています。

楽屋に入り、すぐさま、大ホールでの式典に、ファンファーレの演奏用意です。

パレード集合場所で楽器を降して、楽器のケースは積んできたトラックに載せてましたので、職員の手で楽屋に運んでもらっていました。

我々より古い先輩職員です。

今でも仕事と理解されるのが難しいですが、当時は「音楽隊は仕事」とは全く思われてなかったので、「なんで、俺が、下の奴の物運んだらなアカンネン！」って言う考えが蔓延してました。

音楽隊員が取に行く時間が無いのが分かってもえません。

音楽隊は出演者、出演しない職員はスタッフの関係が浸透してません。

ファンファーレはトランペットやトロンボーンなどの金管楽器だけで演奏します。円陣状になって、楽屋で最後の音合わせと合図の確認をしていると、そこメガケてケースを投げるように置いていきます。

しまいには、わざわざ打ち合わせ中の円陣の真ん中を歩いて行く職員が。

ケースも持ってないので「おかしいな？」とっていると、楽屋の鏡で自分のヘヤースタイルを直す為だけに入ってきたのでした。

先輩でも、さすがに黙ってられません。

「チョット、気を使ったらどうやねん！」

すぐその先輩職員に呼び出されて、反撃の文句を言われます。

(分からんやっちなあー、気分悪る！)

隊員の気が散らないように、なにも無かった顔をして、ホール内にスタンバイ。ファンファーレの演奏です。

ホール内は、7割以上入っているようです。

客席の左右の壁側には、空席のゾーンとして予め予定されていた様で、参加

各団体の旗を立ててあります。

上手いコトしたなって感じです。

ファンファーレは一発芸みたいなものなので、外すと途中修正出来ません。

あ～あっ、予想とおり、外してしまいました。

会場では式典が行われていました。

次の出番まで、ここですこし時間が空きます。

再び楽屋へ。

なんかいろいろ有りすぎて、この時点で既に、ダウン寸前です。

式典の次は、知らなかったのですが、テープにあわせたバトン部の舞台演技、「有名幼稚園」の演技・演奏、婦人防火クラブの演技、最後に消防音楽隊の演奏だったと思います。

私は楽屋で水分補給。ペラペラ喋っている隊員の中にも、神妙な顔つきの隊員がいます。

先生達は、楽屋の廊下にあるソファのようなセットで、軽く音鳴らしや、譜面の確認をしています。

私は、目立つ服装ですが目立たないようにホールへ。

進行係があてにならないので、出番までの時間予想の為です。

式典が終れば、後は演技中に大きなトラブルが無い限り、時間予想が出来るからです。

式典が終了しました。

隊員達に出番までの予想時間を連絡します。

隊員達は「よっこいしょ。」って感じです。

「はよやって、はよ帰ろうな～。」なんて勝手なこと言ってる奴もいます。

そういう事は、一人前に演奏出来るようになってから言いましょう。

バトン部の演技が始りました。

テープは間違えないので、演技し易い様です。

この時、始めてマトモにバトンの演技を見ました。

いつも見ているようで見てなかったんですね。

さー、「幼稚園児」の方々の演奏です。

保護者の方も客席に来ています。

「エイ、エイ、ヤー！エイ、エイ、ヤー！」

かわいい声が、元気に響きます。これだけで。拍手。

でも、ここの幼稚園は、演奏も上手です。

子供たちは、のびのび演奏しています。

「いいなあ～。音楽隊員も、これぐらい素直だったら、すぐ演奏出来るのに。」

最後は、脚立を消防のハシゴに見立てて、ハッピー姿の幼稚園児が駆け上り、ハシゴ最上段のヒモを引っ張ると、大きな赤文字で「火の用心」と書かれた垂れ幕が伸びました。

それに合わせて、園児全員が大きな声で「火の用心！」と言って終了。

テレビ出演者が言っている事らしいのですが、「子供と動物には、勝てない！」企画も、演奏も完敗です。

会場も拍手喝采。

私も拍手。

幼稚園児恐るべし！

婦人防火クラブの演技が始りますが、私も、舞台そででスタンバイしなければいけません。

隊員の人数を確認して、舞台そでから、演技を見ます。

しかし、この後に及んで、まだ曲順や、自分の座る場所を確認しにくる隊員

もいて、バタバタしている間に演技が終わってしまいました。

楽器と譜面、譜面台を持った音楽隊員と、演技が終了した人達が、舞台そで
で入れ替わり。

時間が少し押してしまったので、司会の「今カンダ・ユウタ」(?)が、ス
テージのどん帳の前で「つなぎ」をしています。

音楽隊演奏用の椅子を並べてもらう舞台準備に時間が掛かり、「ネタ」が尽
きたようで、「まだかーい?」「まだ、でけへんのかいなー?」

と、カンダ・ユウタがマイクで言い出しました。

なんちゅう、司会や!チャンとつなげよ!

いよいよ本番です。

私は、みんなに声を掛けます。

「本番、行きます!よろしくお願いします!」

次回、「初の舞台演奏とその後」です。

会館スタッフの声が掛かります。

「舞台照明落ちまーす。」

「客照消えまーす。」

「ハイ、どん帳上がりまーす。」

ガンバレ、消防音楽隊!(その20)

以前にもお話しましたが、私は中学生のときから、バンドでドラムとヴォー
カルをしていました。

高校生になってから吹奏楽部に入り打楽器に、平行してバンドも続け、社会人になってからも社会人吹奏楽団で演奏をしつつ、自分のバンドを組んでいました。

(実はもっと小さいとき、6、7歳のときかな？ピアノを習っていたことがあり、郵便貯金会館の舞台で発表会に出た事もあります。発表会で一人でピアノ演奏したあと、演奏後の事を聞いてなかったので、ずーっとピアノに座ったままで、皆を慌てさせ、会場を沸かせました。でも、ピアノ教室では周りが女の子ばかりで凄くイヤだったものです。男の子が私ひとりだけしかいなく、珍しかったのか、先生はいつも特別扱いをしてくれて、練習の後必ず先生と二人でケーキを食べさせてもらってました。本当はそのこともイヤだったので、小さいながら悩んでました。母に相談した事もありましたが、「ええやん、ケーキ嫌いかな？」と相手にされませんでした。もう先生の顔も覚えてませんが、練習室の様子や、二人でこっそりケーキを食べた部屋の様子は、なんとなく覚えます。すごい優しくしてもらたなあー)

その後、職場で消防音楽隊を指揮することになった訳ですが、小さなライブハウスから大ホールの舞台まで、これまで何回ぐらい舞台に立ったかは、自分でもよく分かりません。まー所詮素人ですから、たかが知れてますが。

ただ舞台上は何が起こるか分かりません。いつもハプニングと一緒に立っているものだと思っています。

共演者がひな壇の後ろに楽器ごと落ちてしまったり、照明が消えて真っ暗な状態の中、マレットを落としてしまい、素手でティンパニを叩く事になったり、ドラムやギター等楽器が倒れたり、楽譜が飛んだり、急にマイクが音を拾わなくなったり、スポットライトが割れたり、スモークマシンのスモークで誰も見えなくなったり、雷で停電したり・・・。

笑われると嫌なので、今まで内緒にしてましたが、高校生になった頃から、「舞台には、気まぐれな天使が、舞台の4隅にそれぞれ1人ずつ4人いて、時々いたずらする。」と思うようになってきました。どれだけ周到な準備をしても、ハプニングの起こる可能性はゼロにはならないと。

さて、いよいよ我々の出番です。

「本番、行きます！よろしくお願いします。」

隊員達に声を掛けます。

「舞台照明落ちまーす。」

会館スタッフの声が掛かります。

私は、舞台に立つと、心の中でいつも舞台の「4隅の天使」に「挨拶」します。

この時も「よろしく！」と言っておきました。（今も毎回やってるんです。）

「客照消えまーす。」

「ハイ、どん帳上がりまーす。」

今までの出演では聞きなれた「合図」が、今日は全く違って聞えます。消防音楽隊の「お披露目」であるとともに、今思えば、私にとっては、消防音楽隊の指揮者としての「デビュー」でもあったのです。

どん帳が上がって行くにつれ、客席がだんだん見えてきます。スポットライトが、いつもより眩しく感じました。

「スポットライトって、こんなに白かったっけ？」

客席に向かって、お辞儀しながら、こんな事を思っていました。

客席にいと、客席が広く感じるものですが、舞台から客席を見ると、意外

なほど狭く見えるものです。

お辞儀のあと、特別意味はないのですが、いつも右から左へ客席を見渡します。

隊員に向き直り、努めてニッコリ。誰とも視線が合いません。寂しいなあー。

1曲目「翼の折れたエンジェル」。

指揮を見てるのは、先生達だけです。

2曲目、アニメ主題歌「タッチ」。

今でも思うんですが、「練習で出来た事の、3割出せたら上出来じゃないか？」って。

この時もとても下手くそな演奏には違いありませんでした。

当然内情を知らない方々には、そんなこと関係ありません。

でも、私にとっても、音楽隊にとっても、半年前には考えも出来なかった事を、今してるんだと感じていました。

そして、この時、練習の為に練習してるのではなくて、市民の皆さんに聞いて頂く為に練習していると言う、すごく基本的なバカバカしい事を再認識させられました。

「市民まつり」に無理矢理出演をお願いしてからここまで、とりあえずは隊員を練習に引きずり出すと言う「私の当初の目的」は達成しました、本番の演奏は別にして。

相変わらず「変な音」が随所に聞えます。先生が3人入っているにも関わらず、空中分解しそうです。

厳しい表情になりそうなのを、懸命に「笑顔」をつくって指揮を続けます。

最後の曲「ドラゴンボール～日本むかし話」のメドレーです。

「ドラゴンボール」のテーマ曲はヒヤヒヤしやがらも、どうにか演奏できま

したが、「日本むかし話」の歌い出しの部分、「坊ーやー、良い子だねんねしな〜」。

ここがホルンのソロ演奏になっています。

その後もゆったりした旋律が続きます。

いくら先生が演奏に入っても、止まってしまいそう。

私も無理に作ってる「笑顔」が引きつってきました。

すべての演奏が終了しました。隊員全員も起立させます。

私は、当時の副隊長で、1番クラリネットの北田さんと握手しようと、近寄り手を差し伸べました。

後で聞いたのですが、この時、北田さんは一瞬「殴られる？」と思って、身構えたらしいです。

無事「握手」もして、再びお辞儀し舞台下手に下がります。

一応拍手も頂けました。舞台袖に下がったとたん「ハ〜〜〜。」大きなため息が出ました。

どん帳が下がり、舞台スタッフが「お疲れさまでしたー。」と声を掛けてくれます。

今回は特にハプニングも無く演奏を終えました。良かった〜。

「ありがとうございました。お世話になりました。」

スタッフに挨拶し、隊員に声を掛け、先生達にお礼を言い、楽屋に入って椅子に倒れ込むように座りました。

「あーしんど。」

これも後に聞いた話ですが、音楽隊員は消防職員だけど、「指揮者」は外部の人間と思われた人が多かったようです。

私は消防職員らしくないのでしょうか？

最近になって、消防本部の倉庫で当時のビデオテープを発見しました。

門外不出のように保管されてたようです。

偶然見つけてビックリでした。

パレードと式典の画像は残ってましたが、残念な事に舞台演技は全てカットされてました。

編集されたパレード画像のBGMに使われていたのが、消防音楽隊の舞台演奏でした。

今聞き直すと、思ったよりはマシ？でした。マシな部分だけ使ったようです。

現在は、当消防本部にも「広報係」が設置され、音楽隊出演での演奏はほとんどが映像として記録してくれてます。

自分達の演奏を聞き直す事が出来るようになって、とても参考になってます。まだ演奏力には反映されてませんが。

消防長からは「ご苦労さん。良かった。」と言葉を掛けてもらいました。

私としては、ひと安心。（でもこの後、消防長の感想は毎回毎回「ご苦労さん、良かった。」なにがあっても「良かった」と同じ事を言うようになりました。）

あ～とりあえず、終わって良かった～。

次回「こんどは出初式？ちょっと休ませてくれ～です。」

ガンバレ、消防音楽隊！（その21）

消防業界では、絶対に避けられない行事がいくつかあります。「消防出初式」は、その最たるもので、毎年新年早々行われています。

当消防組合も毎年1月7日に行ってきました。

(カレンダーによって前後はします。)

当消防組合の場合、3つの組合構成市にも、それぞれ消防団が設置されており、消防団は基本的に同じ日にそれぞれが置かれている市で、別々に出初式を行っています。

当然、消防署幹部は分かれて、消防団の出初式にも出席しています。

つまり2日間で計4回の出初式が、今も、この3市で同時期に行われています。

12月1日に「防火パレード及び幼年、婦人防火クラブ結成式典」で初の舞台演奏が終わったばかりで、私自身とても疲れていました。

音楽隊の出演は当分出たくないと思っていましたが、前年にも恐れていたんですが、とうとう白羽の矢が。

消防組合の出初式の計画書に音楽隊の名前を見つけました。

あ～あ、週1回2時間の練習ですから、4回の練習だけで出初式の練習をしなければならなくなりました。

まー今までの出演で使った曲を、使いまわしで持って行けばいいんですが、出来が出来だけにねえー。

消防組合の出初式は1月7日。

ところが、またまた予定外。

消防団の出初式にも出演する依頼が舞い込んできました。

1月6日消防団出初式。

同じ内容とはいえ、2日続きの出演です。

この季節、屋外での演奏は、手はかじかみ、指が思うように動きませんし、楽器自体も冷えて、音が非常に出なくなります。

特に金属だけで出来ている楽器は持つだけで冷たく、実際最も大きいチューバと言う楽器を担当している隊員は、演奏の時に抱えるので、オナカまで冷えて痛くなると言ってます。

真冬の屋外演奏。多分我々でなくても、出来れば避けたいものです。

普通に参加する消防職員も、この時ばかりは全身ポケットカイロで武装します。

カイロの量が結構難しくて、時々ポカポカ陽気のお正月なんかでは、カイロが熱くて我慢出来なくなる事が有ります。

出初式の途中で雨が降って、ずぶ濡れになった年も有ります。

カイロが水を吸って余計寒くなったり。

革靴の中に入れたカイロが温かくならず、逆に、窮屈にしまって血行不良を起こし、足先が痺れて感覚が無くなったり。

しかし式典中は「気を付け」のまま身動き出来ないのも、自分の愚行を悔やむ以外に有りません。

最近の話で、年末年始に音楽隊の出演が多く重なり、毎回同じ場所ばかりカイロを張っていたので、低温やけどになって、なかなか治らない隊員がいました。

出席する職員は決ってますが、練習には、三分の一から半数の隊員がコンスタントに出席するようになりました。

つまり来ない隊員は、来ないと言う事です。

もう放っておきます。

私自身も当務の日は、夜間は一番出動回数の多い救急車に乗って走り回って

いるんです。

非番日や休日には、ほとんどの救急の会議や講習に出席してます。

私だって、休日には体を休めたいです。

まだ入って5年しか経っていない26歳の職員ですが、一人で切り回してるという訳ではないけど、平均的な職員より、たくさん働いている自負はあります。

練習に来ない人は好きにしてください！って、この頃やっと思えるようになって来ました。

同時に隊員の入れ替えを進める事も必要だと痛感していました。

出初式での演奏曲は、「ファンファーレ」2回、国旗掲揚と国旗降納の時の「君が代」2回、消防殉職者への黙とうの時の「慰霊の歌」、管理者の観閲のBGM「観閲の譜」約7分、参加人員や車両行進の「行進曲」が数曲、表彰の時の「得賞歌」が数回。

使用する曲の難易度は少し変わりましたが、現在も演奏曲に関しては、ほとんど変わりはありません。

乱暴な表現をすると、式典での演奏は何処も大差無いようです。

今回「慰霊の歌」「観閲の譜」と言う2曲が新譜です。

2曲とも短い、簡単な編曲ですが、普通の生活の中では、耳にする事が全く無い曲です。

編曲が単純なだけに演奏が難しい所も有ります。

当たり前ですが、特に「慰霊の歌」って、メッチャ暗～い曲想です。

(まー能天気にも明るい曲想では、叱られてしまいます。)

一方、「観閲の譜」は約40秒ほどの曲を、延々エンドレスで繰り返せるようになっています。

「観閲」とは偉い人達が、全ての参加者と車両を見て回る事なんですが、そのBGMで演奏します。

「なんだか、面白くも無い、よう分からん曲やなぁ〜」って思っていたんですが、ある日、国賓（どこの、誰かは忘れまして。）かなんかが訪日の際、専用機から降りて来る映像を、たまたまニュース番組で流してましたが、多分自衛隊の音楽隊だったと思いますが、何か演奏していました。「どっかで聞いた曲やなぁー。アッ！」

そうです。「観閲の譜」を演奏していました。

我々の音楽隊で演奏するテンポより、楽譜に指定されているテンポで演奏した方が、ずっと遅いテンポです。

「カッコええやん。」

とっても偉い人って、ゆっくり歩くんですね。まー小走りの偉い人って、威厳が無さそうですよね。

早速、マネさせてもらう事にしました。

昭和62年正月。普通の時に比べ、救急隊は大モテです。

ひっきり無しに出動が掛かります。

消防団出初式。柏原市、羽曳野市、藤井寺市とも同じ日に行われるので、消防長も3年で一回りするよう毎年順番に各市に出席していきます。

消防音楽隊も消防長の出席する出初式に同行して演奏する事に決ってしまっていました。

（直前まで知らなかったんです。）と言う事は、必ず消防長は演奏を聞いてるって事です。

そして1月6日日曜日、我々には初めての完全屋外演奏です。

聞いていたとおり、消防長も来賓として出席しています。

場所は横に大きな池がある広い公園です。

練習の時、「屋外は、風があるので、譜面が飛ぶから、クリップを用意して下さい。」

何回か伝えたんですが、演奏場所に着いてから、

「譜面飛びそうやんけー。」

「楽譜、どうやって留めるや？」

「クリップないか？」

人のクリップを取り合う隊員がいます。

そんな状態を背に、私は本番直前の打ち合わせへ。

「司会の台本？音出しのキッカケは？合図はどの方向から来るんです？・・・」

いろいろ尋ねておかないと、始まってから「しまった！」なんて事になります。

たどたどしい司会が、開式を告げました。

下手は下手なりに、演奏も進んでいきます。

「観閲の譜」はゆっくり演奏しました。観閲する人達は、結構歩きにくそうです。

人間、聞いていないつもりでも、音楽に合わせようとするんですねー。

消防団出初式には、全参加車両を使っの「一斉放水」があります。

公園横の大きな池まで車両が移動して、放水を始めました。

放水終了後、また元の位置に整列し直します。

公園が広いので、戻ってくるまでポッカリ時間が空いてしまいました。

止めときゃ良かったんですが、不完全のままになってしまっで、気になっでた「イエスタディ」を演奏しました。

私としては、再集合までの空いた部分を埋めることが出来ればと、最大限に

気を利かしたつもりでしたが、スローテンポな曲なので、曲の切れ目がなかなか来ません。

フレーズの途中で整列が終わってしまい、ほんの数秒間なんですけど音楽隊の演奏が余ってしまいました。

「あー、まずいなー。」

と司会者の方を見ると、この寒さの中で一人真っ赤な顔をして、私を睨み付ける人が。ゲッ 消防長。

「お～ま～え～～。余計な事せんと、はよー終われ！」

相当距離が離れてたんですが、消防長の全身から発せられる「殺気」がレーザー光線のように真っ直ぐこちらに。

フレーズも何も関係無しで演奏ストップ。

とたんに、「殺気」が消えました。あー恐かったー。(スター・ウォーズみたい。)

翌日、消防本部の出初式。

二日連続でも、すぐには上手くなりません。

職員の行進では、音楽隊が先頭を歩きました。

私が指揮ですので、必然的に先頭は私になってしまいます。

その写真が、市の広報紙に掲載されましたが、揃いの制服姿での行進は、音までは写ってないので、カッコ良く見えました。

「写真うつりは、完璧！」でした。

次回「即席、ファンファーレ部隊！」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その22）

皆さん、お久しぶりです。音楽隊の河井です。このホームページの更新日が変更されている事を知らなかったので、先月末には相当焦ってましたが、2週間延びたと知り、ホワ~っとしてしまいました。

(その間、別の仕事してますので誤解しないでね。)

締め切り日直前にしか取り掛からない性格のようですので、結果的には同じなんで、1月半ぶりにカタカタ、バタバタやっています。

「更新日変更のお知らせ」を見た方で、「更新日が月2回になった。」と思い、喜んで頂いた方もいらっしゃるようです。それほど期待して頂けるなんて、私としては本当に嬉しく感じました。

間隔が空いたからではないのですが、暫く文章が浮かばず、「今までどれくらい書いたのだろう？」って調べてみたら、400字原稿用紙で約180枚！一度、原稿用紙に印刷して眺めてみたい気がします。

これが凄いのか、大したことないのかは自分でも分かりませんが、今までお付き合い下さった皆さんに改めて感謝致しております。(ペコリ)

このコーナーだけは、応援して下さる方がいらっしゃる限り続行していきたいと、決意を新たにしています。

(少々大袈裟ですね。誰かに言われて始めた訳ではないので、将来、打ち切る時は、自分の意志で！！そして皆さんには絶対チャントご挨拶させて頂きます。)

ただ、連載を続けると、その分、ご指摘やお叱りを受ける事も多くなるとは思いますが、これからもどうか、どうか、ご支援のほど宜しくお願い致します。

(再度もっと深くペコリ)

さて、年が明けると、文化財の防火デーに伴う消防訓練があったり、山林火

災に備えた訓練があったり、消防署も結構行事があります。一方、音楽隊の方
はと言うと、出初式も終わってしまい、当面の出演の予定も無くなると、また
また練習に集まる人数が減ってきました。（もうええけどな～。）

そんな風景を見るにつけ、自分の中では、入れ替える隊員の事を考えており
ました。音楽隊だけが消防の仕事では有りません。やる気のない者をこれ以上
追いつめても、私と隊員、隊員同士の関係も悪くなり、手間ばかりかかるだけ、
しいては全体に悪影響を及ぼしてしまいます。

無理やり任命されて、強制されて、本人達に気の毒とも感じます。

しかし、多くの隊員は少なからず私により感情を持っていませんでした。
（ん～ん、政治家や役人が使う言葉はどうもまどろっこしくて、好きになれな
いなあ～。）当時は多くの隊員は、私を鬱陶しいと感じている様でした。

現在でも、誰にも「第二の河井」はさせてはならないと思っています。

嫌われ者は、私一人で十分。未だ「楽長」として居残っているのは、ある程
度、後継者に渡せる「状態」にしてからでないと、同じ事の繰り返しだけにな
ってしまうからです。

他の誰にも、「同じ苦しみ」を味あわせるつもりはありませし、その様なこ
とは絶対防がなければ。

しかし、この時点で言っても既に遅いですが、私自身もこんな立場でなかつ
たら、もっと多くの職員と気楽に付き合えて、少しは楽しみも増えてたんでし
ょうけどね。（ちょっぴり、残念な寂しい気もします。）

そんなある日、総務課から呼び出しがありました。

「小人数で演奏って出来るんか？」

（また何か有りそうだな。ここは慎重に答えないと。）

「ん～、満足に演奏できる人ばかり集めた場合は、全く方法が無い訳でもない

ですけど。」

「3月にチョウカンキもらうんやけど、その後、祝賀式典があつてな……」

(超換気?超歓喜?超寒気?なんやそれ?)

「すみません、チョウカンキってなに?」

「長官旗やな!」

「長官って、消防庁長官ですか?」

「そうや。」

「な~んや、ハタもらうんですか?」

「ハタって言うな、ハタって!長官旗や。」

「そのハタって、なんか凄いんですか?」

「ま~な。そこでな、音楽隊なんか出けへんか?」

(やっぱり。)

「やめた方がええんちゃいます~?」

「パンパカパーンだけでええねん。やってくれ。」

「パンパカパーンって、やるんですか?」

(パンパカパーンって、ファンファーレっちゅうの。)

「5、6人でパンパカパーンてやってくれたらええねん。何回出来る?」

「そんなん1回にして下さい。」

(これって誘導されてるような気が。)

「そしたら1回でええから、頼んだぞ!」

「考えさせて下さい。練習もしてみないといけないので。」

「頼んだぞ!」

ファンファーレってうまく出来たためしがない上に、外せない一発芸みたいなモノですからねえ。今回はトランペットとトロンボーンの6名で練習してみ

ました。「即席、ファンファーレ部隊」です。

いつもは全員で演奏しているファンファーレを俗に言うラッパ類だけで演奏してみます。練習では、まーなんとかそれっぽくいけそうかなあって感じでした。

さて、当日。藤井寺市民会館別館中ホール。多数の出席者とたいそうな感じの式典が始まってました。出番が後半なので遅れて現地入りしました。我々「即席、ファンファーレ部隊」は、エレベーター前の廊下でファンファーレを何回も合わせていました。廊下や階段が響きを作っていて、思ったよりなかなかいい出来です。

「俺ら上手いやんなあー。」

隊員同士で褒め合ってます。しまいには写真撮影し合ってます。

(もう思い出せないですが、なんでカメラがそこに有ったのかなあ？私も撮ってもらいましたが。)

時間が迫って来ました、会場内でスタンバイです。

本日初公開の白い演奏服で横一列に颯爽と立ち並び、音を出さなきゃ見た目は完璧！いよいよ本番。たった20秒のファンファーレの為に何十倍もの時間を使ってきたんだから、うまくいきますように！との願いも空しく、音はへ口へ口、バラバラ、結果は玉砕です。吹き終わって逃げるように会場を急いで出ました。

「あ～、練習だけは、よかったのになあー。」

隊員達も少し残念そう。でも深刻な顔付きは誰もいませんでしたが。

総務課長、やっぱりダメでしたでしょう？

そう言えば最近、消防長なにも言わなくなったなあ。もう飽きたんかいな？

次回「僕も旅行に連れてって」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その23）

正式発足から1年になりました。

（まだやっと1年？もう1年？個人的には、もっと経ってるように感じますけど。）

1年経っても、な～んにも変わりません。私一人が感慨にふけってる程度です。

対外的には、（当たり前ですが、）「柏羽藤消防にも音楽隊が出来た。」とすることになっているので、「さぞ立派なモノ」が出来たんだろうということになってました。

すこし話は前後しますが、消防職員（正確には、消防法上の権限を履行することが出来る消防吏員）として採用されると、半年間「消防学校」と言う研修施設で入寮生活をします。この間、消防職員としての規律や基礎法律、実践訓練などを身に付ける訳です。

大阪府内には、大阪府立消防学校と大阪市消防学校の二つが在り、大阪市以外の消防本部の新採用者達は、大阪府立の方へ「初任科教育生」として入校します。私も一応は修業してます。

（10月からの入校だったので、凍りついたグラウンドを行進させられたり、真夜中に訓練で叩き起こされたり、初任科生の中にインフルエンザが大流行し、学校閉鎖にもなりました。男ばかり70人で規則だらけの生活でした。3日で辞めた人も居ましたよ。）

以前からこのHPの話にも出てきている、南隣の消防の「富田林市消防音楽隊」

の隊員で初任科教育の同期生がいました。富田林市では2年程先に音楽隊が発足していますので、いろんな事を尋ねていました。

(私の存在が影響したのか、彼も後に楽長になってます。偶然なのですが、現在は北隣の八尾市消防音楽隊の楽長も初任科同期生で、「同期の楽長」で隣組みたいになっています。発足準備から一人で立ち上げをしたのは私だけらしいのですが。)

発足当初、その富田林消防から、『音楽隊の担当者の会議』があるので出席するように。と連絡があり、「オブザーバー」として出席してました。その時は「なんの為に集まってんの？」って感じでした。

大阪府内の消防音楽隊は我々の音楽隊で11隊目でした。

(この際ですから紹介しておきますと、当時で大阪市、堺市高石市消防組合、東大阪市、枚方寝屋川消防組合、大東市、守口市門真市消防組合、豊中市、八尾市、茨木市、富田林市、柏原羽曳野藤井寺消防組合、後に吹田市、高槻市、泉佐野市で現在府下14隊です。)

会議の席上で紹介されて、拍手など頂いた記憶があります。この会議は、音楽隊の運営上の問題を話しあったり、情報交換をしています。過去には、演奏力の向上を目指して講習や勉強会も行っていました。現在は、大阪府下の消防音楽隊の合同演奏を行うための調整も大きな議題として話し合っています。これは、ご存知の方もたくさんいらっしゃるでしょうが、某新聞社主催の「大阪の消防大賞」の発表会が毎年行われていて、その舞台上で演奏させてもらっているものです。出演メンバーは専任隊(音楽隊は、音楽隊の仕事しかしてませんって言う隊のことです。その分出演回数も年間200回とかに上ります。)

である大阪市消防音楽隊を柱として他の府下消防音楽隊からは選抜で集め、約60人編成で行っているものです。府下の音楽隊で指揮者も輪番制にしていま

す。

(私も冷や汗タラタラでやりました。その事はまたの機会にゆっくりと。)

前は「オブザーバー」だったので、初の出席みたいなもんです。この時も「消防大賞」の発表会で合同演奏することが議題となり、「あーでもない。こーでもない。」とやっていました。こんな場合、たいていの人は大人しくしているのしょうね。私もそのつもりでした、が。議長のオジサンに、

「あの～、話が分かりにくいんで、まとめてもらえませんか？」

「？」オジサン一瞬言葉に詰まっています。

「今回初めて出演させてもらうんですけど、話がバラバラで分かりにくいんで、もうちょっと話まとめてもらいたいんです。」

今度は明らかにムツとした表情で、

「あんた誰？」

おい、あんた呼ばわりはないやろ！名札も立ってるし。

「柏原羽曳野藤井寺消防組合の河井ですけど。」

会議場はシーンとしています。

「あ————ん、初めての。(面倒臭そうに)誰か説明したげてー。」

「は？」

オジサンはそのまま会議続行に戻ろうとしています。

急に私の両隣の席から話し掛けてきました。

富田林市の同期も「こいつかなんなあ～って顔」して慌てています。

「せやからな、これはこうなってて、こうなってて……。」

「ちゃうやん！自分にそんな説明聞く気ないワイ。皆も看板背よって出席してんねんで。今日の会議分かりませんでしたでは、来てる意味ないやん。議長やったら初めてでも分かる様に説明してから会議せなあかんのちゃうか？！

説明するのにどんだけ時間かかんねん。あのオッサンの役目やん！」

「河井くん、声大きいって。」

「地声です。」

ちよっぴり大きな声だったのでしょ。二人の会話は、会議場どこに居ても聞こえてたと思います。他の出席者はこちらの事は聞こえないような振りをして、努めてニコヤカに、議長のご機嫌を取ってるようです。それを見て余計腹が立ってきました。

「河井くん、そりゃそうやけどなー。しゃーないやん。」

「なにがしゃーないねん。訳分からんから、聞いてんねん。分からんと座っても時間の無駄やん。」

府下消防音楽隊会議への華麗なるデビューでした。

他の方々には少々刺激が強かったかな？

非常にインパクトのある対外デビューだったようです。

この会議の結果、当消防音楽隊からは、唯一の経験者の私と副楽長の香川くんとで出演することにしました。

「ところで誰が指揮すんの？」

「さっき、議長してた人。」

「え？うっそ～。イキナリ気まずいやん。」

「せやからなー、俺の話を聞けって。」

「そんなん聞く前に教えてーな。」

とっても楽しい合同演奏に成りそうです。

さて、高校時代からの友達が「夏の旅行」に誘ってくれました。

自身自分は旅行に興味が無く、誰かに誘ってもらわないと何処へも行かない性格です。

彼はスキーも上手で時々誘ってくれ、今でも2年に1回程度の割合で北海道スキーへ一緒に行きます。（でも何処へ行っても酒飲みツアーになってしまいます。）

この頃は救急隊長で泊まりの仕事でしたので、休みの段取りが付き易い様に、早めに声をかけてくれたのでした。

一応音楽隊の心配もしました。昨年の夏場には出演も無かったし、この時期は消防本部全体「救助大会」一色の季節。たかが2、3日の事、自分にも楽しいことが必要です。

行き先の説明を聞いても、あまりピンと来ないのですが、「四輪バギーに乗れる！」と言う一言で行くことにしました。（初めてスキーに行くときも「スノーモービルに乗せてあげる！」と言われて、行く事にしたから、全く進歩してませんね。）

消防職員は、「所在明確義務」が課せられています。休日であっても、大きな火災や災害等が発生した時には、「非常召集」に備え、何処に居るか、連絡先等を届けて上司に決済もらう訳です。旅行に行く場所と日が決まっていたので、忘れない内に「管外旅行願」という書類を出し、早々と決済を取ってしまいました。考えてみると、スキーを除けば「高校の修学旅行」以来の旅行です。「旅行は、準備の時から始まっている。」と言う事を聞いた事がありますが、そのとおりですね。もう頭の中は「四輪バギー」が走り回ってます。

ある日、何かの用事で久しぶりに総務課に行きました。消防長も居ます。軽く頭を下げてから、用件を済ませ、総務を出ようとすると、消防長がニッコリ。

（ヤバイ！）

「せやせや、8月8日の土曜日な、音楽隊出るぞ。」

「はい？」

(なんて?頭の中で四輪バギーがブレーキをかけて急カーブに突入してま
す。)

「音楽隊の出演や。」

「へ？」(バギーがカーブでコケました。)

「パレードらしいけど、その内、打ち合わせに来はるからチャントやっつけ
よ。」

「あの一、その日旅行なんですけど。」

「アホか。あかんぞ。」(アホと旅行は関係ないでしょ。)

次回、「府下合同演奏デビューと四輪バギー」です。

「もう決済もらいましたけど。」

「そんなん知らんがな。」

「え〜〜、消防長の所にも書類行ってるはずですけど。」

「知っら〜ん。」

「もう宿の予約しましたから。」

「おまえ〜、どうすんねん。」(怖い顔です。)

「どうすんねんって、言われても困ります。」

(絶対その日に四輪バギーに乗るもんね。)

ガンバレ、消防音楽隊！(その24)

「お前、どうすんねん。」

「そんな出番が有るの分かってたら、自分だって旅行の予定入れませんよ。」

「どないすんねん。」

「副楽長の香川さんに頼んでもいいですか？」

「それでいけんのか？」

「香川くんだったら、大丈夫ですよ。」

「ほんならそれでいけや。そのかわり、なんか有ったら全部お前の責任やからなー！」

「え～～～そんなん！」

「あたりまえじゃ。お前責任取れよ！」

「大丈夫、なんもないですよ。（たぶん）」

んーん、香川くんには悪いなあ～。心に引っかかるモノがありますが、頭の中で再び四輪バギーが走り出しました。

（四輪バギーはとっても楽しそうです。）

次の関門、香川副楽長をうまく丸め込なくては、違った、誠意を尽くして説得しなければなりません。

「あんな、8月にパレードの依頼がきてるんやけど、その日旅行に行つて、出れないから、代わり頼みたいんやけど、大丈夫やんな。」

「え～～～～～！そんなん嫌ですう。」

「これから、こんなことも有るんやから、遅かれ早かれやん。」

「せやけど・・・。」

「パレードコースのとおり歩くだけやから大丈夫やって。」

「そりゃそうですけど。」（やった！もうこっちのもんや。）

「学生の時も経験あるんやろ？」

「はい。学生の時は、やってました。」

「そしたら大丈夫やん。」

「この人ねー、演奏出来ませんもん。学生の時は、演奏出来る人ばかりでしたからねー。」（自分の学生時代もそうでした。）

「誰が指揮者やっても、今すぐ演奏出来る様になれへんねんから、そんなん言うてもしゃーないやろ。」

「はい、そりゃそうですけど。」

「頼めるかな？」

「は〜。」

「大丈夫、責任はお前が取れって、消防長にも言われてるし。香川くんには迷惑かかれへんって。頼むで。」

「はい、それやったら、分かりました。」（やったー。陥落！）

ハッハッハッ、四輪バギーに早く乗ってみたい。

「使用曲どうします？」

「どうせ今から新しい曲は無理やから、'必殺使いまわし'しかないやろ？それとも新しいのやってみるか？」

「いえいえ、使いまわしでいいです。」

もう解放感と旅行の期待感が入り混じって、超ご機嫌になってしまいました。

さて、もうひとつ「大阪の消防大賞」発表会に伴う大阪府下消防音楽隊合同演奏です。本番当日までに4回程音合わせがあります。いずれにしても初めてです。な〜んの練習もしないで伺いました。パーカッション以外は、ひとりにひとつづつ、自分の担当楽器があるのですが、パーカッションはそうはいきません。

パーカッションは実際にメンツが揃ってから「この曲は、なに担当しましょ

う？」「次の曲は？」って感じです。

パーカッションでもオイシイ楽器があります。

ドラムセットや小太鼓などは、やはりオイシイ部類になります。じゃーオイシクナイのは？タンバリン、トライアングル、カスタネット、大太鼓など脇役にまわる役目の楽器です。

（高校生時代、ブラスバンド部に入ってすぐの頃、いきなり譜面を配ってスグ皆で合奏する「初見」（シヨケン）の練習がありました。「初見」の練習は私には初めてだったので、目立つ楽器よりも、控え目に脇役にとってタンバリンの譜面を選びました。間髪入れずに合奏が始まりましたが、その時のタンバリンの譜面はメチャクチャ難しいんです。

当時の私には、練習なしでは全く演奏出来ません。もう必死で他の部員の演奏について行こうとするのですが、タンバリンのソロも随所に有って、私のタンバリン演奏はポロポロ。「自分にはタンバリンさえも、満足に演奏出来ないのか〜。」とひどく落ち込みました。が、この曲名をよ〜く見ると、「タンバリン」って書いていました。思いっきり主役になれた一曲でした。どうりで難しい訳だ。）

音合わせは、大阪市消防音楽隊の合奏室で行われます。初回の音合わせの日。

まず大阪市消防音楽隊のパーカッションの人にご挨拶。

「今回初めてお世話になります、柏羽藤消防の河井です。よろしくお願ひします。」

「あー、どうも。」

「私はどうさせてもらったらいいですか？」

「その内、合奏練習始まりますから、その辺に座ってて下さい。」

「あの〜、曲ごとの担当楽器はいつ決めるんですか？」

「あー、いつも適当ですねん。あとで決めますわ。」

ドラムセットでは、他の消防音楽隊のパーカッション隊員がひとり、自分の上手さを誇示するかのようになり、こっちを時々睨みながら叩いています。

(感じワル~！)

バリバリなんでしょう。まーそこそこ上手です。

8曲程度の演奏予定曲の中でも、やはり、その時、その時で、メインとなる曲があります。そんな曲の中で、ソロ演奏したりするプレイヤーは当然そのバンドでは1番上手という事になります。

(違う事もありますが)

パーカッション・パートでも、やはりメインの曲でドラムセットを担当したいと思うものです。多かれ少なかれ皆、主役になりたいんです。

そういう私も、今回のメインの曲は、ドラムセットを狙う一人でした、練習はしてませんけど。

府下の音楽隊員が続々と集まって来ました。初の音あわせです。しかし、一向にパーカッションの担当決めが始まりません。もう一度

「もう始まりそうなので、曲ごとに担当決めませんか？」再度催促します。

「もう、あれですわー。適当にやっていますねん。」一向に決める気がないのか、または、他に理由でもあるのか。

「じゃー、希望ですが、この曲のドラムをさせてもらえませんか？」一応希望だけは伝えておきます。

「これね~、もう他の人から頼まれてまんねん。」やっぱり訳ありやんか。なんで早い者勝ちやねん。

「え？もうパート決まってる曲も有るんですか？」

「いや、この曲のドラムだけですわ。」

「その人みたいに、自分の希望だけ聞いてもらうつもりは無いんです。パーカスの皆で決めたほうがいいですよ、ね！」

「いやーいつも適当ですわー。」同じ答えの堂々巡りです。

そうこうしている内に、指揮者が入ってきました。先日の会議での「議長のオジサン」です。気のせいか、こちらをチラッと見たような。

大阪府下消防音楽隊混成バンドの練習に初参加です。が、やっぱり、担当楽器が決まってないので、合奏練習が始まるとパーカッションパートだけは大混乱！合奏中でも、楽譜をもってあちこちバタバタ移動しながら、「シンバルどこ？」「ギロは、トライアングルは？」「マレット貸して〜。」とやっています。誰が何をするか決めながらの演奏です。一旦手にした楽譜は最後まで担当すると言うやり方で、ドンドン担当楽器が決まって行きます。なんと面白い加減さ。完全に呆れてしまいました。

「柏羽藤さんも、なんか（ドラム）叩いてもらえまっかー？」

せやから、希望は伝えたやんか！

「他の曲をするんでしたら、何でも結構です。」

私も童謡をロック調にアレンジしたモノと、バラードの「非常に軽めの2曲」をドラムセットで担当する事になりました。

だけど「メイン」の曲だけは、既得権益のように、当然と言う感じで楽譜が渡されて行きます。

もうこれ以上言っても無駄のようですので、今回だけ、この「特殊慣行」に従います。

次回、「主役を食ってやる！」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その25）

結局、私がメインの曲で担当するのは、ボンゴと言う楽器になりました。

ボンゴと言う楽器は、約22センチと18センチの二つのタイコが一組に並んで繋がっている、比較的小さなもので、両足で挟んだり、または専用スタンドに付けたりして、普通は直接素手で叩いて演奏します。

（結構、指が痛くなりますけど。）

思えば、今に比べると、まだまだ国内で容易に手に入るラテン・パーカッションの種類も少なかったです。今でも吹奏楽の譜面に出てくるのは、カウベル、ボンゴ、コンガ、ギロ、カバサ、シェイカー、アゴゴ、マラカス、クラベス、サンバ・ホイッスル程度ですが、この他には、知っているだけでも、クィーカ、ティンパレス、ジャンベ、シェケレ、クラッシャー、タンボリム、ハンドドラム、スルド、パンデーロ、ジャムブロック、バタ、トーキング・ドラムなどなど。パーカッションの経験者でも全ての楽器を知っている訳ではないので、渡されて初めて見聞きする楽器もあります。

（もっと大変なのは、楽譜に書いてある楽器の名前だけでは、どんなものなのかも分からない時です。そんな時は、楽器カタログで探すのですが、それでも分からない時は、どんな形をしていて、どんな音するねんやろうってみんなで想像します。あくまで空想の世界ですから、全く違っていることの方が圧倒的に多いです。パーカスは、他の楽器に属さないモノ全てが守備範囲。大雑把に言って、ラテンにアフリカンなどもいろいろ混じっていて、何でも有りって感じですね。音楽はボーダーレス！）

学生時代、吹奏楽部がコンクールに出た時、担当したのがティンパニとボンゴ（アドリブ・ソロもありました。）でしたので、私にはボンゴは馴染みがありました。

(真冬、寒風の屋外で、毎日何時間も、指の色が変わるまで練習しました。その年の夏のコンクールでは、一応、上位入賞したので、四大紙にも学校名が掲載されたし、コンクール主催者の製作する模範演奏のLPレコードに我々の演奏が収録されました。LPレコードって分からない人も居るかも知れないですね。昔は有ってんで～。なんか寂しいなあ。)

さて、メインの曲にはドラム・ソロがあって、ドラムには非常にやりがいのある編曲がなされていますが、ドラム以外の楽器は、付属品みたいな扱いになっています。私はボンゴの楽譜をもらいましたが、想像していたとおりペタペタとした単純な譜面です。特にドラム・ソロの部分は完全に伴奏です。

私は心の小さな人間なのかも知れませんが、理不尽なことと、無理やりに考えを押し付けられる事には我慢が出来ません。今回のように、話し合いもしないで、ごく個人的な希望だけが優先し、他の人の事はどうでもいいと言うやり方をおすのなら、ドラムセットだけが主役になれる楽器じゃないことを、こちらは無能で黙っているのではない事を、キッチリと知ってもらいます。本番は遠慮なく、思いっきり暴れさせて頂くことに致しました。

パーカッションは他の楽器と比べると非常に自由度の高い楽器が多く、私の場合、音楽の種類や担当楽器によって、楽譜に忠実に演奏する場合と、曲の展開さえ分かれば、演奏には全く楽譜を必要としないで、アドリブだけで演奏する場合があります。1曲の中でも、超忠実、超アドリブと部分的に両極端な演奏をする場合も有ります。

ただし、パーカッションの鉄則は、楽曲の邪魔になってはいけない事です。打楽器には、一撃で、演奏中の曲を潰す能力が有ります。他の演奏をかき消す事も出来ます。

一打のミスで曲を台無しにすることも出来ます。だから、伴奏であっても、

アドリブ・ソロであっても、絶対に音楽的でなければなりません。あくまで主役はお客さんたちです。一旦ステージに上がれば、お客さんに楽しんでもらえないと何の意味もありません。

そして、本番アドリブで暴れまくる時の注意すべき点は、本番でしかやらない事です。特に合奏練習やリハーサルでパワー全開にしては絶対いけません。共演者達に大ヒンシュクをかったり、指揮者やバンドのリーダーに止められたり、本番で同様の演奏をする事を事前に硬く禁止されたりしてしまいます。あくまで本番一回コッキリ、ぶっつけ本番が鉄則です。

(だから練習は出来ません。新春かくし芸大会みたいな感じですね。)

さて、メイン曲の音合わせ。当然の顔をして、ドラムに向かう「既得権益者」を横目に、スタンドにセットされたボンゴに向かう私。ガンガンに練習してきたんでしょ、合奏練習でも張り切ってドラムを叩いています。

(ちょっとウルサイで！)メイン曲の楽譜は、私には初見でした。別段難しく無かったですが、目立たない音でボンゴをポコパカポコパカ。さっきも言いましたが、素手で叩きます。一回とおし終えて、つまらなさそうな顔をしていると、大阪市消防音楽隊のパーカッションの人が担当楽器決めの件で気がつかったのか、

「手、痛いでしょう？」と声をかけてきました。

「は一、痛いですけど。ボンゴって、こんなものでしょ。」

(本当はもっと大きな音出せるけど、今はセーブしてんねんで。)

「スティック使いはりますか？」

「??スティックで叩いていいんですか？」

(大きな音になるで。思うツボやん。)

「いいですよ。」

「いや、結構です。手で演奏しますから。」

「うちでは、いつも、手痛いから、スティック使ってますねん。」

「じゃー、使わせてもらうかも知れません。」

ええんかなあ～。

そんなん持たせたら、本番えらい事になるで、知らんぞ～。

その後2回程合同練習がありましたが、私は当り障りのない演奏ばかりして
いました。指揮者も、どことなくよそよそしくって、「は～～ん、あんた出
るの？」って感じで、私にしてみれば、やり難いなあって感じです。

男ばかり60名の大阪府下消防音楽隊員混成バンドは、やはり、それぞれの音
楽隊での上級奏者が集まっているのでしょね。流石に演奏も上手で、曲の仕
上がりも早いです。指揮者のオジサンもニッチャ～って笑っています。プレイ
ヤーの中でも、「俺は上手い！」って感じで、なんか大きな態度の人も数人
ですが見受けられます。

なんの世界でもあることでしょうが、自分が上手いとか、強いとか、偉い
とか誇示したがる人間に限って、大した事ないんですよ～。たとえ、少々力が
あっても、人間としては全く魅力のない人だったり、人格面で薄っぺらい人だ
ったり、利己主義者だったり。本当に実力がある人って、自然と周囲に伝わ
ってくるものが有り、本人が誇示しなくても、一目置かれているって感じがしま
す。皆さんそう思いませんか？自分は、威張る前に実力を認められる人になり
たいと思っています。

大阪の消防大賞発表会、晴天。守口市民会館大ホール。

朝10時にホール入りです。

次回「リハーサル、ワクワク本番&四輪バギー」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その26）

大阪の消防大賞発表会。守口市民会館大ホール。

朝10時にホール入りです。

我々パーカッションには肉体労働が待っています。自分が演奏で使わない楽器でも、全員で運ぶというのがパーカッションの「掟」みたいなものです。

楽器搬入、セッティング。

パーカッションで大きな楽器は大体事前に場所が決まっていますが、コマゴマしたモノは現場へ入ってから決まる事が多いです。搬入口から、パーカッションは舞台へ、他の隊員達は楽屋へ、が、大体のパターンでしょうか。管楽器の人たちには、ウォーム・アップとチューニングが待っています。

舞台上でセッティングにかかります。演奏者の椅子や譜面台が並べられていきます。平行して、パーカッションもドラムや大太鼓、鍵盤楽器などの位置を先に決め、セットし、その他の楽器は後になります。何の指示もないし、今回の舞台ではボンゴを使用するのは私だけですので、誰も気にしてくれません。私はボンゴを持ってウロウロ。結局、押し出されるような状態で、客席側、舞台上の最前列になってしまいました。

（少し分かり難いでしょうが、コンサート・マスター席のすぐ後ろです。）

客席から見ると、パーカッションのメンバーで一番目立っています。

（しかも、私しかここには立たないのでメチャメチャ目立ちます。）

セッティングが終われば、次はリハーサルです。一緒に来た香川君はユーフォニウムでの出演です。（柏羽藤消防音楽隊では、実にいろいろな楽器を渡り歩いてもらいましたが、現在はチューバやベースギターを担当してもらって

います。しかし、学生時代はユーフォニウムを吹いていたので、今回は本来得意な楽器で出てもらいます。)

彼は、この頃、口癖のように「TPOが大事ですわ〜。」とっておりました。時には何かに取り付かれたかのように、時にはうわ言のように。

初めは、私には何の事か分からなかったのですが、「厄介なことに巻き込まれないよう、本音と建前を使い分ける。」と言う心がけを、シャレッ気を交えて、言葉にしたものとも言えばいいのかな？(たぶん)そんな彼ですから、私のように愚かで過激な事はしません。いつも愛想がいいので、他の隊員とも仲良くやっているようです。

今日演奏する曲をサッととおしていきます。すんなりこなして終了。

私はコジンマリ、ソツなく、大人しく、本番まで温存です。あとは演奏服に着替えて、楽屋待ちです。あれ？みんな半袖？(聞いてないよ〜。)柏羽藤消防の二人だけ、長袖です。(またまた目立つやん。もー知らんでー。)楽屋は狭くて居心地悪いので、会館内プーラブラ。開場時間になりました。客席は満杯のようです。(へー、会場一杯になるもんやねんなあ〜。)

本番時間が迫ってきました。我々もステージ袖にスタンバイです。私は元々あまり緊張しないタイプです。でもスタンバイして、これからステージに出る瞬間までのこの時間、本番5分前が、実は私の一番好きな時間なのです。

「よし、行くぞ！」って感じでしょうか。少しでもお客さんに楽しんで頂ける演奏をしようと、気合を入れます。(実際、プライベートな舞台演奏では、本番でのテンションを上げるために、本番直前まで、気持ちの面ではダツラ〜っとして、ワザとテンションを下げる様にしています。音楽隊の出演の時には、バタバタしている事のほうが多いです。舞台に出た時にフラフラなんてね。)

演奏は、「消防行進曲ハロー・ファイヤーマン」と言う消防のテーマ曲のよ

うな曲からです。（サイレンあり、鐘ありの賑やかな行進曲です。多分、全国の消防音楽隊が演奏していると思います。）

民謡のメドレーや演歌（無銭なんか？だったかな？）その他の曲もあったと思います。私がドラムを叩く曲の順番になりました。

童謡をロック調にアレンジしたモノと、バラードの「非常に軽めの2曲」ですが、聴いてくれるお客さんには、出来るだけ喜んでもらえる演奏をと、一生懸命演奏したつもりです。（どんな本番であっても、お客さんが一人でもいらっしゃれば、一生懸命が当たり前！）歌謡曲を1つ挟んで、いよいよ本日の最終、メイン曲です。私はボンゴへ移動。本番になって気が付いたのですが、ここに私が立つと、ドラムと完全にかぶってしまいます。

客席からはドラムが殆ど見えないんちゃうかな？（ドラムの人、怒るかな？でも僕のせいじゃないからねー。）逆に、ボンゴ河井は、舞台の客席側の一番前に立って、素手ではなくスティックでボンゴを演奏してますので、視覚上も、聴覚上も目立つ、目立つ。もうしゃーない。今更どうしようもありません。曲も始まっちゃいました。（余計な事考えないで演奏に集中します。）順調に演奏は進みます。いよいよドラム・ソロ！

ドラムはいつものように頑張って演奏しています。でも、こちらはもっと頑張ります。ボンゴとドラムの音が重なっていますが、ボンゴの音程の方がずっと高いので、音通りで勝っています。（ボンゴと言うより、ティンパレス風に使って演奏しました。）ホール内に自分のボンゴの音が響いています。もう完全にこっちのものです。多分、見ているお客さんには、ボンゴ・ソロに聴こえているでしょう。（めっちゃくちゃ気持ちいいなあ〜。）ドラム・バトルが終わり曲は、クライマックスへ。

曲の最後にもう一度、数拍のドラム・ソロの部分が有りますが、あまりにも

可愛そうなので、うしろ半分はワザとボンゴを叩くのを止め、空間を空けてあげました。（優しいでしょ？まえ半分は、やっぱりボンゴの音で取っちゃいましたけど。）

大きな拍手と共に、緞帳が下がりました。（あー楽しかった。気分爽快！）舞台上を撤収です。表彰式典用に再セッティングされます。我々は、またまた肉体労働、楽器搬出です。着替えも終わって、パーカッションの人達に挨拶に行きましたが、例のドラムの人だけは返事もしてくれませんでした。どうしたのかなぁ～？挨拶も返事も出来ない程落ち込んだん？それとも、なにか気に障った？なんか怒ってんの？（この人は自分で負けを認めたんですね。良かった、良かった。ハッハッハッ思い知ったかこの野郎！）

解散になったので、会館の隣の喫茶店で休憩することにしました。

店内に入って「ゲ！」大阪府下消防音楽隊関係者で満席です。（あんまり話たくもないし）諦めて出ようとする、「まーまーこっち座れますよ。」と声を掛けられ、仕方なく着席。早く済ませて、さっさと出るつもりでしたが、隣の席にいた何処かの消防音楽隊の人（たぶん楽長さん）が、いきなり話し掛けてきました。

「さっきの、あなたの演奏は素晴らしい！！いやー本当に素晴らしい。すごい演奏でしたなぁー。ビックリしました。」と、かなり興奮気味に握手を求めて来ました。（そんな事言われて、こちらがビックリ。意外な展開です。一体この人誰やろう？）

「は～お恥ずかしいです。ありがとうございます。」

「どちらの音楽隊ですか？」このオジサン、終始ニコニコしています。

「柏羽藤の河井と申します。」

「そうですかー、柏羽藤さんですかー。本当に素晴らしかったです。いや～あ

りがとう、ありがとう！」

「いえいえ。」

こ～～んなに喜んでもらって、その上、こ～～んなに誉められてしまうと、こちらが恐縮してしまいました。（しかもお礼まで言われて。）なんだかくすぐったいです。でも誉めてもらうっていいものだなあ～。自分の消防では、誉めてもらうこと無いもん。特に音楽でなんか、つらい事、けなされる事ばかりで、誉められる事なんて絶対ない。

（だから、オッチャン、もっと言うてくれー。）

この日は、メチャクチャ気分良くして引き上げました。

後日、この日のビデオが手に入りました。見て、またビックリ。ドラムは私の影で全く見えません。（ありゃ～やっぱり。）ビデオで見ても、ドラム・ソロの主演は、音も、映像も、完璧に私が頂きました。（特にソロの部分では、私のアップでした。悪い悪い。）「音は聴こえてたけど、楽長、こんなにノッテ叩いてたん知らんかったわ～。」

一緒に出ていたはずの香川君にも喜んで頂けました。

（TPO 使い分けてるんちゃうか？）

例のドラムの方は、その後二度と再び「合同演奏」には来なくなりました。元気にされているでしょうか？（またおいでや～）

消防大賞発表会から10日ほど経ちました。私は涼しく爽やかな蓼科湖畔で、四輪バギーで専用林間コースをぶっ飛ばし、パットゴルフや観光、夜は宴会状態で、学校の修学旅行以来の旅行を楽しんでいました。（行ってから気が付いたのですが、中学も高校も修学旅行は信州だったので、同じ場所へも行きました。ハハハッ現地行って思い出した。）その頃、我が消防音楽隊は柏原市内で

パレードをやっていたはずです。みんなには申し訳ないなぁと言う気持ちよりも、出演に関わらなかつたら、こんなにも気楽なんだぁと言う気持ちの方が強かったです。でも、150回を数えた音楽隊の出演の中で、私が自己都合で出演しなかつたのは、この時だけです。（隊員達は、平気で、かわるがわる出演から抜けていますけど。）私も含めて音楽隊やってなかつたら、ずっと気楽なのでしょうね。

次回「クーチューブンカイ!？」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その27）

この頃は、当初の使用曲を、少しずつ入れ換えている途中でした。消防音楽隊は、その性格上、他の音楽団体に比べて式典やパレードが多いので、せめて行進曲は、行進曲らしいモノを選曲したいと思っていました。

そこで「双頭の鷲の下に」「ワシントン・ポスト」の2曲を練習していくことにしました。この2曲とも超有名な行進曲なので、よくテレビなどでも使用されています。曲名を知らなくても誰もが聞いたことのある曲です。

（まず行進曲を入れ換えて、ポピュラーも考え直して・・・予定はすぐ出来るのですが・・・。例の「イエスタデイ」は伝説となつてしまい、以来15年経つた今でも封印されています。）

楽譜を各隊員に配る前に聴いてもらえれば分かり易いと思い、近くのCDショップに行進曲のCDを買いに行きました。J-POPや洋楽の売れ筋は沢山ありますが、行進曲ってどこ？クラシックの隣の式典・セレモニー・効果音(?)の棚に、運動会用のCDとして並んでいました。（需要ないんやなぁ～。でも演歌の

棚も行進曲 CD 以上に商品が少なかったです。)

支払いのためレジに行くと、店員さんが不思議そうな顔をして「こちらでよろしいですか？」と尋ねてきます。

「はい。」

「こちらの商品でよろしいですね？」再び尋ねてきます。

(オイオイそんなに不思議か？行進曲の CD 買いにきたらアカンの？)

楽譜を隊員に配り、CD を聴かせます。音楽隊で使用する楽譜も CD のとおりの編曲なので、見本には困らないはずですが、ふ~~~~んって感じで、相変わらず無反応。(折角買ってきたのに。)

さて、一年前、藤井寺市で行なわれた「防火パレード並びに幼年、婦人防火クラブ結成式典」が、今年も羽曳野市で計画されていると知ったのは、9月の末でした。

「白鳥小学校から古市駅前のバスロータリーを1周して踏み切りを渡り、羽曳野市民会館までパレードした後、舞台演奏。」パレードする距離を図上で見ると、1.3キロ。(だいたい、なんでバスロータリー1周すんねん！)

相変わらず、音楽隊員の事はナニも考慮されていません。

(もう、お見事としか言いようがありません。)

まだ本番当日まで2ヶ月程有ります。正式発足から1年半。音楽隊の出演は、なんだかんだ言って、「戦慄の初出演」から、10回を超えました。練習には、毎回半数以上が欠席する状態が続いています。

例によって出演内容を隊員達に説明します。

「去年もやったアレですか？」

(隊員達も、去年の事を思い出しているようです。)

「毎年有るのですか？」

「うん、藤井寺、羽曳野と来た、この方向やったら来年柏原やろね。自分も、今回の話聞くまでは、シリーズ化されているとは知らなかったん。」

「曲は、なにしますの？」

「新曲。」

隊員の中に、「あーやっぱり。」と言う空気が漂います。

「パレードは、『海兵隊』と『大脱走』。ステージは『海兵隊』と『ワシントン・ポスト』と『双頭の鷲の下に』で行きます。」

「全部行進曲やん。」隊員の一人が言いました。

「そうや、マーチばかりや。」口々に騒いでいます。

「聞いている人、オモロくないで、なー。」

(こいつら無責任な事言うてるなあ！)

「そういう事は演奏曲を選べる程、レパートリーが出来てから言いなさい！」

自分でも、演奏曲が偏っていることは分かっていました。しかし、演奏出来る曲がこれしか無いので、仕方有りません。『ワシントン・ポスト』と『双頭の鷲の下に』は初公開です。

消防長室に呼ばれました。

「舞台演奏はどんな曲すんねん？今度の『結成式典』にも、幼稚園児もたくさん来てるから、子供向きの曲をやれよ。」

(だから、そういう事は演奏曲を選べる程、レパートリーが出来てから言う事で。)

「式典やパレード用に、今、『行進曲』を入れ換えている最中ですから、今回はそこまで対応出来ないと思います。」

「せやけど、聴いてくれるお客さんの事考えて曲決めなアカンやろ！」

(だーかーらー)

「音楽隊の状態を見ながら、段階的に練習して行きたいと思っています。」
練習では、音程やリズムは別にして（別にしたらナニが残るっっちゃうねん！）
どうにか曲が「カタチには」なって来ました。

昭和62年11月25日、水曜日。緊張感のカケラも無い雰囲気の中、パレードが始まりました。パレード中は曲と曲の間をつなぐドラムマーチを出来るだけ長〜く引っ張りました。（パーカッションのメンバーはブーブー言っておりましたが。）今でも意味が分からないのですが、駅前バスロータリーをグルッと1周します。踏み切りが開いている間に、小走りで渡りきり、隊列を組み直してパレード再開。演奏はともかく、特に事故も無く市民会館に到着しました。昨年同様、即ラッパ隊だけ会場に入りファンファーレです。演奏はともかく、無事終了。ここで一息。あとは舞台演奏だけです。（「演奏はともかく」の大安売り〜！）隊員達は去年も同様の事をしているので、どこか気が緩んでいるような感じでした。

式典に続き、婦人、幼年の両防火クラブの演技が終わりました。最後に消防音楽隊の舞台上で3曲演奏です。

次回（°o°）ガ〜ン！ です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その28）

前年は歌謡曲やアニメソングにチャレンジし、先生にも共演して頂いたにもかかわらず、ひどい演奏しか出来ませんでした。

演出や企画は、聴いてくれるお客さんを一番に考えなければいけない事は十分過ぎる程理解しているのですが、今年は「先生」の共演は無く（先生方は「今年はどうします？」と心配そうでしたが、いつまでも「過保護」状態で甘える体質ではいけないと思い、「今年は隊員だけでやります。」とお断りしたのでした。）、この舞台演奏は全て「自力」で演奏しますので、「安全策のつもり」で、今年のステージは『ワシントン・ポスト』と『双頭の鷲の下に』と『海兵隊』全部行進曲にしたのでした。前年は、すぐ後に出演する「消防出初式」用の曲を練習する時間が無くて、非常に苦労したのですが、これなら「必殺、使いまわし」が出来ます。

パレードとファンファーレが終わりました。隊員達は去年も同様の事をしてからでしょう、緊張感が感じられません。どこか気が緩んでいるような感じです。この時に気付いていれば、防げたのかも知れませんが、やはり私は、舞台の進行状況を見に行ったり、舞台袖に行ったり、バタバタイライラ。

式典に続き、婦人、幼年の両防火クラブの演技が終わり、最後は消防音楽隊の舞台です。

舞台上のセッティングを終え、例によって司会者の音楽隊紹介の後、指揮者登場です。

私はいつものように心の中で舞台の「4人の天使」に「挨拶」します。（ガンバレ、消防音楽隊第20話参照してネ。）

この時も「よろしくお祈いします！」と言っておきましたが、舞台の隅が見

えなくて少し嫌な感覚を憶えました。

1曲目「ワシントン・ポスト」は、途中で止まることも無く終了。続いて
2曲目「双頭の鷲の下に」です。

私は隊員に向き直り、努めてニッコリ。

やはり誰とも視線が合いません。舞台には35人の演奏服に身を包んだ音楽
隊員が、楽器を構えて鎮座しています。

指揮棒を構えます。隊員は楽器を構えます。指揮者が指揮棒を振り出せば、
演奏が始まります。

いや、始まるはずでした。

「サン、シ。」

ガ〜ン！ウツソや〜ん。(°o°)

35人中吹いたのは約2名。

全身の汗腺が全て全開してしまいました。頭の中では、恥ずかしい！思いと、
ふがない隊員への怒りと、真っ赤になった消防長の怖い顔でイッパイになっ
ていました。(消防長、客席で怒っているんやろなぁ〜。)

でも、やり直す訳にもいかず、そのまま強引に指揮棒を振り続けます。そう
すると隊員達は、少しずつ吹き出し、数秒後に全員が演奏しはじめ、やっと何
の曲か分かる状態になりました。

(本当にクイズ番組の問題みたいな演奏でした。)2曲目が終わり、客席に向
かってお辞儀します。お客さんがしてくれる拍手や視線が突き刺さります。す

ばやく3曲目へ突入。

もう一瞬でも早くこの場から逃げ出したい気分です。演奏予定が全て終わって隊員達を起立させ、最後のお辞儀を指揮者がします。

この時点で、情けなさを感じてきました。さっさと舞台を降ります。

(ふう～～虚脱。)照明が消えてから、隊員達は談笑しながら舞台を降りてきます。

2曲目の自分達の失敗を笑って話している隊員もいます。誰一人悪びれた様子も有りません。段々腹が立ってきました。爆発しそうです。

(ムカムカ。おーまーえーらー。)

しかし、当時は、日ごろ何の役にも立たない「メンツ」、下らん「プライド」や「スジを通す事」などに躍起になっている職員ですが、下手な演奏を恥じる神経が全く無い事を、この時痛感しました。こんなの相手に怒鳴っても、空しさが増すだけです。

消防本部に戻り解散後、消防長と顔を合わせた時、

「ご苦労さん、良かった。」と言われ、余計疲れてしまいました。

(消防長、そこまで言うたらウソですやん。今日の失敗は誰でもわかるで。良かった訳ないでしょ！)

次の練習日、集まった隊員達の前で、

「この前の演奏で、分かった。お前らみたいな奴信用出来るか！」

と言ってしまいましたが、それでも隊員は笑っています。

(ホンマに情けない奴らです。)

幾日か経ってから、何かで消防長と同席する事が有りました。

(何の席だったかは、憶えていませんが。) 期せずして音楽隊の話になり、

「……俺かて、客席でヒヤヒヤしてんねんぞ。あっへんな音出しよった、あっはずしよった。その度に、腰浮かして、立ち上がりそうになってんねんから……」

私以外の人に話していたのだと思いますが、消防長がそんな事を思ってくれているとは、意外でした。少し驚きです。

(「親の心、子知らず」と言うやつでしょうか。)

そんなに音楽隊のことを思ってくれているのならと日を改めて消防長室へ、

「消防長、そろそろ音楽隊長を決めて、事務担当係も決めて下さい。」

「そんなん要らん！」

(あれ? 即答の撃沈! 「子の心、親知らず」)

次回、「……」(次回までに考えます。from 楽長)

ガンバレ、消防音楽隊!(その29)

音楽隊の演奏依頼の中には、テープカットやクスダマの時にファンファーレとか、起動スイッチ・オンに合わせてファンファーレとかがあって言う依頼が結構あります。

そこで考え出されたのが、以前にもやった「即席ファンファーレ隊」。

音楽隊の出演の形態も全員ではなく、ファンファーレだけを演奏するために「ラッパ+ 」だけで出動します。

全員での場合は、楽器搬送用に2トンのホ口付きのトラックと、隊員搬送用にマイクロ・バスで移動するのですが、ファンファーレ隊だけの場合は、ハイエースなどのワゴン車に隊員「乗れるだけ」と、その分の楽器で現場に向かいます。

マイクロ・バスの運転は大型車両の免許が必要で、隊員のなかで運転手を選びますが、ワゴン車での場合は、普通免許で運転出来る車両ですので、音楽隊員なら誰でも運転が出来ます。この限られた人数で演奏するので、指揮者は置かず、私は打楽器を引き受けます。

ドラムセットのうち、小太鼓と大太鼓とシンバルを持って行き、打楽器パートを一人で演奏するわけです。

(ドラムが出来る人なら簡単に演奏出来る内容です。)

他のメンバーはトランペット、トロンボーン、チューバなどで全員で9人以上です。(つまり乗れるだけ。)

全員で出演するよりもずっと身軽なわけです。

が、この身軽さが災いして、気楽に派遣されるようになってきました。

演奏依頼の内容で「ファンファーレ」と記載があるだけで、

「・・・全員で行くのは、ちょっとアレですねんけど、ファンファーレだけや

ったら・・・。」

「あーそうですか。じゃファンファーレだけでも・・・。」

「すみませんねー、そんなんでよろしいですかねえ。」

「はい仕方ありませんから、ファンファーレだけでもやってもらえますか。」

「そしたらファンファーレだけ行かしますよってに。」

「よろしく頼みますー。」

ってなくあい、お気楽に「依頼側も派遣側も仕方なくて合意に至った」話で派遣させられてしまう訳です。

依頼してきた方は、「あんな事言うても音楽隊が来たら、なん曲かは演奏するだろう。」と思っていることが多いので、現場行ってから私が「この人数では出来ません。」と答えると、見る見る表情が曇ったり、なんで出来ないのって尋ねてきます。（こいつら何しに来てん！って感じです。）

「私らは、ファンファーレだけの演奏というお話で打合せされていると聞いています。ファンファーレ以外に曲の演奏が必要なら全員で来ないと、ラッパだけでは出来ないんですけど。」

「そんな硬い事言わんと、パッパッパ〜っと吹いてくれたらええねん。」

「あのね、そういうものじゃなくって、・・・。」

こちらの顔も「あん？」って感じで険しくなってきます。

「こんだけ来てんねんから、そんなもん、どないかなるやろう!？」

「ギターやピアノと違って、吹奏楽の楽器は1コで一つの音しか出せないんで、その分人数揃えないと曲にならないです!」

「なんや、ほなしゃーないな、ファンファーレだけやってや!」

「だからファンファーレを演奏するって言うてるでしょ。」

ったく～打合せ以外の事要求してんのどっちやねん！

または、逆に、主催者は十分わかっていて、ファンファーレ以外はちゃんと音楽テープを用意して会場に流していますと、こんどはお客さん達が、

「なんや、こいつら吹けヘンのかいな？」って感じで視線を飛ばしてきます。

楽器だけでも目立つのに、演奏服を着た音楽隊はどうしても視線が集中します。

こんな中で、いつまでも演奏しないで座っているだけでは、疑問を持たれても仕方ありません。

んで、やっと吹いたらへ口へ口・ファンファーレでは、冷たい視線が全身に刺さります。（どっちに転んでも、いいことナシ。）

毎年春と秋に交通安全週間がありますが、この広報に「交通安全全国キャラバン隊」と言うのがあります。

最初に出演した時の内容は、女性警官が白バイに乗って颯爽とやってきて、20分ほど式典やって、またまた颯爽と去って行きます。

我々「ファンファーレ隊」は、その会場の隅っこで「御着き」の時と「ご出発」の時にファンファーレ吹きます。

近くの幼稚園児達も来ているのですが、開始から終了までの間、全員「女性白バイ隊」に視線がクギ付けです。（これがまたカッコいいんですワ。）

我々は終わったら、楽器片付けて、さっさと引き上げます。なんか、空しさだけを感じる出演です。

でも、現在でも、たびたび依頼がある「警察関係の行事、式典」に「消防」の音楽隊でいいのかな？私たちは出演する事は全く吝かではないのですが、「警察音楽隊」が殆ど来ないのには、どこか違和感を感じてしまいます。（ウチの出演をイヤがってるんじゃなくて、府民の一人としてチョット？なんです。音

楽隊としては、全く不釣り合いでしょうが、ご一緒させていただくのも勉強になりますし、お互いの相違点が、逆にアピール度も上げると思うんです。)

府県単位だから忙しいのでしょうか、我々のような他業務をもっていて音楽隊もやっている「兼務隊」に比べ、(音楽だけを業務にしている)「専任隊」の警察音楽隊ですから、もっと積極的に演奏に来たらいいのになあって。

(警察官は人気業種らしく、採用試験が難しいようですね。特に女性の場合は、音大や芸大、他の大学の音楽専門課程などでしっかり教育を受けた高い演奏能力の持ち主で、勉強も出来る様な方が、警察音楽隊を目指して受験しても、なかなか採用されないとか。うちなんか学校のクラブでの楽器経験者すら2名しかいてないねんで。)

大阪府内人口862万人、面積1892平方キロメートルで柏原市、羽曳野市、藤井寺市で人口264千人、面積60平方キロメートルでどちらも3%以上、大阪府警察音楽隊の年間出演数が300回(一日に移動して複数回出演している様ですね。)ですので、割合から言って年間9回ほど、こちらに来る事があってもいいんじゃないのかな?そんな単純じゃないにしろ、年1回ぐらいは、府下各市に来れないものでしょうか?(数年に1回程度しか来てない様なので。)いろいろ事情がお有りでしょうが、警察署も府下全域に散らばってるんだし、せめて一署年1回以上は無理なのではないでしょうかねえ?警察音楽隊関係の方々に教えて下さいませんか?そして府民、市民の皆さんどう思われます?

(ご意見、ご感想、激励、お叱り、苦情等はメールボックスまで。ドキドキしながら待ってますからね~。)

話を戻すと、ファンファーレ隊に関しては、最近は依頼する方も慣れてきたのか、以前の様な事は少なくなっています。

(時々、主催者の担当者が、完全に他人任せで、ポケーっとしていて、音楽隊がトラブルに巻き込まれたりしましたが。)

次回、月日が経つのは早い!

「またまた府下合同演奏：今度の目標『和』」です。

おまけ：「ガンバレ、消防音楽隊！」の連載も既に今回で29回。次回の新年号は第30話!(ヒョエ~(・o・)思えば遠くへ来たもんだ。表現がちょっと違うかな?)でも、『連載30回記念特別番外編』はしませんヨ、ご心配なく。『連載50回』になったら考えようかなあ?なんてね。その時はその時。でもあと20回やったら、思っているより早く来そうでなんか怖いので、やっぱり『60回』の時にしとこっと。丁度5年、12ヶ月で割り切れるし、それやったら次号で折り返し地点やしね。

(なんか月賦払いの相談みたいでヘンですね。だいたいそこまで続くんかいな?)

さて、今年最後の掲載ですので・・・、

ドン!! 年末恒例(?)この一年間の活動をサラッと振り返るコ~ナ~~~~

(なぜか毎年になってしまったので名前付けてみました。

こんなんでもいいのかなあ?)

出演内容

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 1月 1日(月)元旦 | 平成13年羽曳野市消防団出初式 |
| 1月 3日(水) | 羽曳野市生活情報センター「リックはびきの」
竣工式典 |

1月 7日(日)	平成13年柏原市消防団出初式
1月 8日(月) 成人の日	平成13年羽曳野市成人式
1月10日(水)	柏原羽曳野藤井寺消防組合出初式
4月28日(土)	第4回全国消防音楽隊フェスティバル
5月 5日(土) 子供の日	はびきの市民フェスティバル
7月 1日(日)	第15回「大阪の消防大賞」発表会
8月 5日(日)	中河内地区消防団総合訓練
9月 2日(日)	大阪府消防操法訓練大会
9月23日(日) 秋分の日	藤井寺市民まつり
9月27日(木)	羽曳野市交通安全市民大会
9月30日(日)	大阪府身体障害者スポーツ大会
10月28日(日)	羽曳野市農業祭
10月28日(日)	藤井寺市緑化フェスティバル
11月11日(日)	藤井寺市薬物乱用防止キャンペーン

累計出演回数 160回

練習回数

毎週木曜日午前中 1回3時間 51回

この1年間の出演で使用した曲目

ツアラトウストラはかく語りけり(2001年宇宙の旅メイン・テーマ) /
 ヘンデル・ハレルヤ・コーラス(アレンジ・バージョン) / 川の流れるように
 / 明日があるさ / 雷神 / ベートーベン・交響曲第9番(アレンジ・バージョン)
 / 名探偵「コナン」のメイン・テーマ / 「ミッション：インポッシブル」のテ
 ーマ / 「ルパン 世」のテーマ / 76本のトロンボーン / 北国の春 / イエスタ

ディ・ワンス・モア / ドラえもん / 錨を上げて / 青春の輝き / YAYA ~ あの日に
帰りたい / 慰霊の歌 / 君が代 / 得賞歌 (勇者は帰りぬ) / 巡閲の譜 / スリー・
ファンファーレ / セヴンス・ファンファーレ / 威風堂々 / 北酒場

(曲名だけはスngoイのが入ってます。)

毎年の傾向は約6ヶ月に集中するのですが、今年は12ヶ月中4ヶ月に出演が
無く、あとの8ヶ月、特に1月と9月には4回の出演がありました。隊員の体
調管理も私の仕事になりそうです。

「痛ましい事故や災害に遭われる方を少しでも減らしたい。」今年は16回の
出演で、どれほど皆さんに届いたのか? 隊員35名中2名しか楽器経験者が居
ない上に、練習時間が全然足りなくて、非常に拙い演奏ではあります。でも、
柏原羽曳野藤井寺消防組合の音楽隊は「音楽演奏家」、いわゆる「プロ集団」
ではありませんし、またそれを目指して育てているつもりはありません。

(「目指せるものなら目指してみろ!」とか「目指して」どうすんねん!とか
って突っ込まれそうです。下手なのを言い分けしているんじゃないんですよ。
そりゃ上手いに越した事はないです。)

うまく言えないんですが、上質な音楽の提供を単に「主」と考えるのでな
くて、演奏服や規律、動作等の視覚上与える効果やイメージも、消防のメッセ
ンジャーとして、音楽隊の持つメッセージを発信し、聴いてくださる皆さんか
ら返してくれたものを受信し、フィードバックしていくと言うような。理由や
目的ひとつづつ挙げるだけでは十分に説明できないような、多重的な存在意義
があるような……。 (あ、もう分からん! (>_<))

だから、もっともっと、演奏スタイルや出演内容にもバリエーションを加え
て、沢山の皆さんに聴いていただける機会を増やして行きたいと考えています。

演奏の指導や奏者育成と言う楽長の仕事に、プランニングやプロデュースに占める割合が大変大きくなって来ています。隊運営も出演も全部含めて。)

まだ内緒だけど、暖めているアイデアやプランは、胸のなかで抱えきれないほどあります。暖めすぎて、溶けだしているものもありますが。

(アイスかい！)

全国の消防音楽隊の皆さん、特に神戸市消防音楽隊の方々には大変お世話になりました。我々にとっては「大きな飛躍」になりました。

(詳しくは「連載2周年特別番外編」の方で。) ありがとうございました。

高久先生、竹平先生、小田先生、辻本先生、伊勢先生、岡田先生、高見先生、稲垣さん。これからも、いつまでも、お願いだから見放さないで下さいね。

(稲垣さんは、「世界バトントワリング選手権」連続7連覇中。

名実ともに世界一で、「笑っていいとも」などTVにも出演したバトン界の で、何度かウチと共演してくれた事があります。いつも日本中、世界中を飛び回っています。時間出来たらまた来てくださいね。待ってます。)

そして、音楽隊を「陰」となってバックアップしてくれている大勢の皆さん、いつもありがとうございます。本当に「お蔭さま」の意味と存在を毎日感じ、有り難く思っております。

特に柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊隊員の家族の皆さん。

発足からの出演一覧を見ても約6割、今年は約9割が土日祭日の出演です。この事が音楽隊員本人達にも大変大きなストレスになっています。

我々音楽隊と言う「特殊業務」は、多くの「人」のご理解とご協力の上に成り立っています。

どうか、これからも暖かく支えて下さいますようお願い致します。

(自分が支えているつもりでも、本当は、「大切な人」が支えてくれて、癒されたり、元気をもらったりしているのですね。)

神保 彰さん(ニュースステーションでもカッコ良かったよ~。)、Mrデ
イヴ・ウェックル、萩原 尚さん、・・・

今年も私個人的に直接お会いして、いっぱいお世話になっちゃいました。あ
りがとうございました。来年もお会いしましょう。

最後に、このHP、楽長のコーナー「ガンバレ、消防音楽隊！」に応援を沢山
頂きました。ありがとうございました。皆さんの励ましの「お話」や「メール」
とても喜んでおります。読んでくださる方がいらっしゃる限り、連載を続けて
行きたいと思っております。

(一応現在所属している予防課に仕事もしていますので、時間がなくて毎回締
め切りに追われ、もう既に体力勝負の様相を呈していますが。そう言えば、最
近原稿の量が多くないですか？皆さん、すみません、読むのも大変でしょ？電話
代かかるからオフラインにして下さいね。)

「戦争の世紀」と言われた20世紀から、「平和の世紀」と言われる21世紀
最初の1年、皆さんはどうでした？

えひめ丸沈没、6K、旧石器発掘ねつ造、そばめし、セーフガード、ミルチュ
ー、ケイコ先生、USJ、エリンギ、出会いサイト、バーミヤン石窟破壊、M&D、チ
ェンジ盗、マイライン、女性専用車両、汚ギャル、聖域なき改革、抵抗勢力、
ICHIRO&SHINJYO、ブロードバンド、タウン・ミーティング、米百俵、塩爺、外
務省裏金工作、伏魔殿、サメ騒動、ナノテク、酷夏日、24億円宇宙観光旅行、
ジュラシック・パーク、千と千尋の神隠し、ファイナル・アンサー、雑居ビ
ル火災、アメリカテロ事件、不朽の自由、イーブル・イーグル、ショー・ザ・

フラッグ、BC兵器、TDS、背番号「3」辞任、ジンジャー、狂牛病、ジョージ・ハリソン死去、ハリポタ・・・。

暗い、悲しい話題の方が圧倒的に多かった気がします。

私個人的には新天地へ突入してしまいました。めちゃ目まぐるしい激動の1年だったです。(バイクも買ったし、読めない程イッパイ本も買ったし、久しぶりにギターも買ったし。暫くこの状態が続きますが、ちょっとオーバーワークで消化不良です。)

このHPの更新が月半ばと中途半端に変更されているので、次にお目にかかるのは成人の日以降ですね。

それでは皆さん、

MERRY X'MAS & HAPPY NEW YEAR !

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

FIRE MAN'S BAND

Conductor & Drum Major

Wishing you the best

FIRE CAPTAIN YOSHIFUMI KAWAI

ガンバレ、消防音楽隊！(その30)

新年明けまして、おめでとうございます。更新日が月半ばになっているので、この挨拶はもう時期外れに感じますね。

柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊は、1月13、14日の出演を終えてホ　　っと一息ついているところです。

年齢を重ねる毎に、月日の経つ早さに驚いてしまいますが、でも本当は、1年後の自分の事も分からないのですよね。（厳密に言うと一瞬先の事さえ。）

実はこのコーナー、「ガンバレ、消防音楽隊！最終回」はもう書いてあるのです。もし、不意に連載が終わる事になってもいいように。

自分で書く事が出来ない事態がいつ起こってもいいように。何事にもいつかは「必ず終わり」が来ます。だからこそ、その時には必ず「自分の言葉でお礼」を言いたくって。限りある日々だから「生きていると実感しながら日々を送りたい」「本当の意味で生きていたい」と常々思っています。

さて、今年はどうな1年になるでしょう？もう不幸な、悲惨な事件・事故が起こりませんように。

本年も「消防音楽隊」と「ガンバレ、消防音楽隊！」と「私」をよろしくお願ひ申し上げます。m(__)m

柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊は、「大阪の消防大賞」選抜合同演奏だけを見た大阪府内の他の消防音楽隊からは「ほ～結構やるやん！」、音楽隊の通常出演を見た役所関係者からは、「ん～ん。ねえ～。まー仕方ないんですよ。」と言う反応、消防本部内部からは「ど下手くそ！」と言う正反対の評価を頂いておりました。

「消防大賞」には、香川君と私の経験者二人しか行かないので、全体での演奏をきいた事が無いのです。

この時点では良い評価の方が間違いと言えるでしょうか。

出演としては、毎年の恒例行事「消防出初式」では、寒～い屋外で、超寒～
～～～い演奏をしてはヒンシュク、失笑をかっていました。

そして4月頃、これも恒例の「大阪の消防大賞」府下消防音楽隊合同演奏の
打合せ会議がやってきました。去年は会議でも演奏でも「暴れた」ので、今年
は波風立てぬように気を付けます。

「…、それでは次の議題、演奏曲についてご意見いただきますように。」

「堺高石さん、どうです？」という議長の呼び掛けにも、

「いえ、ウチはなんでも結構です。」

「枚寝さんは？」

「ウチも特に。なんでも（大丈夫ですから）。

もう大阪市さんで決めてもらったら。」

お互い牽制しあってなかなか意見が出ません。

皆がそう言うのならと、（どこか満足気に、）

「そうやねえ～、ウチでやってる曲でいいヤツで、ね～ん～…」

アカン、イライラしてきた。でも我慢、我慢。

「チョット譜面とか持って来てもらてー。」

自隊の隊員に指示してます。

（時間無駄やなあー。用意しといてーやー。（-.-））

暫くしてから、候補曲の譜面が大きな都市だけには廻されて、「あーいい曲
ですなあ。」なんてやってます。

今回は富田林市消防音楽隊と席が離れていて、話が出来ません。

しゃーない、もう黙ってられへん。

「あの一済みません、柏羽藤ですけど・・・」

(大半の人は「またお前か。」って雰囲気です。反対に数少ない私に好意的な出席者は、「もう余計な事言うなよ。」と言う眼差しでこちらを見えています。詳しくは『ガンバレ、消防音楽隊！(その23)』参照下さい。でも、そんな事気にしていたら何も出来ません。とにかく気にせず続けます。)

「今、譜面は手元にないのですが、こんな曲どうですか？これやったらこちらにもCDあるんじゃないですか。あ！今、議長が手に持って眺めてる、そのCD。そこに入っていますよ。ね！CD聴ける用意してないんですか？CDラジカセぐらいあるでしょ？説明だけじゃ分からないでしょうから、みなさんの前で今かけてもらえませんか？」

見る見る議長の眉間にシワが入っていきませんが、しかし、反対も出来ず仕方なしに言う感じです。

「ほんなら柏羽藤さん言うてる曲のCDあるらしいから、少し聴きましょか。」
(あるらしいって今持って見てたやん。イヤなんかい?)

私は提案してしまった立場上チョット神妙にしていますが、出席者達は、
「シ ン(-_-)」

まずい！空振りしたかな？

議長(本番では指揮者。)は、

「この曲は大変ですよ、特に木管パートはねー。どうしてもやれって言うならやりますけどね~、ん~。大変やなあ~、どうかなあ~。これ譜面手配できますのか？」

「(^^)今はまだ何も(手配していません)。」

「それやったら他の探す方がいいでしょー。」

議長はダルそうに渋い表情で牽制します。

(ハイハイ余計な事言いました、私が悪かったです。済みません。今日はもう喋りませんから、どうぞ会議お続けください。お邪魔しました。)

それまで議長を取り巻いていた出席者達は、状況を静観していて態度保留、無反応です。

(無反応ってのが一番辛いなあ。なんで黙ってるん。さっきまで主になって話してたやん。)

その後候補が何曲か出され、あとは挙手で決めていきます。

何故かは憶えてませんが、私の提案曲の「決」を取る順番は最後の方だったと思います。

「では、柏羽藤さんから提案の曲が良いと思われる方、挙手願います。」

(提案した曲が一番いいと思うんやけどなあー。自分ひとりでも手挙げようっと。)

しかし、意外や意外、賛成大多数でこの曲が今年のメインに決まっちゃいました。(あれま!?)

曲名は「ジョン・ウィリアムス・メドレー」

(E.T. ~スター・ウォーズ・メインタイトル~ さよならエリオット) です。

「さっきも言いましたけど、この曲は大変やなあ~、皆さんがどうしてもやれって言うなら仕方ないですな~、ん~。」

また同じ事言ってます。でもさっきより声が小さくなってます。(イヤならイヤとハッキリしなさい!)

会議が終わってから、いままで黙っていた出席者達が声を掛けてくれます。

「河井さん、あれ、手応えありそうな曲ですねー。」

「面白そうな曲ですねー。」

皆さん反応は上々です。（それやったら会議で発言してや！）

選抜のメンバーでは、柏羽藤からは毎度おなじみ香川君と私です。

1年ぶりの「合同練習」です。去年の事が蘇ります。今年は最初から「気持ちは戦闘態勢」で向かいます。（これも、『ガンバレ、消防音楽隊！（その24 & 25）』で詳しく。）とにかく大阪市のパーカッションの人にご挨拶、他都市の人達にも。

（あれ？大阪市以外、1年前のメンバーとは全員入れ替わっています。）

「こんにちは！今年もお世話になります。よろしくお願いします。」

「あー、たのんまっさー。」（当時の大阪市の人いつもこんな感じでした。）

「今年は何を担当させてもらったらいいですか？」

「まだ何も決めてませんねん。」（出た。去年と同じや。）

「じゃ、おまかせしますので指示して下さい。」

もうええわ、面倒なので多くは言いません。

でも暫くすると、曲名と出演者と必要な楽器名が書かれたメモ用紙を持って来られました。（？）

「柏羽藤さん、どれ担当してくれますか？」

へ～～少しは進歩してるやん。良かった～去年言った事が分かってもらえたのかな、頑張った甲斐がありました。

（でも、もう一息！最低限、練習日までに決めるようにしましょうね。）

そうやって決めるんなら、私だって無理は言いません。

「先に他の皆さんの希望を聞いてあげて下さい。私は何でも結構ですから。」

「いや、柏羽藤さんが最後でんねん。」

ガクッ、最後かよ。

「どれが空いてるんですか？」

メモを覗きますが???走り書きなので見ても分かりません。

「なんでもいいです。おまかせします。」

「じゃー、これと、これと、これと、これと、これもやって下さい。」

「エ、こんなに?私は構いませんけど、他の人はいいのですか？」

「柏羽藤さんにやってもらってくれと。」

去年とは、扱いがえらい違うなあー。どうなってんの?

「皆さんがいいとおっしゃるなら、頑張ります。」

と言う訳でメインの曲も含めて演奏曲の半数はドラムセット、残りはシンバルや大太鼓になってしまいました。

指揮者(会議の時の議長さんです。)は冴えない顔してましたが、私は、3回ほどあった合同練習の、その時間のほとんどでドラムセットを叩いていました。

そして、本番。堺市民会館。良く晴れて暑い日でした。今回は我々も半袖。

(以後、表現が紛らわしいという事で、「盛夏服で」と言われるようになりました。)

次回「気分良く行ってみよう!と思ったのに…」です。

ガンバレ、消防音楽隊!(その31)

本番当日は良く晴れて、ジリジリ暑い日だったと記憶しています。

会場となる堺市民会館に入り、いつものように楽器搬入です。

最近の「『大阪の消防大賞』発表会」は天王寺区にある大阪国際交流センター大ホールが会場として固定されていて、合同演奏で使う打楽器は大阪市消防音楽隊の楽器を借りていますが、当時は会場持ち回りで、打楽器のほとんどを開催地の消防音楽隊に借りていました。今回私が主に使うドラムセットも「借物」なので、頑張ってセッセと働きます、少なくとも本人はそのつもり。

少し専門的なお話で恐縮しますが、極端な言い方をすると、一口にドラムセットと言っても決まったモノは有りません。ドラムセットと言うぐらいですから、太鼓類を中心にした楽器の組み合わせである事は想像して頂けると思います。

では、何を、どのように、どれだけ組み合わせるかは全く自由なのです。俗に言う3点セット（大太鼓1コ、小太鼓1コ、タム2コ、シンバル2枚、ハイハット1組）程度のモノから、「どうやって演奏するの?」と不思議がられるような巨大セットまで見る場合があります。

私個人所有のドラムセットは、大太鼓1コ、小太鼓1コ、タムタム5コ、ロートタム3コ、シンバル6～8枚、ハイハット1組で比較的ちよいとデカイ！（電気ドラムのパットを組み込んで使っている事もあるのですが、もう引越しのようになってしまいます。現場行ってから電気ドラム用の電源探しにウロウロ。「ドラムも電気無かったら音鳴らないなんて、ヒドイ時代やって。」言われる事もありました。）だから運ぶのも、組み立てるのも大変です。

（タイコが増えるとその分鉄パイプで出来たスタンドも増えるので、飛躍的に重量が増します。）

演奏する頃にはヘトヘト。撤収の時には身体動きません。でも 神保彰氏直筆サイン入り（ニュース・ステーションに出演していた世界に名を馳せる超ハイテク・ドラマーです。）

国内では、村上"ポンタ"秀一氏の巨大セットが有名ですが、でも世の中には、超巨大ドラムセットを操るドラマーも居てまして、テジー・ボジオと言う人のドラムは、大太鼓5コ、小太鼓1コ、タムタム14コ、シンバル35枚以上、ハイハット4組などなど。でも、ただデカければいいと言うモノでは無く（チッコイからいいと言うモノでも無く）、演奏ジャンルやスタイルや求める音などで必然的にそうになっていくモノなのです、念のため。あーそうそう、脱線ついでに言うと、たいていの楽器には専用ケースが付いて来ますが、（よっぽど特別な場合を除いて）ドラムにはケースは付いていません。求める音楽スタイル+楽器の材質、グレード、サイズ、デザイン+スタンド類+ケース+置場所+防音（振動）+予算を考えないとドラムは買えません。空になったケースも非常に場所を取るのですが、これが無いと搬送の時に1コづつ毛布にくるまなければ運べないなんて事になります。ケースにも、ビニール製からファイバー製やフライト・ケースまでランクがあって、いいモノは高くて頑丈、その分重い！電車やバスでは運べないのでそれなりの車も必要です。難儀な楽器でしょ？ウチの隊員でパレード出発前に手ぶらなので驚いて「楽器は？」と尋ねると、胸ポケットからピッコロを出して「ニッコリ(^_^)」。小さい楽器は運ぶのは楽ですね。

（でもポケットに入れるんじゃねえ。）

済みません、話を戻します。この時も堺市高石市消防組合音楽隊のドラムセットをお借りするのですが、これがまた少々マニアックなセットでした。（4

点セットで見かけは普通なんですが、ハイハットはスタンドでなく、リモートハッツだけ。他にもいろいろ。)

今日は、堺市高石市消防組合音楽隊のパーカッションの方はドラムセットを使わないのに持って来てくれ、そのうえ組み立ても一緒にしてくれます。

「河井さん、シンバルの角度はどれ位にします？」

「タムの高さはこれでいいですか？」

「ありがとうございます。適当にしてくれば、後は自分でしますので。」

恐縮しながらセッティングを終えました。

「よし、今日は頑張ろうっと。」

開演まで少し時間があるので楽屋に休憩しに行くと、大阪府立消防学校初任科生の同期一人が私服姿で楽屋に居ました。

「こんにちは。お久しぶりですね。」と声をかけると、

「あ〜〜、今日はなんや？出んの？ふ〜〜ん。」

あれ？なんか感じ悪い。歳もそんなに変われへんのに、偉そうやなあー。

この人は、消防学校初任科生のときから「俺は、修業後すぐ音楽隊に引っ張ってもらえる約束になってるんや。(お前らみたいなのとは違うねんぞ!)」と事ある毎に自慢していた事を思い出しました。

「音楽隊やってるんでしょ？去年も今年も出てないんですね。府下合同演奏には出ないのですか？」

「俺とこの音楽隊は2軍しか出せへんねん。」

「エ？」

「こんな程度のもの、わざわざ俺の出る幕ちゃう！」

あまりに意外な言葉にポッカ〜ンとしている私を一人残して、彼は楽屋を出

て行きました。その後から腹が立ってきました。ムッカー！！

(人間って、突然自分の思考範囲からかけ離れた事態に直面すると、即座に反応出来ないですね。そんな経験あるでしょ?)

「今年は気分良く行ってみよう！」と思ったのに。私個人だけでなく、出演者全員の事もバカにされた様に感じます。(なんてヤツや。)頭来るなあ。あ気分悪い！

いわれのない侮辱と反撃の時期を逸した事にイライラします。アカンやん、もうすぐ本番やのにメッチャ気分悪い！！

気分転換に屋外へ出て晴れ渡った空を見上げます。もう夏の太陽です。

(あっつ~。)心が落ち着くまで日に当たります。汗が滲んできました。超無礼な心の狭いクレイジーな輩の事は忘れて、お客さんと演奏の事だけ考えるようにします。自分で自分を誉めて、他を見下している人間に限って、自分より「上」の人間の前ではヘラヘラしてみっともないんですよ。表裏の極端な人間って大嫌いです。憶えてろー、この悔しさは演奏の出来で見返してやる！

(当時は考えもしませんでした。今、改めて考えると、この人の性格は相当屈折してるのじゃないかな。可哀想な心の持ち主です。)

屋内に比べると強烈な日差しを浴びて少し落ち着きました。そろそろスタンバイの時間です。舞台袖に待機します。

いつものように共演者に声を掛けます。「本番よろしくお願いします。」

今日のドラムセットは、舞台下手のクラリネットの後ろに、やや客席の方を向いて配置されています。

(クラリネット奏者の方々からは非常に嫌がられる場所です。)

ドラムセットの椅子に座ると客席が見渡せます。

(ドラムセットは専用の椅子に座って演奏するのが普通です。以前プライベートで出演した所で、ドラムは用意されていると聞き安心してリハーサルに向かうと、ドラム椅子が無かった事があります。普通のパイプ椅子では全然高さが足りないの、ホール備え付けのゴミ箱を裏返しにして使いました。ゴミ箱も曲がっちゃいましたが、お尻も痛かったです。元の場所へ、そっと返しておきました。)

さ一本番。演奏は順調です。後半の曲目はほとんどドラムセットを担当しますので、ドラムに座りっぱなし。

司会者が次の曲の紹介をしている間、さっきの「同期」を探してやろうと客席を何度も見回しましたが、舞台以外は暗いので、いくら目をこらしても見つけられませんでした。

(残念。でも会場のどこかに居てるんやろう、チャント聴いとけヨ！)

会議で賛成多数にて決まったメインの曲もスンナリ演奏、無事本番終了、気持ち良く演奏出来ました。

「あー面白かったー。」と思う間もなく、「ハイハイ、終わり終わり。」みたいな感じで、ドラムセットは貸主の手によって早々と撤収、収納が行なわれています。(アノ～自分でしますから～。)出演者の皆さんにご挨拶を済ませ、引き上げました。

翌々日、消防長に遭ってしまいました。

「この前の消防大賞、ご苦労さん。」

「お疲れさまでした。」(ありゃ～来られてたんですか～。)(^_^;)

「お前、舞台上でキョロキョロするな！」

「キョロキョロしてましたか？」

消防長は来てないと思ってたもん、どうせやったら去年来て欲しかったなあ

—

「なに探しててん？」

「エ!?いや、あの、え っと、消防長のお姿を…」

「うそ付け！」

「ウッ。」

(やっぱり分かりますか?)

おまけ: これまでたくさんの方々にご声援を頂いた「ガンバレ、消防音楽隊！」

は今回の第31話をもちまして、100,000文字を突破致しました。こ

れも皆さんのお陰と感謝致しております。これからも末永くお付き合いくださ

いますようお願い申し上げます。(^^) FROM 楽長

(まだ続くんかい! って怒らないでネ)

ガンバレ、消防音楽隊! (その32)

この年は、昭和天皇のご様態が思わしくないということで、日本中でイベントが中止されました。

我々の消防音楽隊も消防出初式以外に3回しか出演がありません。

音楽隊の講師として来てもらっていた友人は、演奏会の中止も多発し仕事がキャンセル続きで「月収が半分以下になったから家賃が払えない。」と途方に暮れていました。

しかし、幼年消防クラブ及び婦人防火クラブの結成式典は、昭和61年藤井寺市、昭和62年羽曳野市と来たら昭和63年は柏原市の番です。今回の内容はパレード無し(嬉しい(^_^))ファンファーレ1回と舞台演奏15分のみ。

場所は平成10年に閉館、解体された旧柏原市民会館大ホールです。

「今年も防火クラブ結成式典があります。」

「またあのか〜」「パレードやめようやー。」と隊員達。

予想どおりの反応です。

「今年は柏原市ですが、パレードは有りません。」

「よっしゃ、やった〜(^o^)」

「ファンファーレと15分の舞台演奏です。」

「曲なにしますの？」

「去年の失態を反省してもらうためにも、去年と全く同じ曲を同じ順番でします。」

「エー？またあれ？」

「そうまたあれ。お前らが、去年ブザマな演奏をしてもヘラヘラ笑ってた3曲。今年もしてもらいます。」

「もうええやんけ。」

「皆がちゃんと練習して、キッチリ演奏する気になるまで永遠に繰り返します。」

「ブ〜ブ〜。」

口々に文句言っても、パレードはないし今年で3回目やし曲目は同じやし、隊員達は楽勝ムードでんこ盛り。

このままやったら本当に永遠に繰り返す事になりそうです。まーそれもいい

か。多小開き直りも憶えました。

今回は2つの私立幼稚園の園児が舞台演技しますが、そもそも音楽隊の演奏が問題なので、幼稚園児の演技は気にならなくなりました。練習は毎週1回2時間しかないのに、相変わらず半数以下の出席しか有りません。そんな中、昨年の式典での失態を思い一人イライラする私でした。

いつものようにトラックとマイクロバスに乗り込み出発です。

式典では、まず「ミスぶどう」が開会宣言をしてファンファーレです。

(この当時はまだ「ミスコン」が各地で行なわれていたのですね。)

ファンファーレ隊は舞台の隅に、私は客席の中央通路で一人突っ立ってスタンバイです。(恥ずかしいなあー)

「……を宣言します。」

「　　プアツプア～プア～、へ～ロヘロ～」

パチパチパチ、一応拍手はありましたが、ファンファーレと言うより、ナニか分からんと言う感じでした。(大爆笑でも起きれば逆に気が楽になるんですが。)

客席に居た私は逃げるように場外に移動します。

第一部が式典で、第2部がアトラクションになっています。

幼稚園、次が音楽隊、3番目も幼稚園で最後が婦人防火クラブの演技です。

この日の司会者は舞台準備の合間にインタビューをして場つなぎします。

インタビューされているのは、先ほどの「ミスぶどう」と「準ミスぶどう2名」の3名です。スラッとしたスタイルで綺麗なおねえさんたちです。

「おいつつですか？」

「19歳です。」「21歳です。」「同じです。」

「ミスぶどうは、どのようにして選ばれるのですか？」

「40人程の中から選考されました。」

「今年は柏原市市制30周年で大変ではないですか？」

「ハイ、忙しいです。」

「ところで趣味は？」

「ハイ、・・・です。」 「私は、・・・です。」 「私は、・・・が好きです。」

「どんな男性がタイプですか？」

「私はルックス重視なんです。」 「私は信念のある方が好きです。」

「カッコいい人がいいです。」

「今日は消防署の方がたくさん来てますが、いかがですか？」

「ハイ、機会があれば。」

「男性で我こそはと言う方は是非アタックしてみてもいいかでしょうか？ミスぶどうの皆さんでした。ありがとうございました。」

私にしてみれば「な～に言ってんだか。」って感じです。

幼稚園児の演技が始まったのを見て舞台袖に移動してスタンバイです。

「戸締り用心、火の用心、戸締り用心、火の用心、・・・」

可愛らしい声が会場に響いています。（どうあがいても、子供には勝てません。）

演技が終了して、我々の演奏用に椅子が並べられていきます。

この間も、緞帳の前では演技が終わったばかりの幼稚園児2人と指導の先生がインタビューを受けています。

質問に答えるたびにお客さんに受けているようです。

舞台準備が完了して、緞帳が上がり紹介があってから、舞台に出て行きまし

た。「今年は、空中分解しませんように。」

この時、舞台袖では、幼稚園の先生たち数人が消防音楽隊の演奏を期待して集まって来ていたらしいのです。今まで数々の期待を打ち砕いてきた我々の演奏は、この時もメガトン級の破壊力を見せました。

私が客席にお辞儀して、指揮台に上がり、指揮棒を振り出した瞬間、ワクワクしていた幼稚園の先生達は「ブッ！」とふき出し、あきれ顔で出て行ったと言う事です。去り際に、そこにいた消防職員に「チューニングしてるんですか？」と言いながら。

一年前と全く同じ事をしていきます。問題の、（全部問題なのですが、）特に問題の2曲目「双頭の鷲の下に」が来ました。隊員達に念を押すように目を合わせてから、指揮台に上がり、音だけは出ました。（演奏は相変わらずメチャメチャですが。）

ハ～、とりあえずひと安心です。

最後の曲は今日の演奏曲の中で一番簡単な曲です。でも、行進曲ばかりで客席も飽きてきているようです。指揮の途中で客席の方を向いて手をたたき、お客さんのご協力の手拍子を頂きながら終了。とにかく、「空中分解するな。」と言う「願い」だけは叶いました。

「消防音楽隊の素晴らしい演奏でした。大きな拍手をお願いします。」と言う司会の言葉を聞きながら、客席に丁寧にお辞儀して退場します。と、当時副隊長の北田さんと私は緞帳の前に出るように言われました。（げっ！インタビューーや！）

「今、素晴らしい演奏をして下さった消防音楽隊の方です。」（素晴らしい、素晴らしいって言われる度に、その言葉がグサリ、グサリ胸に刺さります。）

「消防音楽隊が出来てから、どれ位経つのですか？」

「発足から3年になります。」

北田さんが質問に答えています、あの演奏の直後なので横で見えていて少し気の毒です。私もここに立っているだけで辛いなあって感じです。(さっさと消えたいよ。)

「たった3年とは思えない演奏でしたね。」

「……(--;)」

(「じゃー何年やと思えんねん。」心の中で突っ込んでました。)

「練習はどうされているのですか？」

「毎週2時間、非番日の者を中心に行なっています。」

「もちろん、皆さんはプロの演奏家では無い訳ですが、以前に楽器の経験はあったのですか？」

「いいえ、全く。」

司会者がこちらを見ました。(うあ、次は私ですか?)

「その服は音楽隊になったら全員もらえるのですか？」

司会者のマイクがこちらに向きます。もう、適当に答えとこうっと。

「はい、似合う人しか音楽隊に入れません。」会場から笑いが。

意外に適当に答える方が喜ばれるみたいです。

「カッコいい演奏服ですね、今日はミスぶどうのお嬢さんたちも来られてますが、……」

(あれ?話をそっちに持って行くの?危険なカケやで。)

「ミスぶどうの皆さん、いかがですか？」客席の最前列中央に座っている3人に向かって尋ねています。

「……………」意味不明の微笑みを浮かべる綺麗なお姉さん3人。

(ほーら、空振りやん。司会者しくじったナ。)私に向き直った司会者が、

「どうですか？」

(おいおい、こんどはこっちかよ！もう終わろうや。)

「綺麗な方々ですね。」

「アタックされたらどうです？」

はぁ？なに言うてんの？なんで舞台の上でそんな事発表せなアカンねん。盛り下がってしもた話をこれ以上引っ張っても無駄。綺麗なお姉さん達の方を見ましたが、意味不明の微笑みのまんまで。 (ええよなぁ～、ニッコリしてるだけで。これ、俺には拷問やぞ。もー強制的に終わらしちゃおうっと。)

先ほどのインタビューで「ルックス重視で、カッコ良くて、信念のある」のがタイプと言っていたのを思い出しました。ルックスもカッコもイマイチで、ひけらかす程安っぽい信念は持ってないので、

「ハハハ、書類選考の時点で落とされるでしょうから遠慮しときます。ニッコリ (^.^) 今日はどうもありがとうございました。^o^ m(__)m」

強制終了させていただきました。(パソコンみたい。)

これを受けて、やっと司会者も

「消防音楽隊の皆さんでした。パチパチパチ～」

(は～やっと終わった～～。脱力。)

このあとは幼稚園児の鼓隊演奏と婦人防火クラブの演技があって閉会しました。

年が変わって、昭和天皇崩御、時代は「平成」へ移ります。

次回「通過!?3連発」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その33）

消防に就職する動機としては、「人の役に立ちたい。」とか、「レスキューに憧れて。」とか、「実際に助けられた経験から。」と言うのが多いと聞きます。

（実際のところは分かりませんが、志望理由ではこうなっているようです。）

「消防音楽隊に憧れて。」とか「消防音楽隊に入りたくて。」ってのは、柏原羽曳野藤井寺消防組合では未だ全く聞かれません。ですから、新規採用者を「強制入隊」させながら入れ換えを行なってきましたし、現状でもあり得ます。

ここ7～8年は、新規採用者が各部署に配属されて数年間してから、面談後、本人の意思もチョッピリ考慮して「強制入隊」させています。（結局は強制なのです。）でも今日の「音楽隊員」は、こんな指揮者の元でも努力を惜しまず、本当に良くやってくれています。（感謝、感謝。）

さて、我々の消防本部の外郭団体に柏羽藤火災予防協会と言う団体があります。

更にその中で色々な部会が設置されているのですが、その内の一つ「自衛消防隊部会」は、独自に出初式を行なっている時期が有りました。以前にもお話ししましたが、この「消防業界」では、出初式は避けて通れないのです。

しかし、寒風に晒されて鳴らなくなった楽器と格闘しなければいけない消防音楽隊としては、つらい出演の一つです。

幸い「自衛消防隊出初式」には音楽隊の要請は無く安心していたのですが、

今回は（知らないうちに）

何故か出演することになっていました。隊員に出演内容を説明しても今まで出演要請無かったのに「なんで？」と言う感じです。

この時の詳しい経緯は思い出せませんが、「フラッグ隊の演技」をして見ようと言うことになり、丁度、大阪府立消防学校の初任科教育を終え、音楽隊に強制入隊させられたばかりの新規採用者に白羽の矢が立ったのでした。フラッグ演技の指導は副楽長の香川君、私は演奏の指導です。曲は、これもなぜか「宇宙戦艦ヤマト」のテーマ曲です。

（なぜこうなってしまったのかなぁ～？）

演奏側は楽譜を完全暗記、演技側は振り付け暗記です。

前日の雨でぬかるんだ河川敷で「自衛消防隊出初式」が行なわれました。

「フラッグ演技」以外はテントの中で座って演奏です。

（それでも足元ジュークジューク。）

式典の中ほどで我々がグランド内に入場して演技開始です。

「誘導するから、後に付いて来てヤ。」

後ろに続くトロンボーンの隊員に説明してから、私は指揮杖を持って隊員達の先頭を歩きます。

会場となった河川敷は幅50メートル不足です。

来賓や主催者のテントからフラッグ演技が見やすい様に20メートルほどだけ離れた演技スタート地点を目指します。

「？」

どうも後ろの気配が消えたような？

チラッとだけ振り返ると、ゲ！（*o*）誰も居ません。（なんで？）

隊員達は先程のトロンボーン隊員を先頭に、川に向かって一直線。

(オ～イ、皆、どこ行くの？こっちこっち。)

声を出して呼び返す事も出来ず、「これが予定どおり。」みたいに平然とした顔で、来賓や主催者のテントから20メートル離れて式典グラウンドの真中にポツンと私一人、更に20メートル以上離れて音楽隊員達。

やり直しも出来ないのもそのまま演技スタート。

来賓テントから遠い遠い。フラッグ隊はイヤイヤ半分、恥ずかしい半分で暗い表情です。

演技終わってから事情を聞くと、「なに言われたのか意味が分からなかった。」と先頭のトロンボーンの隊員。他の隊員達は、先頭が指揮者に付いて行かないので不思議だったけど、どうしようもなかったとか。式典終わって他の職員から、「どこまで行くねん！」「川に入るんかと思った。」「来賓テントから離れすぎや！」と散々文句言われてしまいました。

(これ以後、音楽隊の要請は無くなりましたとさ。チャンチャン)

続いて、柏原市にポーランド友好親善少年少女合唱団が来るので、市役所前で歓迎の演奏をするという出演が入りました。御一行のバスが到着したら市役所に入るまでの間、消防音楽隊が演奏します。使用曲は今までの使いまわしでOKなので、改めて練習しなくても良かったのです。

当日、市役所前に並べられたイスに座って待機。係の人が携帯電話で連絡を取り合ってます。

「もうすぐですから、お願いします。」

「ハイ。」

「あっ、あのバスです。」

指差された赤いバスが停車したのを見て演奏を開始しました。先に引率の大人数名が降りて大股で市役所に向かって行きます。市役所の係の職員も「よう

こそ、ようこそ。」と言う感じで建物の中に入ってしまいました。遅れてバスから降りた少年少女合唱団のオコチャマ達は、引率者に遅れまいとダッシュで市役所の中へ。

我々の演奏が始まってまだ数秒の出来事です。

「？」

いつも指揮なんか見ていない音楽隊員達が、ガンガン視線を合わせてきます。

おかしいなぁと思いながら後ろを見ると、だーれも居ません。

隊員達は指揮をされていて後ろの様子が分からない私に合図を送っていたのでした。演奏しててもしょうがないので曲の途中で演奏中断。

楽器を下ろした隊員達は、

「もうとっくに誰も居てないで〜。」

少年少女合唱団どころか市役所の人も全員市役所の中に入ってしまい消防音楽隊だけが残されました。

(赤いバスも居なくなってます。)

隊員達はチャッチャと楽器を片付けだしました。

「まだ1曲分も演奏してないけど、もう帰っていいのかなぁ〜。」

確認しようにも相手が居ません。人知れず帰路へ。(寂しいなぁー。)

最後は「全国母と子の防火大会」と言うのがマイドーム大阪で行なわれる事となり、「大阪の消防大賞」で編成した府下消防音楽隊の選抜者の編成で演奏すると言う内容でした。

いつものとおり副楽長の香川君と私、そしてピッコロの隊員の3名が当消防組合から出演する事になりました。

「防火大会」での数曲演奏という内容でしたが、後に、日本消防協会の故笹川会長が主催者として出席するので、到着時にエントランスでの演奏もする事が

プラスになりました。

曲は我々も使用している「観閲の譜」と言う式典曲ですが、今回は譜面台が立てられず楽譜が見れません。暗譜です。

今回初めての選抜で不安イッパイのピッコロ隊員。白い服でも目立たない様に、白い針金ハンガーを改造して首から掛ける「携帯譜面台」を自作しました。

(そんな事に労力使うなら、16小節の短い曲だから憶えるよ！)

本人は超~ご満悦なのですが、どう見ても針金で出来た不細工な「首輪」。(クリーニングの服に付いて来る針金ハンガーの 三角形のところを伸ばして円形にし、首から吊るすのです。昔、長淵剛さんが使っていた、ギター弾きながらハーモニカ吹けるようにするホルダーのような形にしたかったみたいです。)

「それ本番で使うの?」「あたり前やん、一生懸命作ったのに。へっへっへっ、よう出来てるやろー(^。^)」

「短い曲やから憶えるよ。他の音楽隊も居てるし、それ見っとも無いで~。」

「なに言うてん! 苦労して作ったのに、絶対使うもん。」本人は真剣そのものです。

「周りの隊員、笑って演奏でけへんやん。」

「そうや、そう言う攻撃も出来るねん。」

(身内を攻撃してどうすんねん!)

で、当日。会長到着予定時間にエントランスへ集合した約60名の選抜音楽隊員。

首からハンガー吊るした人も1名います。他の消防音楽隊の人から、

「あの人、河井さんとこの隊員?」と尋ねられ、

「はい、見なかった事にして下さい。」

(実際にした会話です。(--;)トホホ)

黒塗りの車数台が入って来ました。

音楽隊員はいつでも演奏出来る様に楽器を構えたまま待ちます。数人の役員の人達が降り立ちます。

いよいよか?……あれえ、まだ?……ん???

会長がなかなか現れません。

先程降り立った人達は、音楽隊員の前をとおり、サッサと中へ入って行きます。

皆、楽器構えたままで、目だけキョロキョロ。

エントランスは音楽隊員達だけになり、少しざわついてきました。

数分後、事務局の人が来ました。

「あの、ボソボソヒソヒソ。」

「はぁ〜〜?」詳しく聞くと、会長は前日急遽予定変更して、天皇陛下と一緒に東京に帰ったとか。だから、さっきの通過した役員に演奏するべきだったのですが、不手際で音楽隊に連絡していなかったのです。例のピッコロ君、フーっと、首からハンガーぶら下げたまま安堵の表情です。

(でも、みっともないから早くハンガー外してや。)

以上「通過!?3連発」m(____)m お粗末でした。

オ・マ・ケ:「おもしろい!こんなおもしろい記事をネットだけで公開しているのは、実に惜しい。…中略…やはり、ここは、印刷物の形にして、出版すべきである。そして、消防音楽隊が出演する会場などで配るべきである。できれば、無料で。…」と言うメールを頂きました。

ありがとうございます。とても嬉しいです。

今までにも沢山の方から「本にしたら！」と言われていましたが、今回のメールは具体的な費用面もアドバイスして頂きました。

(出版業界や印刷業界の方ではありませんので、誤解無いように。)

頂いたメールにも有ったように、無料配布が望ましい方法ですが、財政困難な現状で印刷費用の金額を考えると、非常に厳しい状況です。

でもいつかは実現させたいです。

いっそのこと自費出版かなあ～、なんてネ(^_^)

内輪話で恐縮ですが、この公式HPを立ち上げ、以来ずっと担当していたA職員が平成14年4月1日で人事異動になりました。

いままで長い間ありがとう&お疲れさまでした。

新部署でも頑張ってください！

次回「花博でパレード」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その34）

個人的な限られた経験上の話ですが、音楽関係に限らずどのような組織や団体、活動にも必ず「動機」や「目的」、「使命」、「役目」という事柄がありますよネ。結成当初は勢いだけで進むのですが、暫くするうちに「個人的な欲」が出ると言うか、情性の打開と表して身勝手な解釈がポンポン出ると言うか、推進力が鈍る分、求心力も鈍ると言うか…。「動機、目的」などが希薄であると容易に方向性を失い、幽霊団体に堕ちて行ったり解散して行くようです。でも本当は堅苦しい事は気にせずに楽しめたら一番いいのです。でも「仕事」となれば話は別なんですよね～。

我々、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊は大阪府内の消防音楽隊では11番目に出来た新米で、なおかつ演奏力は最低最弱な消防音楽隊です。(違う意味では『最強』かも?)

大阪府下11隊の音楽隊代表者が出席する会議では、出来る事ならこれ以上
いたずらに「敵」を増やさないう、可能な限り穏やかに終わらせたいと思っ
つつ出席しています。(私自身、特にこの会議では毎回インパクトの強い発言で
目だっているの。)

その会議上で、大阪府下で合同演奏を行う際、演奏する音楽隊員がもっと「手
応え」のある曲を演奏したいと一部の消防本部が希望し出した事から、「やりが
いの有る選曲」と言う議題が持ち上がりました。しかし、どうせ反対多数で否
決されるだろうと成り行きを見てました。(今日こそは大人しく(-.-)してい
るゾ。今日こそは！)

「軽い曲もいいんですが、うちの隊員達はもう少し難易度の高い曲を選んで
欲しいと言うてるんですワ。」

「うちももっと手応え無いと練習にならんって言う隊員も居てますねん。」

(ハイハイ、あんたらトコは上手いです。)

「そうですねー、そろそろクラシック曲やオリジナル曲(吹奏楽用に書か
れた曲のこと。)を考えてもいいですねエ〜。」

(そんなんやっても、聴いてるお客さん面白くないで。)

「お客さんはどう感じるでしょうかねえ。」

(それぞれ、そこが肝心！)

「お客さん達は、その曲のあいだは聴いてないかも知れませんが、軽い曲と
織り交ぜていけば大丈夫でしょう。」

(オイオイ、そういうもんとちゃうやろ。がんばれー！言い返せー！いとけ
ー!!)

「……………」

(ガクッ！おいおい、反論なし、無言かよ。)

「オリジナル曲なんかは、なかなか面白いかもしれませんネー。」

(それって楽しいのやってる人だけやん！)

「クラシックでも、有名なヤツやったらお客さんも知ってるでしょ。」

(演奏会とちゃうっちゅうねん！)

「それやったら、クラリネットもっと増やしましょうか。」

「そうですねあ。」

「木管パートを強化する方向で編成組みましょう。」

(エ～なんで誰も反対せえへんの？)

「じゃー、どんなんがいいですかねえ。」

(なんでやねん、もう曲選びかよ！)

「うちはなんでも。皆さんの決定に従いますよ。」

(マジかよ！もう、頼むワ。この会議オカシイでー！)

新米の私には挙手をして発言しなければ、誰も意見を求めてくる訳もなく、会議はトントン拍子で進んで行きます。波風立てたくないの沈黙を守ってただ、言わなアカンかな～。

「すみません、柏羽藤消防の河井ですが……、それおかしくないですか？！
(一斉に全員の視線が。)今、話してはる事へんじゃないですか～？」(あ～あ～言うてもた(-_-;))

会議場はシ～ンとしてしまいました。もうしゃーないなあー。

「府下の合同演奏はあくまで依頼演奏で、会場に来られるのは演奏を聴きに来る方ではなくて、式典やアトラクションを見に来る一般のお客さんです。そのお客さん達が聴いて喜んでもらう事が最大の目的でしょ。プレイヤーのヤリガイとか手応えとかは後回しにするモノだと思います。」

(冷笑が部屋に溢れてます。)

「柏羽藤さんの言うてはる事は分かりますけど、数曲のうち1, 2曲の事や

し。演奏する人間の希望も考えて決めたらよろしいやん。」

(「新米は黙ってる。」みたいに、どこか小バカにした感じ。カチンと来た。)

「自分も『個人的』な経験や演奏能力や企画も皆さんに負けてないつもりです。ですが、今日の会議で話していた内容は、演奏側の事が第一、お客さんはその次。出演依頼を受けてから、依頼されている意向を勝手に変えて解釈しちゃダメです。」

「言うてることも分かりますけど、まったく好きにするって言う話やないんやから、ええんちゃいますか。誰からも文句出ませんよ。」

「依頼はされてますが、内容までの細かい指定はされてないし、よろしいやん。」

「演奏側が楽しまな、お客さんも楽しくないで。」

「隊員の経験にもなりますし。」

「そんな堅い事言うてたら何も出来んワイ！」

「今のレベルの曲じゃ、うちの隊員の練習にもならん！」

「そんなら多数決取りましようや、多数決！」

(アッチャ～、総攻撃かよ。ナンデ毎回こうになってしまうのか。)

私の発言に対し、誰も不快感を隠しません。でも、負けへんど～！黙って聞いていましたが反撃です。

「そんな詭弁使っても、本音は自分達の好きにしたいだけですやん。自主演奏やなく、依頼演奏なのですよ。内容の指定がないから何でも有りじゃなくて、意向に沿った内容を検討すべきで、もし会議結果が表面上同じになってもそこまでのプロセスが間違っていると全く意味が違っていると言ってるんです。それから府下合同演奏は『研修道場』ではないんです。経験や練習は各自、各隊で考え対処することで、合同演奏の場に持ち込む問題ではないでしょ！『楽しみ』や『経験』を合同演奏の目的にして考えるのではなくて、演奏者は『結果的な効果』として経験や演奏する楽しさを感じるモノであるべきです。違いますか？」

触発されて、かなりキツイ口調でイッキに喋ってしまいました。

再び、会議場はシ　　ン。全員が口を閉じてしまい、メッチャ重苦しい雰囲気になってしまいました。(ウ～ツ・イ・キ・グ・ル・シ・イ。)

でもここで声出したら負けや。

(でもなあ～気まずいなあ(-_-;) 言わなアカン事はキッチリ言うたから、今日はこれ以上喋れへんもんネ。もう遅いけど。)

窓から見える遠くの風景を眺めていました。外は小雨です。

会議室内はチッ、チッ、チッと時計の音だけが響いています。

まるで他人事のようにサスペンス映画のワンシーンみたいって思っていました。

(時計の音って思っているより大きい音ですよネ。)

まだ、誰も喋りません。

そしてかなり経って、議長が、

「そうですね、おっしゃるとおり、依頼演奏は依頼演奏としての本質から離れてはいけませんね。依頼内容の意向に近づく事を考えなければいけませんね。」

一気に空気が変わりました。

(あー長かったー、分かってくれたん、良かった。ありがとう。やっと息できます。(～o～)ハア～～～)

去年までの議長は退職されて、今回から新しい議長になってます。なかなか話の分かる人で、現在でもいろいろお世話になってますが、最初の会議がこれですから、多分イヤなヤツと思われていたでしょうねえ。(今度会ったら訊いてみよっと。)

その後は通常どおりの選曲、隊員編成に話が移りました。もう私は発言する必要も無かったし、(本当にもう遅いけど)大人しく、目立たない様にして会議終了しました。

ところが、こんな経緯で決めた内容だったのですが、後日、この年は主催者から合同演奏の依頼が取り消され、なんのこっちゃの顛末です。(ホンマ、疲れるわ~(+o+))

で、替わりに出た話が大阪市鶴見緑地で行なわれていた「国際花と緑の博覧会」で府下消防音楽隊の合同パレード。45分程パレードを午前、午後の2回行うと言う内容です。で、また会議するからと連絡がありました。

(また会議ですが、この時は本当に大人しくしていました。)

「国際博覧会」でパレードなんて、今年限りの企画です。(一生ないかも!)
会議結果を早速隊員に説明します。

「『花博』で合同パレードが有るんだけど、どう?」って隊員に尋ねたところ
間髪入れずに「ただで入れるんですか?」と言うご質問。

(入場料が要らないなんて、私は気が付きませんでした。)

「遊びとちゃうで、パレードすんねんで、分かってる?」

「でも、ただで入れるんでしょ?」

(他に心配ないのか?演奏曲とかパレードの距離とか。)

「そりゃ、仕事だし入場料は要らないよ。1回目と2回目のパレードの間は昼食時間もあるから2時間ほど空いてるし、一日会場内に居てる事になるね。」

「行こうかなあ。」と言う声が数人から。

(こりゃあかんわ(._.))

オマケ：今年も7月9日(火)にユニバーサル・スタジオ・ジャパンでパレードします。まだ詳細は未定ですが、「花博」のパレードのことがトラウマみたいになっていて気が進みません。

次回「陽炎が・・・。」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その35）

「花博」会場はここからでも車で30分程のところなのですが、人ごみが苦手な草花には殆ど興味が無い私には「無縁の場所」です。（花が嫌いなのではなく、その名前や栽培や植生などに関心が無いのです。この前、知ってる花の名前を数えたら10種類ほどでした。（^^ゞでも花ってきれいやなあって素直に思います。特に道端の小さな花には「ちゃんと見てるで、頑張れよ。」って思ってしまう。そうそうこの前、生まれて初めて四つ葉のクロバ』を見つけました。ほぼ毎日通る道端にありました。ビックリです。探しても見つからないモノが、こんなにも近くにあるんて。これって全てに言えることなのかも知れませんか。そんな事ってないですか？皆さんはどう思われます？）「花博パレード」用の会議で担当楽器の割り振りも決めたのですが、指揮者は大阪市消防音楽隊のドラム・メジャー、私は何故か堺市高石市消防音楽隊の楽長と2人で副指揮者（サブ・メジャー）と言う事になってしまいました。今回の内容はパレードですから、副指揮者（サブ・メジャー）はあまり役目が有りません。（ほとんど『飾り』）だから、私自身は超〜〜〜お気楽。（^o^）ただ、気になるのが「ウチの隊員達」。パーカッション1名、トロンボーン1名、トランペット2名、フルート1名の5名と私で参加するのですが、彼らの主たる参加理由は『ただで花博に入れる』と言う事。パレードよりも休憩時間や「仕事」が終わってからの事に思いっきり気合が入っています。（着替え持って行って、あれに乗って、これに乗ってと作戦たてています。自由時間やから好きにして。）一方、私は昨年同様「蓼科湖畔、四輪バギー&宴会ツアー」に誘われておりました。（やっぱり誘ってもらえないと何処にも行こうとしないので。（^^ゞ）旅行の日程は「花博パレード」の前夜に大阪に帰って来る事になっていました。今回は音楽隊の出演が無いことも確認済みです。「ちょいとシンドイけど、サブ・メジャーでただ歩くだけやから大丈夫だろう。」とノン気に考えて、別名酒飲みツアーへ出発！7月中旬の信州は大阪とは大違い。初秋の雰囲気は漂っています。メッチャ涼しく（夜は寒くて屋外に居れない程）「こっちの夏ってこんなん？」って感じです。1年前は気が付かなかったのですが、「赤トンボ」があちこちに飛んでいます。（「うわ！赤トンボやっ！」って幼稚園児並みのリアクションしてしまいました。）夜は每晚飲み会です。十分酔っ払ってからトランプで「セブン・ブリッジ」です。ご存知の方も多いと思いますが、順番に手札を出していき、早く無くなると勝ちなのですが、前の人が「2」を出す次の人は問答無用でカードを2枚取らなければならないのです。それをアレンジして「2」を出されると無条件で「グラスを飲み干す」という特別ルールでゲーム

します。「2」出され、続けて次の人に「2」を出されると「グラス2杯分」と言う風に「倍」になります。3枚続くと「4杯」。逆に「2」を出してもらえないと「飲めない」と言うルールもあつたりします。どっちに転んでも辛いです。)てなわけで、「明日は花博パレードやなぁ〜。」と思いながら、信州の快適な気候に慣れ親しみ、スッカリ弛みきった気持ちとどっぷりアルコール漬けの鈍りきった体で、夜遅く大阪に戻りました。(夜でも大阪は蒸し暑いなぁ〜)翌朝、「国際花と緑の博覧会」の駐車場に現地集合です。疲れが取れてないのか、まだ頭もボケーっとしていますし、身体もダルく重く感じます。大阪府下消防音楽隊もゾクゾクと集まって来ます。どこかの「お偉いさん」の挨拶のあと、スタッフゲートから中へ。初めて入る「花博会場」は予想どおり日陰がほとんどなく、「花」や「緑」からはかけ離れた、コンクリートとアスファルトの施設の集合体でした。4月1日に開園した「EXPO 90 国際花と緑の博覧会」は、6月20日には入場者1千万人を突破する盛況ぶりでしたし、開園に間に合わなく、仕上がりにもこだわり突貫工事を拒否して開園時間内も作業を続けたパキスタン庭園も話題になりました。一方、開園2日目には「ウォーターライド」が脱線、宙吊り事故を起こし、コンパニオンも合わせて24人が重軽傷者を出しましたし、人気ジェットコースター「風神雷神」も部品脱落事故を起こしました。毎日のように「…の日」が決められていましたが、一般の人にはあまり意味が伝わってなかったような気がします。今日のパレードの5日後には、「紀子さま」ブームの真っ最中だった秋篠宮ご夫妻の来場が予定されていました。ヤシの実のてっぺんに穴を開けてストローを差し込んで果汁を吸う「ヤシの実ジュース」も大人気でしたね。でも1コ800円もしたのに大して美味しくなかったとか。(もし、私が「花博」をするなら、コンクリートは無し、全部木造。道も未舗装。広場は全部芝生。高木も低木も自然の状態。熱帯植物だけは温室。水辺もたくさん作って、小動物や小鳥がイッパイ放して。超ローテクの寄せ集めにしちゃいます。)もうすぐ午前のパレードの時間です。フロート・パレードとジョイントするので、スタート位置へ移動して隊列組んでスタンバイします。太陽が高くなって日差しが強くなってきました。開始合図を待ってるだけでも汗が滲みます。(汗をかくのは4日ぶりやなぁ〜。)スタート合図に続きファンファーレのあと、パレード演奏開始。大阪市消防音楽隊カラーガード隊「ファイア・フェニックス」の女性達が先頭、ドラムメジャーの後ろをサブ・メジャーとして歩き出します。「ファンファーレ」を演奏したあと、「雷神」と「ワシントン・ポスト」の2つの行進曲を繰り返し演奏しながらパレードです。にわか仕立てのパレード隊ですが、さすが大阪府下消防音楽隊の合同演奏、全く問題ありません。私はただ歩いているだけなのに、汗がポタポタおちてきます。「花博」のメイン施設、「咲くやこの花館」(って言う名前だったと思うのですが。)

の前のメイン通りを通過して、スタッフゲートから一旦バックヤードスペースへ退場します。暑かった～、気のせいかなフラフラします。うちの隊員達は集合時間だけ確認して、アツと言う間に会場内へ消えて行きました。私も少しは会場を見てまわれるかなあ～って思ってたんですが、一度座ると立ち上がる気になりません。段々ひどくなってきました。頭クラクラ、足どころか、体が動きません。冷や汗が出て、気持ちも悪くなってきました。昼食も食べられません。なんとかしなければ。(あ 横になりたい。花博で一番目立っている「いのちの塔」に行けば元気になるかなあ。)そこへ大阪市のドラム・メジャーの人が「お疲れさまー。」とやって来て話をはじめました。見かけ以上に気の弱い私は、断りきれず集合時間までずーっとお相手してしまいました。(あとパレード一回。頑張らなくては。)隊員達は満喫した様子で戻って来て、再びスタート地点でスタンバイ。既に視界には「きらきら」が飛んでます。(昨日までは「赤トンボ」飛んでいましたが。)花ずきんちゃんが踊るフロートに先導されてパレードしますが、もう演奏など耳に入りません。歩くだけで精一杯、早く終わってくれることを願うだけです。全身に冷や汗が出て、また気持ち悪くなってきました。やっと最終コーナーを曲がりましたが、沿道にはお客さんがイッパイ。退場口のスタッフゲートを目指すのですが、誰も居ないメインストリート全体からはボア~~~~と「陽炎」がたっていますし、気が付けばさっきから靴の底がフニャフニャに柔らかくなっています。視界は時々暗くなります。(ヤバイ、倒れそう。)あと数百メートル。「頑張れ!もう少しやー。」自分を応援します。(ポーとした頭の中では朝礼で倒れる小学生ってこんな感じなのかなあって考えてました。)フラフラの状態です。退場口からバックヤードへ。邪魔にならない場所にへたりこんでしまった私の前を、暑さで倒れ、ピクリとも動かなくなった「花ずきんちゃん」を乗せたフロートが通過していきます。(笑うに笑えません。)
「…今日の大阪は太平洋高気圧におおわれ35度を超え、今年一番の暑さに見舞われました。」その夜、テレビの天気予報で言っていました。多分、パレードコースは黒いアスファルトが焼けて40度を超える超えていたでしょう。前日まで、最高気温21～22度の所に居たので、温度差約20度!あの「花ずきんちゃん」どうなったかなあ～。(花ずきんちゃんは、JR・京阪京橋駅中央口附近のEXPO 90花時計、大阪市営地下鉄鶴見緑地駅のタイル壁画、花博記念公園のマンホールのデザインに今も見ることが出来るらしいです。)その後なぜか、花博会場には一度も行っていない。

次回「突如の呼び出し&新しい先生」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その36）

私にとって「悪夢の花博パレード」の次は、（現在でも有りますが）毎年開催地持ちまわりで式典や訓練披露、表彰などが行なわれる「真夏の消防団総合訓練」ってのがありました。この年は午後2時スタートで、参加される消防団員の方々も大変でしたが、我々は会場のグラウンドに張られたテントの中で、暑さを我慢しながらの演奏です。残すは最後の来賓挨拶と国旗降納、閉会宣言で終了という時になって、**ドカーン！**と**一発の雷鳴**とともにバケツをひっくり返したような夕立です。整列していた多くの消防団員達は一瞬でズブ濡れ。テントの中に居た我々も吹き降りがひどく、楽器搬送用のトラックをテントに横付けして楽器を積み込み避難します。もう演奏や式典などはどうでも良い状態で、我々も濡れてしまいましたが、楽器だけは無事に守りました。消防団員の人達はポトポトになっても整列したまま

「もういっしょやから最後までやろうや！」「これ以上濡れへんでー！」

団員さん達はニコニコしながら言ってます。流石って言うか、もうヤケクソですネ。挨拶している来賓のスーツもムチャクチャになっちゃってました。（本当に全員がヤケクソでした。）国旗降納が終わったとたん雨は止んだという結構笑える出演でした。

季節は「秋」の気配が感じられる頃、久々に消防長からの呼び出しです。

（音楽隊の出演の件かなあ？ なにか怒られる事したかなあ？）

「はい、お呼びですか？」

「うん、消大行ってくれるか？」

「?? ショウダイ?? 消防大学ですか？」

「うん、年明けたらすぐ、3ヶ月程や。総務に言ってあるから

詳しい事を聞いておくように」

「はい、分かりました。失礼します。」

急な事で、なんだか分からないうちに話が終わったような…チヨイと不安。

で、早速総務課へ。

「あの～。」

「おー、消防長に聞いてくれたか？」

「??はい、で、どうなるのでしょうか？」

「これ関係書類だから目を通しておいてや。」

「はー。」

消防大学校と言うのは、自治省（現在、総務省）消防庁の教育機関として国が設置、運営し、全国の消防職団員に対して幹部教育を行なっている所で、東京都調布市にあります。簡単に言うと国の研修所です。（簡単に言い過ぎ？）消防組織法と言う法律に規定されていて、存在は知っていましたが、自分が行く事になるとは思いもしませんでした。

直属の課長に報告しに行きます。

「今、消防長に消防大学へ行くように言われてきました。」

「聞いている聞いている。まー頑張ってや。」

「はい？」

なんだか、既に幹部は全員知っているようで、今日、最後に本人に伝えたと言う感じです。

（あれ！？また乗せられたんちゃったんちゃうかなあ？）

ベルトコンベア に乗せられているように、トントン拍子で出

来上がりです。

呼ばれてからまだ5分も経ってないですが、来年早々、東京へ3か月程出張するらしいと言う事だけは分かりました。

でも何でも知りたい、やってみたいと言う好奇心旺盛な方ですので、

「まっイっか。折角行かせて貰えるんだから、頑張ろうっと。向こうの友達にも会えるし。」(良く言えば超前向き、悪く言えば超単純。)

「???でも、なんか忘れてそうな???あっ!音楽隊?」

でも、来年の春までの出演予定は「出初式」だけしか聞いてないし、たまには私が居ない音楽隊もいいかなあ~、なんて思ったりもしました。(もう知らないitto。)

副楽長の香川くんには先にこの事を伝えておかなければ。

「(・o・)エ~~~~、そんなんイヤですわ~。」

「仕方ないやん。」

「そりゃそうですけど。もう、かなんなあ~。」

「年明けには消防出初式しか予定入ってないから。」

「それがイヤですねん。」

「なんで?」

「偉いさんいっぱい来てはりますもん。」

「そらしゃーないで。練習は先生もサポートしてくれるから、頼んだで!」

「ハ~、(~o~)」(副楽長陥落。)

時期を同じくして、講師の先生から、

「クラリネット専門の指導者が必要。」という話が出てきました。

この時は、まだ、トランペットとホルンの先生と私が打楽器を指導していましたので、木管系の楽器の細かい部分の指導まで手が回らない状況でした。

「河井さん、そろそろクラリネットもチャント指導してあげた方がいい時期ですね。」

「誰か、こんな音楽隊にでも指導に来て頂ける方をご存知ですか？」

「一人心当たりがあるので、今度会ったら尋ねておきます。」

音楽隊員は34人いるはずですが、練習に来るのは10人前後と言う練習風景を眺めながら、

「この状態をよく説明しておいてくれますか？」

「ハハハ、承知してます。」

「もしかして、その方は女性ですか？」

「そうですよ、なにかマズイですか？」

「いえ、べつに。」

以前に来てもらった「伝説の先生」の事を思い出していました。

(また、「強烈」な人やったらどうしよう(--;))

次回「新しい先生登場&楽長戦線離脱」です。

オマケ：『ガンバレ、消防音楽隊！』も今回で第36話になりま

した。次号で連載3年突破です。特別番外編を考えなくては。(「また、やるの?」って言われそうです。) ウンソンン……考え中。

ガンバレ、消防音楽隊!(その37)

うちの消防で「消防フェア」するからパレードしてくれとか言う出演もあったりして、暫くの間「クラリネットの先生」の話も時間が空いてしまいました。

初冬の声も聞こえようとする頃、ホルンの先生から

「なかなか会えなかったんだけど、クラリネットの先生に話しておきましたよ。」

と答えが返ってきました。

「では、条件などの説明も必要ですので、連絡先を教えてくださいませんか。」

「あ～っ、電話番号分からないなあ～。この近くに住んでいるらしいけど……。」

「だいたい住所が分かれば調べてみますが。」

「名前は分かるけど、住所は……。また会った時伝えておきますわ～。」

「私は連絡を待つと言うことで。練習風景を見てから決めてもらってもいいですし。」

「それも伝えておきます。」

「今度はいつお会いになりますか?」

「ま～多分そのうち。」

ホルンの先生が「その方」と仕事で一緒になる時まで話が進みません。非常にアナログ的な、なんともノンビリした連絡方法です。(いつになったら会えるのでしょうか?)

「新しくクラリネット・パートを見てもらう先生が見つかりそうです。」

と隊員の前で言っても、

「シ～ン。(- -) (- -) (●) (- -)」

反応が悪いです。

「女性の方らしいです。」

「シ～～～ン。(-- ;) (- -) (● ;) (- - ;)」

無反応。どうも以前に来てもらった「伝説の先生」の事を思い浮かべているようです。(強烈な刺激があったもんなぁー、今度は大丈夫だと思うけれど、自分もそれを心配してます。)

また数週間後、

「この前、会ったから言っておきました。」

「そうですか、ありがとうございます。電話番号分かりました？」

「いや、その、見に来るって言ってましたよ。」

「そうなんですかー。いつ来られますか？」

「いや、そのうち行くって言ってました。」

「じゃー連絡頂けるんですか？」

「いや、あの……練習予定日は伝えたので、そのうち来てくれるとおもいますヨ。」

「(^_^;) ありがとうございます。お手数をおかけしました。」

(話が進まないよ、ちょいとイライラ。)

この話の2週間後、年内最後の練習中、

「受付に音楽隊にお客さんが来られてます。」

と連絡がありました。

??だれ???

練習の指導中で抜けられないので、3階に上がってもらう様に伝えて練習再開。

扉を開けて入って来られたのが、初めて見る小柄な女性。

(あ!もしかして。)

「あの~、クラリネット指導の話の方ですか?」

「はい、その件で伺いました。」

意識しないうちに、(T 2のように *ダダッダッダダン、ダダッダッダダン* のBGMで登場しそうな)「厳しい、怖い」と、勝手にイメージが膨らんでいた自分に気が付き、苦笑い。

ホルンの先生も呼んで、改めて挨拶のあと、条件や状況の説明します。

「はい、じゃー、次から来ます。」

「では、宜しくお願いします。」

話が出てからなかなか会えなかったのですが、非常にサッパリした感じの女性で話はトントントンと終わり、平成3年1月18日から来てもらう事となりました。勝手に膨らんでいたイメージとは大違い、ホッとしました。(-o-)

年が明け、年頭恒例の消防出初式は副楽長の香川君にお任せして、私はお江戸へ(^o^)/ (バイバ~イ)

職場復帰するのは3月下旬です。新しく来てくれるクラリネットの先生も含め音楽隊ともそれまで会いません。(正直、スッキリしたひと時の解放感もありました。)

私は、他の人に関係する事は出来るだけ用意周到にしたい方なのですが、自分自身の事は比較的無頓着な方だと本人は思っています。(人はどう見ているかは分かりませんが。)

今回の消防大学も入寮生活ですが、アクセスと名刺が必要なこと以外は殆ど予備知識なし。要るものは現地調達で賄います。場所とか指定の時間関係さえ分かれば、あとは出たトコ勝負って感じでしょうか。

しかし、入校後数日経って初めて知った事は、全国から集まった消防職員約250名のなかで、自分が最年少だと言うこと、上下の年齢制限の範囲もクリアしてすぐの派遣である事でした。真意の程は分かりませんが、消防長は大抜擢の人選で私を選んでくれたようです。

「まさか、こんなに早い段階で来る事になるとは。」

ところがこの最年少は、チョッピリ人見知りをします。おまけに群れる事は好まず、自分から人ににじり寄ることもしません。威張る事も、威張られる事も嫌い、道理が通らない事は嫌いときています。一番年下であってもパシリになる気は毛頭ありません。24時間3ヶ月の入寮生活で、諸先輩のなかで居ても、こちらから「ご挨拶」、「お名刺頂戴」は行きません。(営業マンには不向きですね。用件があればおいで下さいって感じです。)

仙台、岐阜、下関、横浜、そして大阪の私の5名が同室です。

入寮生活最初の土曜日、仙台、岐阜、下関の3名から

「河井さん、どこか連れてって下さい。」

「ハイ?なんですか???'」

どうやら、東京は初めてのようです。

「僕も案内出来るほど詳しくないですよ~。(大の大人が何言ってんだか、行きたかったら勝手に行って下さいヨ!が本心)」

「ワシ、雷門が見たい。」

「東京タワー登りたいっちゃ。」

「都庁へ行きたい。」

「皇居も。歌舞伎町も見てみたい。」

「地下鉄に乗ってみたい。」

口々に行き先のリクエスト。(ひょえ～(-_-;)、なんなんだ、これはー！)

約束していた友人と会う時間までと言う条件で、「即席、東京ツアー」(ガイドは僕)へ出発。皆様のご要望の場所には全てご案内して、夕方、友人と五反田で待ち合わせて渋谷で飲んでました。音楽隊のみんなどうしてるかなあ～？

次回「性格上、黙ってられなくて……(^◇)です。？ ？ ？

ガンバレ、消防音楽隊！（その38）

この時、国会で論議されていたのが「救急救命士法案」。講師の中には国会の特別委員会である救急救命士法審議会の方も来られます。(SP付きです。はじめで見ました。)

この手の講義の前には必ず学校職員がやって来て、

「皆さんもご存知のとおり、現在、国会で審議中の微妙な時期であるため、万が一救急救命士制度について発言を求められる事があっても、必ず『よく分かりません』と答えるように。いいですね！」

とクギを刺されます。

内心「そんなん、ホンマの事言うたらええやん！」と思いつつも、救急制度全体に関わる事柄だけに、慎重になってしまいます。

この時はテレビでも何回か顔を見たことのある方が講師でした。全員神妙な顔しています。

「……本法案は……と言う状況になっているわけですが、私としましては、今日の、折角の機会、全国の消防職員の方に直接、本音をお聞きして、是非、法案の参考にしたく思っ参りました。どなたか率直なご意見をお聞かせ下さい。」

当然、誰も発言なんてしません。

(済みません、口止めされてるんです。)

「では、大阪の河井さん。」

「はい?」(ボクですか?も~なんでやねんナァ~しかもピンポイント攻撃で。)

「皆さんの中で、唯一現役の救急隊長をされているんですね。」

「は~。(^_^;)」

「ご意見聞かせて頂けますか。」

「えっと、あの、ゴホン、」

全員の視線が集中しています。頭の中では「よく分かりませんと言うように!」って言う言葉がグルグル回っています。仕方ないよね、クギ刺されてるもんね。分かってますって、お約束ですから。

ですが……ひとつ大きく深呼吸して、口から出た言葉は、

「救命士法案の骨格は、救急業務中、医師法で規制されている処置を医師の電話指示の下で行なうものと聞いています。地域によって差はありますが、搬送時間は15~25分程度が最多と思われます。この時間内で出来る最大限のことを行い、人命を救うのが我々の役目です。それは、我々は医師の領域を侵す気もありませんし、医者になれるとも思ってません。自分達の聖域を守るためだけに反対されている方々の考えと、目の前で消え行く命とは全く別の次元の話です。救命処置に高度な教育訓練が必要である事は分かりますが、既に我々救急隊員はそれに耐える覚悟が出来ています。助けたいんです。是非、法案成立をお願いします。」

会場みんなは(・o・)(°。°)(・_・)(・o・)(・_・)(°。°)ってポカ~ン顔、会場はシ~ンとしてしまいました。「あ　あ　。」って空気です。(ちよっ

とマズかったかなあ～。深呼吸した時に、刺されたはずの“クギ”抜けちゃってました。(^^ゞ)

「ありがとうございます。よく分かりました。大変参考になりました。」

この後、何人か他の人も当てるのかと思ったら、このまま終了。発言したのは私一人だけでした。(。_。;) 私の消防大学修業後の平成3年4月23日、救急救命士法が成立しました。もしも、この時の私の発言が法案成立の何万分の一にでも貢献していたら嬉しいです。

さて、こちらの生活も後半に入ったある日、我が消防本部の有志から差し入れが届きました。(お酒の詰め合わせです。ありがとう。)ん？中に手紙が。音楽隊員の一人からでした。

「元気に頑張ってはりますか？音楽隊は先日、文化財防火キャンペーンの一環で行なわれた消防訓練に先立ち、駅前をパレードしました。当日は小雨の中、相撲力士数人と歩きましたが、演奏はボロボロ。途中でヤメたい程で、とても悲惨な出来でした。体に気を付けて最後まで勉強頑張ってください。」

胸にポッカー穴が空いた気持ちになりました。けど、どうにもなりません。お礼を兼ねて電話してみました。

「そうですねん、もう、書いたとおり、悲惨でしたわ～。」もうすぐ帰るから頑張るとしか言いようがありませんでした。

消防大学では、前記のような事があったり、東京消防庁の課長補佐や自治省（現総務省）消防庁の課長補佐から別に呼び出されお褒めをもらったり、厚生省（現厚生労働省）の担当者に嘔付いたり、東大医学部救命部や杏林大や聖マリアンヌ病院の救急担当の先生に誉めて頂いたりしているうちに、年長者達の方々が最年少の私に「名刺交換」や「ご挨拶」に来られるようになりました。(こう言う時はメイっパイにっこりして「済みませんねえ～こちらから行かなアカンのに～。」って申し上げるようにしています。)

しかし、段々遠慮が無くなってくると、慣れない入寮生活のストレスからか、同室の人達が小競り合いをする様になりました。とうとう怒鳴り合いになって罵り合う者達に、

「じゃかしーやい、お前らエエ歳して恥ずかしーないんか！」(思いっきり大

阪弁。)と怒鳴ってしまいました、

「(._.)河井さんに怒られた。」と反省してくれた事もありました。(本当に生意気な年下でゴメンナサイ、でも皆さん根は素直ないい人ばかりでした。大変お世話になりました。)

コートも重く感じる季節になってきました、そろそろ修業です。

次回、「復帰直後の本番 & 4 消防音楽隊合同ドリル演奏？」です。

週末は友達とベイブリッジや横須賀、湘南、六本木に行ったり、同室の人と仙台にも足を伸ばしました。今、思えば楽しい日々でした。

(修業式の前日、この教育期間中の簡単な感想を交えたレポートみたいなモノを書かされました。ここでも性格が災いして「非常に率直」に書いて提出しました。しかし、私の修業後、この「河井レポート」が教職員間で大きな問題になり、私の「担当教官」は大学校長から呼び出され「担当教官として書き直せ！」とまで命令されたらしいです。「この教官」も「一本筋を通す人間」で、「この学生が思ったとおりに書いたレポートを私が書き直すなんて、そんなバカな命令聞けません、出来ません！」と、最後は押し問答の口論にまでなったらしいです。「河井レポート」がどれだけ影響したかは定かではありませんが、この事件後、救急科の全てのカリキュラムと講師が見直され一新されてしまいました。(^^)

私はこの話を修業後数カ月経ってから、当の「担当教官」から聞かされました。

教官曰く

「お前はホンツツツツに、ホント に。ア 、モ !! ショウガナイ奴だな~~。」(東京弁です。)

「済みません、知りませんでした。ご迷惑をおかけしました。」

「しかし、お前の書いていた事は間違っていない。キッパリ突き返した。」

「教官は大丈夫でしたか？」

「大丈夫な訳ねえーだろ。その後やり辛い、やり辛い。」

「そうですよね～、済みません。でも書き直すなんて指示が出る事あるんですか？」

「聞いたことない。初めてじゃないか。」

「他の人のレポートは？」

「問題になったのは、オ・マ・エ・の・だ・け！」

「あちゃ～。」

「でもお前の書いたモノを書き直すなんてオレには出来ない。必死で抵抗した。」

「学校長は？」

「学校長、顔真っ赤にしてカンカンだったんだぞ。」

「はあ～。」

「お前のレポートで、学校長とオレの寿命は確実に縮んだ。」

「え～、教官、勘弁して下さいよ～。」

でも、そう話す「教官」は笑顔でした。ホッ (・o・))

いろいろ有った入校生活も終わり、全国の仲間達は、通常業務が待つ各々の消防本部にバラバラに戻って行きます。

教官が「バトル」しているなんて事思いもせず、消防長や上司に復帰の報告していました。音楽隊員達は「待ってました。」と言う感じで、

「楽長。来週、柏原市の友好都市、イタリアからの特使が表敬訪問に来られるので、歓迎演奏の依頼が入ってますねん。宜しくお願いします。」

「エ？帰って来ていきなりかよ(^_^;) んで、演奏曲は？」

「ハハハ、決めてません。決めて下さい。」

「おいおい、来週やる？あと一回しか練習ないやん。出演決まってて、その出演の練習してないの？」

「ハイ(^0^) 帰ってくるの待ってました。」

「(>_<) 絶句！」

入校中心配していたもう一つの事も尋ねてみました。

「クラリネットの先生は？」

「まだ来てくれてはります。」

「良かった～。」

来てもらう話だけして、すぐ東京だったので、もしかしたら…と気にしていました。

さて、出演依頼の主旨を確認して、いつもの「行進曲」の使い回しです。久々の練習で聴く「我が消防音楽隊」の演奏には、懐かしいどころか頭痛を覚えました。が、ま～いいや、外国からのお客様は、どうせまた「特急通過」やろうし。(第33話「通過3連発！」参照)

前回の「ポーランド友好親善青少年合唱団歓迎式典」の時と同じで市役所の前にスタンバイ。市の担当者も前回と同じ人です。

「バスが見えたら連絡しますので、演奏を始めて下さい。」

「はい、承知しております。」(どうせまた聴いてないんでしょ?)

「来ました、来ました。頼みます。」

チャーターバスが市役所の建物から少し離れた所で停まりました、演奏開始です。小柄でポッチャリした人が降りてきました。(映画で見るイタリア人って、陽気で、早口なおシャベリで、女性に手が早いってイメージがありますが……。これってマチガイですか?)

今日の「お客様」は一人です。前回とは違い、普通の歩調でこちらに向かって来るのを確認してから、私はバンドと譜面の方に向き直りました。暫くして、さっきの歩く速度から考えて、そろそろ「お客様」は市役所の玄関に着いた頃だろうと姿を探しますが、居ません。

あんれ〜? さっきのオッチャンどこ行った???

曲の途中ですが、私に一番近い最前列で演奏している隊員に、小さな声で、

「どこいった?」

「……」無反応で演奏しています。

(まったく! 訊いてるのに。聞こえなかったんかな?)

今度は少し大きな声で、

「なーなー、さっきのオッチャン、どこへ行った?」

「……」完全に無視して演奏してます。

(もう!)

前回の時、隊員達はガンガン視線合わせて来たのですが、今日は誰とも目が合いません。(どうなってんねん!)

仕方なく一曲丸々演奏し終えて、後ろを振り返りました。

「(°o°)ウワッ!(ビックリ)」

なんと私のすぐ後ろにさっきのオッチャンが直立不動で立っています。

指揮者（私）のすぐ真後ろに立ち止まって演奏を聴いて居たのでした。当然通過するものだと思い込んでいたのと、小柄なので全く気が付きませんでした。

チラッと私に会釈して市役所の方へ歩き出します。

引きつった会釈を返しておきました。（焦った～(^_^;)）

楽器を片付ける時に隊員から、

「曲の途中で、どこ行った、どこ行ったって訊かれても教えられへんワ。」

「チョットぐらい目配せしてくれよ～。」

「吹きながら、そんなん出来へん。」

「うそつけ！前は思いっきり視線合わせて来たくせに。」

（あ～恥ずかしかった。でも日本語は分かれへんやろう。まさか通訳してないやろなあ。）

ゴールデンウィークの行事も終えた頃、東大阪市消防音楽隊の楽長から電話をもらいました。

「河井さんトコ、マーチングしてないんか～？」

なんだか分からないので尋ねると、JC 大阪東南地区からフロアードリルの依頼があったらしく、東大阪市と隣接している八尾市消防音楽隊とは従来から共演をしているらしいので、この依頼も2つの消防音楽隊で出演するのが決定しているのですが、我々にも一緒にやってみないかと誘ってくれたのでした。

「ウチはドリルした事ないですよ。」

「かめへん、かめへん。どっちみち、ウチもイチから練習せな出けへんねんから、そんなん一緒に練習したらエエねん。どうや、出してみるか？」

ここの楽長は、メッチャ簡単そうに言います。(大丈夫かなあ～。)

消防長に相談し、将来単独でドリル演奏するような時のためにも、共演させて頂く事になりました。

そしてもう1隊、富田林市消防音楽隊も共演する事となり「史上初4消防音楽隊合同ドリル演奏」の実現に向けて合同練習する事になりました。

でも、実際はどうなる事やら。

今回「もうカンベンして～な～～～(T_T)」です。

その40)

東大阪市消防音楽隊楽長からの提案で「史上初4消防音楽隊合同ドリル演奏」をする事にはなりましたが、これからどうなるのか？(アメリカン・フットボールの試合のハーフタイムに、多数の吹奏楽奏者がフィールドを歩きながら、図形や絵文字等に隊形を変えながら演奏し、視覚上にも訴えることが出来る演奏スタイルのことで、ドリルとかマーチングとか言われます。静止演奏のための練習時間数に比べると、はるかに練習時間を要します。メンバーが揃ってないと練習出来ない、メンバーが固定出来ていないと練習出来ない、使用曲の変更なども容易に出来ない等の問題もありますが、誰にとっても単純に「見て聴いて楽しい」ものです。)

メンバー構成は、東大阪市消防音楽隊全員、八尾市消防音楽隊全員、富田林市5名ほどだったと思います。

柏原羽曳野藤井寺消防組合からはフルート、アルトサクソ、テナーサクソ、トロンボーン、ユ・フォニユ・ム、パーカッション、そして私はドラムセットで出る事になりました。

構成を連絡すると八尾市の楽長から、

「基本動作の練習しましょうか。」

「はい(^^ゞ あの～どうしたらいいですか？」

「場所だけ用意してもらえたら、出向きます。」

早速、市民体育館を借りて集合です。

コーチは八尾市消防音楽隊の楽長以下数名。

マークタイム（足踏み）、フォワードマーチ（前進）ターン（右回り、左回り）などの練習に、隊員達は混乱状態。

私も一緒に練習しますが、どうも私が入っていると指導しにくいようで、

「当日、河井さんはドラムやし、全体見てて下さい。」

ありゃ(-_-) 一生懸命やってたのに…。

「へ い。」

基本動作の練習に富田林市内の会場に行ったり、演奏曲目の合奏に八尾市消防本部に行ったりしてましたが、肝心のものがなかなか出来上がりません。

印や矢印、点線やアルファベット記号を用いて、拍数に合わせた隊員のひとり一人の動きを図面にしたものを、ルーティーン（コンテ）といいます。隊員全体の動き指示する。これがないとドリル（マーチング）演奏は出来ないのです。

それまでは、もっぱら演奏曲をマル暗記する期間にしました。

これも自分はドラムセットだから譜面が見れます。なんだか自分だけ楽しんでみたいで非常に気が引けます。

やっとルーティーン（コンテ）が上がってきましたが、隊員達は顔が引きつってます。

「あ 憶えられへん(>_<)」

(ドラムは動かないから憶えるものがない！)

ルーティーン(コンテ)を渡して数日後、隊員達も薄々気が付いてきたようで、

「楽長は憶えたんすか？」

(ゲ! やばい(~~;))

「楽長は憶えんでええんちゃうん? (-_-)」

「お気づきでしたか、ハハハ。」

「ズル~~~~ (@_@)」

「でも曲の変わり目のテンポ出しとか、キッカケとかもドラムが担当するし……。」

「せやけど動けへんねんろ、やっぱズルイで~。」

「しゃーないやろう、ドラムセットやねんから。」

「楽長、逆ギレやん。」

(あかん、全部読まれてる。)

八尾市にある企業のグラウンドを借りて初の全員集合。顔合わせもそこそこに、早速動きの練習です。

第1段階は、少しずつ区切って確認しながらです。総メンバーは60人程ですが、全員がルーティーン(コンテ)の書いてある紙を見ながら、数拍ずつ動きます。ドリル演奏をされた事がある方は想像が付くと思いますが、ペーパー上は上手く動かしているつもりでも、実際はメンバー同士がぶつかったり、トロンボーンなど奏者の前面に長い楽器は回転出来なかったり、前後左右の間隔が狭く、すり抜け出来なかったり、どうやっても演奏出来ない程近かったり……、手直し箇所が絶対出てきます。

そうやっている間、私はと言うと、なんもする事はありません。グラン

ドの隅の木陰に座り、

「暑っついにゃ～(-o-)、早く終わらないかにゃ～。アイス食べたいにゃ～。」
って感じです。

2回こんな練習をしました。

やる事無いんだから行かなきゃいいやんって言われそうですが、他の音楽隊の隊長や楽長も覗きに来たりするので、お世話してもらっている以上、行かない訳にはいかなくて。

その頃です、フルートの隊員から電話で、

「出られへんようになってもた(^◇^)」

「へ？なんで あかで！！パート別楽器数も、全体人数も合わせて編成してあるの知ってるやろ！」

「今、消防長から連絡あって、急に明日から半年間入校になってん。」

「うそ～、マジで～？」

急遽、救急救命士の養成に派遣が決定したらしいのです。(も、ったく。)

ルーティーン(コンテ)作成段階以降の人数変更など出来る訳ありません。

ん～困った、仕方ないなあ～。

ウチにはもう一人フルートの隊員が居ます。翌日、呼び出して、

「実は・・・。」

「え

っ。(°o°)そんな殺生な～。」

「他に方法無いねん、次の練習はもう実際に演奏しながら歩くから、そのつもりでヨロシクな(^)」

「もうカンベンして～な～～～(T_T)」

「ダメ！」

可哀想、気の毒やなーと思いつつ、でも強引に決定してしまいました。

東大阪市立体育館で「とおし稽古」です。やっとドラムにも出る幕が回ってきました。

まだボヤイテますが、急遽ピンチヒッターのフルート君も居ます。

大丈夫かな～？

全メンバーの練習時以外の雰囲気も堅さが取れて来ました。

と言う事は、段々遠慮も無くなって来たと言う事。

セッティング終了後、「稽古」開始ですが、なかなか上手く行きません。

特にウチの隊員数名が、指定とおりに歩けないので、明らかに邪魔になっています。

「完全に足引っ張ってるよなー。」

と思っていると、……。

次回「痛い痛い、放して ！」です。

P.S. いつもアクセス頂いてありがとうございます。今月は「連載3周年記念特別番外編(その4)」の更新を予定しておりましたが、他の業務に時間を取られ、どうしても更新日に原稿が間に合いません。今月の更新を諦め、来月に持ち越しさせて頂きたく思います。せっかく楽しみにして下さった方もいらっしゃるかと思いますが、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。m(__)m 音楽隊楽長 河井より

ガンバレ、消防音楽隊！（その４１）

もともと、東大阪市と八尾市の消防音楽隊は、年数回の共演を以前から続けているので、この２隊の合計約５０名のところへ、富田林市とウチの消防音楽隊員１０余名が参加しているようなスタイルになっています。

やはり最初は違和感もあったのですが、お互いの顔ぶれに慣れてくると、堅さが取れ、段々遠慮も無くなって来ました。

そんな状況の中、指定どおりに歩けなく、明らかに邪魔になっている隊員が数名。ほとんどがウチの隊員です。

特に、ウチのアルトサックスの隊員はボロボロの状態。本人は一生懸命なのですが、全く動きについていけない場面も。私もドラムを演奏しながら、隊員の事が気になって目が離せません。

その後暫くしてから、「八尾市のアルトサックスの人」が演奏して歩きながら、（演奏中は口が塞がっているので）ウチのアルトサックスの服を引っ張って、その都度動きを教えてください。ドリル演奏と言うより、コント見てるみたいです。

休憩中、当のウチの隊員は、

「あの人、教えてくれるんやけど、めっちゃ荒っぽいねん。」

「服は大丈夫か～？」

「服の心配より、オレの心配してくれよ！」

「楽長としては、服と楽器が心配。」

こんなやり取りの後、練習再開です。

全体的には段々ミス少なくなって来ていますが、やっぱり……さっきのとおり、ウチのアルトサックスは相変わらず。

「ハ～～。」とっていると、曲に混じって

「痛い痛い、放して ！」と聞こえます。

見ると、今度は仔ネコのクビを持つように、後ろから襟のところを持たれ、引っ張り回しています。

(・・;)

「ぎょえ～息でけへんー」

後ろから襟を引っ張られているので、クビが苦しいようです。「八尾の人」は容赦なく手を放しません。人間を片手で引っ張りながらドリル演奏する人を始めて見ました。

練習中に曲を区切って演奏が止まると必ず、「八尾の人」が説教し、ウチのアルトサクスが頭かいて謝っています。

「なんかヘンな光景やな - 。」

再び演奏が開始されると、また間違っています。

すると今度は、間違う度に後ろからお尻を蹴り上げられています。(それもちゃんと演奏しながら蹴ってます。)

ウチのアルトサクス君は蹴られるたびに、

「イタタタ、イタタタ、……。」

見ている方は面白いのですが、当の二人は真剣。

帰りの車内で、

「お尻イタイよ～。『あれ』はオレの天敵や。(>_<)」

「その後なんか言われた？」

「うん、もう吹かんでええって。」

「？」

「吹かんでええから、ちゃんと歩けて言われた。ハハハッ」

「それだけ？」

「つぎはもっと蹴るって言うてた。」

全員笑いながら、「そりゃしゃーないでー。」

だれも同情していませんでした。

次回、「本格的ダンスチームの登場！」です。

おまけで～す：「ガンバレ、消防音楽隊！」の連載も既に今回で41回。

去年連載が60回になったら、丁度5年、12ヶ月で割り切れるし、『連載60回記念特別番外編』やりますなんて書きましたが、このままだとすぐ来そうで、ちょっと怖い気がしています。

(その時には書く事なくなったりして(*_*))

ところで……、「オーストラリアでTFAと言う『最もタフな消防士』を決める世界大会に2000人の消防士が参加しました。」その映像は、ハードなコースをタイムチャレンジすると言う、いかにも体力勝負な内容でした。私自身、一般の方からも「消防士は体鍛えているから。」なんて良く言われますし、消防士のなかでも「体力が一番大事。」と言う考えが染み付いています。

TFAとは“Toughest Firefighter Athlete”の略で、競技会として行なっている事には何も感じないのですが、「タフ」と言う言葉と「パワフル」や「マッスル」と言う言葉が混同されている状態に苛立ちを感じ、引っかかって仕方ないです。

自分の考える「タフ」とは、“never give up”に非常に近いイメージを持っています。自分の事でも、他人の事でも、仕事の事でも、「信念を貫く」、「正しい事を言う」。誰の同意もなく、周り全員が反対していても、皆に笑われ、指さされ、あしらわれて、踏みつけられ、損をしても、全員を敵にまわしてでも、信じる事を曲げない、諦めない、絶対的苦境の中でも、たった一人でも立ち向

かい続ける「姿勢」や「気持ち」が私の思う「タフさ」です。

肉体的事柄、力学的数値や容姿を「タフ」と安直に結びつける幼稚な思考は、軽蔑に値すると思っています。

「タフ」とはそんなに安っぽくないと思っています。

誤解されると困るのですが、「ある程度以上の体力が必要。」な業種は存在します。

勿論、消防も一般の業務に比較すると体力を要する業種でもありますから、有るに越したことはありません。(以前、警察官の体力が一般成人よりも低かったと報道された事もありましたね。)

しかし「体力だけ」が必要で、他のものは価値がないとする「体力至上主義」と言えるような、自覚症状すら無い感覚が継承され、既に土壌として根付いている業界では、知らず知らずに、「体力ある人間が一番偉い。」と見える映像を、全く違和感なく受入れてしまう危険性が大きいです。(そんなことない職場もあるのでしょうか。)

問題なのは「体力さえあれば誉めたたえ」、「体力がなければ無用な人間」と人間の尊厳さえをも「体力」で測る考え方。ケガや病気、または加年による体力低下を認識した時、「体力至上主義」は自ら崩壊する事は確実です。(体力と言う尺度だけで測るなら、二十歳で定年にしなきゃいけませんネ。)

要は「バランス！」。

「T F A」から脱線した内容になってしまいました(^_^)

(バカバカ食い、ガバガバ酒を飲む人に「バイタリティがある」と言っている人がいましたが、とんだボキャ貧、本当に間違いをしていますよね。)

同じ日に、「大手食品メーカーを内部告発した、親子三代続いた冷蔵倉庫会社が倒産に向かっている。」事も知りました。不況の影響もあるでしょうが、不正暴露から1年で倒産寸前になっているのには、関連があると思うのが自然で

す。内部告発以後、取引を停止する会社が多く、経営が困難になったと言います。「正しい事は難しい事、多大な犠牲を伴う事」なのでしょうか？この会社の内部告発が、我々国民が騙されている事を知らせ、「食の安全確保」を認識せしめた行為が、自社倒産を引き起こした事実をどう解釈すればいいのでしょうか？

以前『正義ではなく大儀』と諭された事を、最近良く思い出し、考えます。

この二つを同時に知りましたが、自分の生き方、信条としてきた「タフさ」や「正しさ」と言うものは何なのだろうと改めて考えさせられる出来事でした。

さて、年内最後の掲載ですので・・・、

ジャン!! 年末恒例(?)この一年間の活動をサラッと振り返るコ～ナ～～～

(昨年付けた名前ですが、誰も何もいわないのでこのままで。)

出演内容

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1月13日(日) | 平成14年消防出初式 |
| 1月14日(月) 成人の日 | 平成14年羽曳野市成人式 |
| 4月12日(金) | 藤井寺市交通安全市民大会 |
| 5月 5日(日) 子供の日 | はびきの市民フェスティバル |
| 7月 9日(火) | ライオンズクラブ・インターナショナルパレード |
| 7月14日(日) | 第17回「大阪の消防大賞」発表会 |
| 8月11日(日) | 南河内地区消防団総合訓練(松原市) |
| 9月22日(日) | 藤井寺市民まつり |

11月 9日(土)

消防 Festa 2002 in はびきの

累計出演回数 169回

練習回数

毎週水曜日午前中及び強化練習 1回3時間 51回

この1年間の出演で使用した曲目

ツアラトウストラはかく語りけり/明日があるさ/雷神/名探偵「コナン」の
メイン・テーマ/ホレスト・ガンブ/「ミッション：インポッシブル」のテー
マ/「ルパン 世」のテーマ/76本のトロンボーン/錨を上げて/慰霊の歌
/インディー・ジョーンズ/君が代/ジュラシック・パーク/アフリカン・シ
ンフォニー/得賞歌(勇者は帰りぬ)/スター・トレック/となりのトトロ/
探偵物語/Gメン 75/バック・ドラフト/マイ・ハート・ウィル・ゴー・オ
ン/タラのテーマ(風と共に去りぬ)/E.T./いつも何度でも(千と千尋の
神隠し)/ジョーズ/ある愛の詩/はぐれ刑事純情編/炎のランナー/美女と
野獣/アポロ13/川の流れるように/ドラえもん/太陽にほえる/バック・
トゥ・ザ・フューチャー/巡閲の譜/スリー・ファンファーレ

(曲種だけはスゴイでしょ?)

最近10年間で最多は17回、最少は9回ですが、今年の出演回数は7年振りの9回でした。12ヶ月中5ヶ月に出演が無く、あとの7ヶ月間で9回なので比較的余裕があったように思われるでしょうが、USJでの「インターナショナル・パレード」と「消防 Festa」と言う、我々にとっては大きな出演もありましたので、やはりイッパイイッパイの感じです。特に「消防 Festa」では、メドレー3曲を含み20曲を、3回のステージで各々別々の曲を演奏しました。演奏の出来は良いとは言えず、まだまだ先が長い事を認識させられました。(このイベントの企画から担当していたので、当日の土曜日は帰宅してから、月曜の朝まで36時間中、30時間死んだように眠っていました。)

隊員の体調管理も私の仕事ですが、自分自身の体調管理をもっともっと考えなくてはならない事に気が付きました。(^^)

『音楽の提供を単一に「主」と考えるのではなく、服、規律、動作等の視覚上与える効果やイメージも含め、消防のメッセンジャーとして、音楽隊の持つメッセージを発信し、市民の皆さんから返してくれたものを受信し、フィードバックしていく。理由や目的をひとつずつ挙げるだけでは十分に説明できない、多重的な存在意義。そのために演奏スタイルや出演内容にもバリエーションを加え、沢山の皆さんに聴いていただける機会を増やしていく。演奏指導や奏者育成と言う楽長の仕事に、プランニングやプロデュースに占める割合が大変大きくなって来ています。隊運営も出演も全部含めて。暖めているアイデアやプランは、胸のなかで抱えきれないほどあります。暖めすぎて、溶けだしているものもありますが。』憶えている方もいらっしゃるでしょうが、これは去年の年末号で書いた文章です。

今年の「消防 Festa2002in はびきの」では、音楽隊も含め、イベント全体をもう一人の相棒とプランを練り上げてきました。正直言って、今までのスタイル、コンセプト、「昭和時代の役所の考え方」は一旦すべて捨て、ゼロからスタートさせました。PRの方法も全く新しいものでした。先の文章の「音楽」を「消防」、「演奏」を「活動」、「聴く」を「見る」などに読み代えると、私の考え方が分かっていただけだと思います。

十分ではなかったとは思いますが、プランニングやプロデュース、つまり、企画と演出には、暖めてきたアイデアを出来る限り使いました。非常に低い予算内でチープなイベントではありましたが、当日は曇天に寒風のなか、27000人の市民の方々が足を運んでくれました。とっても嬉しかったです。ありがとうございました。暖めてきた企画アイデアの一部も、(溶け出す前に)実現出来ました。(でも、まだまだイッパイ持っています。)

「今まで考えられなかったような事故や災害と同居している今日、被害に遭われる方を少しでも減らしたい。」これは音楽隊に限らず、私が消防に入ってから、ずっと抱えている思いです。理念は少しも揺らぎません。

高久先生、竹平先生、小田先生、辻本先生、伊勢先生、岡田先生、高見先生。いつも無理ばかりお願いして済みません。これからも、いつまでも、宜しくお願い致します。

そして、音楽隊を「陰」となってバックアップしてくれている大勢の皆さん、特に柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊隊員の家族の皆さん、いつもありが

とうございます。本当に「お蔭さま」の意味と存在を毎日感じ、有り難く思っております。どうか、これからも暖かく支えて下さいますようお願い致します。

この HP、楽長のコーナー「ガンバレ、消防音楽隊！」に今年も沢山の応援を頂きました。ありがとうございました。皆さんの励ましの「お話」や「メール」とても喜んでおります。読んでくださる方がいらっしゃる限り、連載を続けて行きたいと思っております。

ホテル税、食品不祥事、中国製やせ薬、ヤコブ病、ソルトレーク五輪、ムネオハウス、住基ネット、悪の枢軸、不信列島、途中狙い、090金融、Suica、エンロン、捨て牛、プレツェル失神、おさかな天国、タイガース定期預金、ワンコインタクシー、早食い、アニータ、日韓共催 W・C、ベッカム、コリーナ、大五郎カット、真珠夫人、USJ 不祥事、リバイバル消費、ビジュアル系仮面ライダー、学力低下、よろしかったでしょうか？、アミノ酸、フラッシュ暗算、イタリア・ブーム、カメラ付き携帯、BOB SAPP、癒しロボット、「世界がもし100人の村だったら」、カバー・ブーム、ベラベラブック、励まし系、リアリティーショー、コラボレーション、デパ地下ブーム、タマちゃん、バウリンガル、AREA LUNAR、サルティンバンコ再来決定、ジーコ・ジャパン、拉致、ポール・マッカートニー、大量破壊兵器査察、Fran、ジェームス・コバーン死去、しし座流星群、ハリポタ秘密の部屋、高円宮様逝去、Fit1位、ジンジャー予約開始、座礁船、FCカー、七人の侍、授賞式ダンス……。

今までの「知られていなかった部分」が一挙に露見した一年だった気がします。(闇の部分も多いですが。身近にも同じような事があったし。)

私個人的には、「テレビドラマのような」現実離れした1年でした。(自分で言うのも変ですが、労働基準法違反と言える程、思いっきり仕事もしましたよ。)

来年もまた「でかい仕事」が待ち受けています。(・・;)

(倒れないようにしなければ……。)

それでは皆さん、

MERRY X MAS & HAPPY NEW YEAR !

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

FIRE MAN S BAND Conductor & Drum Major

Wishing you the best FIRE CAPTAIN YOSHIFUMI KAWAI

ガンバレ、消防音楽隊！（その42）

新年明けまして、おめでとうございます。

皆さんは、どんな新年をお迎えになったのでしょうか？

訳あって、私はパソコンの画面ばかり見て過ごしていました。（あー目が痛い。（>_<））

我々、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防音楽隊は、1月12、13日の出演が終わり、これから新しい譜面で練習していこうとしているところです。1年って「あっ」という間に過ぎてしまいますが、でも、1年前には思いもしなかった嬉しい事や悲しい事が起こったりしますよね。「一寸先は闇」って言います。時間に追われ続けて、走っているうちに大切な時期を逸したりします。

「時間」は、即ち「命」。

日々それを切り売りしながら、過ごしているように感じます。「必ず来る終わり」に向かって「命」にふさわしい「時間」を持ちたいと思います。この1年は、一体「ナニ」が待ち受けているのでしょうか？（何も無いのが一番いいのです。別にドラマチックな事は期待していません。でもいつも、絶対、巻き込まれちゃうもんなあ～（-.-;））今年も「消防音楽隊」と「ガンバレ、消防音楽

隊！」と（特に）「私」をどうぞよろしくお願い申し上げます。 m(____)m

4 消防音楽隊合同ドリル演奏に向けて、練習もヒートアップしてきました。ピンチヒッターのフルート君も、観念したのか、動きは悪くないです。アルトサックス君も、演奏無しの「解禁」以降は、『天敵』キックを受ける量が減りました。とおし練習もそこそこスムーズになってます。今回の演奏曲目は「グレン・ミラー」のヒット曲で構成されています。が、一ヶ所だけ不思議な部分がありました。有名な「ムーンライト・セレナーデ」という曲の間中、音楽隊員は全員ひとかたまりになって動かないのです。コンテ作成者に尋ねてみます。

「この曲の間は、なんか（企画が）あるん？」

「本番はダンスチームを入れます。」

「ダンスチーム？」

「本格派ダンスチームです。期待しといて下さい。」

「はい。」(ワクワク)

社交ダンスがブームになっている事は知っていましたが、小学生時代させられたフォークダンスしか知識のない当時の私は、「ダンスチーム」って、「サンバチーム」と「チアガールチーム」とが入り混じったイメージが、頭の中で膨らんでいました。（いまは分かっていますが、その時は「サルサ・ダンサー」がチームでやって来るような事を思って、なんかスゴイ期待してしまいました。
(^^ゞ)

最後の練習日、

「今日は、『ダンスチーム』にも来てもらっています。出演者全員で合わせますので宜しくお願いします。」と説明がありました。

（ダンスチームが来てるの？ どこ？ どこに来てるの？ワクワク）平日の昼間だからか、近所のお年寄りの方10数名が見物されています。なかには、手を繋いだ「おじいさんとおばあさん」がいます。（仲良いんだなあ～。微笑ましい。）で、ダンスチームはどこだろう？とっていたら、練習が始まっちゃいました。（ま　いいや、そのうち現れるんだろう。期待特大。）

スムーズに練習は進み、次は「ムーンライト・セレナーデ」、いよいよダンス

チームが登場するはずです。(^^)

「??? (..) ???」

『見物のお年寄り達』が急に我々の練習しているフロアー中心に小走りに入って来ました。

男女ペアになってお辞儀しあってます。

「へっ?この人達が?」

膨らみ過ぎたイメージが急速に萎んでいきます。最後は自分自身の勘違いが妙にバカバカしくって、ヘラヘラ笑いながらドラムを叩いていました。(知らない人が見たら、少しアブナイ系。)

一通り終わって、

「ご紹介します、共演していただく『敬老ダンス会』の皆さんです。パチパチパチ・・・」私もガッカリしながらスティック片手にパチパチパチ(-_-;) (「本格派ダンスチーム」って言うたやん)

地盤沈下のため、少しお椀状になった床の東大阪市民体育館と別れ、平成3年9月23日「JC大阪東南地区音楽フェスティバル」の開催場所、(たぶん)近畿大学記念会館にありました。(当日初めて、イベントの正式名を知りました。)

兼任の消防音楽隊は、出演者のなかに当務者もいるので、さっさと帰れるように、最初の出番が多いのですが、今日もトップバッターです。(出演の間は、補欠勤務として、休日出勤した職員がその分の穴埋め勤務をしています。)

会場入りしてからは、例のごとく、ドラムの搬入とセッティングです。(孤独な肉体労働) 今回のドリル(マーチング)で30m四方の広さを使うので、必然的に会場は大きく、室内高も高くなるため、しっかりビートを出さないと、残響にリズムが埋もれてしまいます。(しっかり叩くのは得意なつもりですが、おとなしい(音無しい)ドラムになれたバンドに呼ばれて演奏すると、たまに拒絶反応を起こされる事があります。)

タキシードとドレスで正装したダンスチームもスタンバイしています。本番直前までアルトサククス君は説教を受け、頭掻いてます。(やれやれ(~_~;))

入場して整列後、「セントルイス・ブルース・マーチ」「アメリカン・パトロール」「ファンシー・ドリル」「ムーンライト・セレナーデ」そして「イン・ザ・ムード」。ドラムセットも暴れさせて頂きました。(被っていた帽子も飛んじやった。楽しませてもらいました。)最後は「ハロー・ファイヤーマン」という行進曲で退場。(全曲の楽譜を憶えるので大変だったね。)終われば速攻で片付け、他の出演者の演技も見ずに引き上げます。

後日の「打ち上げ」の最中、アルトサクソフーン君はズット説教されていました。「やっぱり、『あれ』は天敵や。」って嘆いてましたが。」「この話」をもらった時はどうなるかと不安でしたが、まずまずの出来栄で安心しました。ただ、その後二度と「合同ドリル演奏」のお誘いは有りませんが…。一番苦労したフルート君の終わってからの一言、「ホンマに、ひどい目にあわされたワ。もうコリゴリや。」(途中から入って、時間的にもきつかったやろうネ。本当におつかれさま。)しかし、本人の意思とは関係なく、面白いように運命に翻弄され、再び災難の渦中に飛び込んでしまうフルート君でした。

次回「ウルトラ可哀想」です。

ガンバレ、消防音楽隊！(その43)

「4消防音楽隊合同ドリル演奏」でピンチヒッターの大役を果たした隊員は、苦労した甲斐があったのか、少し自信を付け、

「簡単な譜面やったら、合同演奏出てもいいかなあ～。」

と、口を滑らせてしまいました。これは**チャンス!**(^^)v

「大阪の消防大賞」発表会での府下消防音楽隊合同演奏は、いままでにも何度か記載してきたので、皆さんもご存知だと思いますが、事前に会議で演奏曲目と派遣隊員を決め、合同練習を経て本番を迎えます。

私は隊員の出演希望はとても大事にしますので、派遣出来るように会議でも頑張っています。

今回は当然、最優先で、フルート枠を確保。それも少しでも易しいように「1

番フルート」ではなく、「2番フルート」で。その結果、パーカッションで出演してきた自分の枠を削る事となってしまいました。

「連続して何年か出てきたから、いいか。」

少し寂しい気持ちを感じながら会議を終え、所属に帰り早速関係書類を作成して、隊員の派遣許可をとり、決定後本人に話しました。

「ゲ！ホンマに行くの？」

「出てもいいな～って言うてたやん。」

「言うたけど、そんなすぐに決めてこなくても。」

「早い、遅いは関係ないやろ？もう決裁も終えて許可取ったし。」

「難しい曲やったら、イヤやで-。(@_@)」

「ちゃんと2番フルートで枠取ってきたから大丈夫。」

「もう！この前はヒドイ目におうたけど、今度はホンマに大丈夫？」

「心配せんでも、大丈夫やって。」

「ホンマ！？ほんなら頑張ってみようかなあー。」

数週間後、他に2名の出演隊員も居てるし、私が同行しなくても大丈夫だろうと、チャント「2番フルート」の楽譜を持たせ、1回目の合同練習に送し出します。(行ってらっしゃーい、頑張ってるね～(^o^)/バイバイ)

でも、隊員達が帰って来るまでは気になって仕事に集中出来ません。(やっぱり心配)

夕方、やっと帰って来た隊員達。でも特にフルート君は全く表情がありません。

「どうやった？」

「……。」

「簡単な楽譜の担当にしてあったから、大丈夫やったやろ？」

「もう、あんなんムチャクチャや〜。」

「エ？なんで？」

「もうイヤ - 。辞める。音楽隊辞める ！」

「どうしたん？」

「あんなん出来へん。もう辞めたる - !!」

「なんでやねん、難しいパートは外してあるから出来るはずやで。」

「出来へんねんもん！」

「まだ合同練習あるから、頑張つて。」

「……（ブスッ）」

（おっかしいなあ - 、あれぐらいの譜面ならどうにか演奏出来るはずやのに。???)

合同練習中の様子が分からないので、他の2名に尋ねても、

「自分の事で精一杯で気が付きませんでした。」

あれま〜、一体どうしたのか？

消防音楽隊の練習でも、別室に一人引きこもって練習してます。

ん〜ん、見かけによらず頑固なところあるからなあ - 。

すごく気になるけど放っておきます。

合同練習は、一回も見に行くことなく、本番日になってしまいました。

楽屋や舞台袖で、他の消防音楽隊の方々にご挨拶に回ります。

(出演者ではないので、なんとなく所在ない感じです。)

ウチの隊員達にも声を掛けますが、やはりフルート君だけは表情が超暗い。
(ニコリともしません。なんか怨まれているような…メッチャ怖いオーラが出ています。)

さて、リハーサル。今回の合同演奏を初めて聴きます。

(客席で合同演奏聴くのは、初めてです。)

どんな仕上がりかとっても楽しみ。

がっ!(°o°)?????

ムッカ~~~~頭来た。

「なんでやねん！」

次回「うそ! どうして???の巻」です。

? ? ?

ガンバレ、消防音楽隊!(その44)

いままでは、毎回出演者としてこの日に向かえていましたが、今回は初めて客席で演奏を聴く事をすごく楽しみにしていました。

(寂しさも感じますが、傍観者ですので正直お気楽。)

特にまだお客さんが入っていないリハーサルは、いい席で聴けるので好きです。

期待どおり、合同演奏は迫力があって、聴いていても気持ちいいです。

今回の合同演奏のメイン曲は「美空ひばりメドレー」と言う、数人のソロ演奏がある比較的長い曲です。以前もお話しましたが、一応選抜メンバーですか

ら、メインの曲でソロを取るプレイヤーは選抜の中で「それなりの実力」のある者です。この曲は、途中で全員が演奏を止め、フルートの独奏する場面があります。今回の最大の見せ場です。当然「それなり」どころか「超」が付く程の実力者が演奏するはずですので、期待大です。

他の曲が終わり最後に「美空ひばりメドレー」のリハーサルが始まりました。

「さすが上手なぁ〜。」と感心しながら聴いていました。

順調に演奏は進み、いよいよ。

(当たり前ですが)全員楽器を下ろしてシーンとしています。

「誰が吹くのかなぁ〜。ん？」(ワクワク)

独奏しようとしているのは……、

「ゲッ !」

ウチのフルート君が一生懸命吹こうとしています。でも、一向に『音』は鳴りません。

まだ、そんな難しい事をこなせる程の実力は無いはずですが。だからこそ、会議では苦労して「2番フルート」を確保したのです。

「なんでこうなったん??？」

必死に頑張っていますが、全く吹けません。(>_<)

見ていても可哀想なほどです。(その健気な姿を見て涙出そうになりました。)

舞台上の他のメンバー65名は無表情。

タイムスケジュールがあるので、いつまで経っても出来ない『独奏』を待っている訳には行きません。とうとう指揮者も堪らなくなり、一旦演奏を止め、『独奏』が終わった事として演奏を進め、リハーサルを終えました。でもリハーサルはブチ壊しです。

せっかく会議で決めたはずなのに、ウチのカワイイ隊員をこんな目にあわせられて、完全に頭来てしまいました。ムッカ〜〜。

「なんでやねん！」

客席から直接舞台へ足早に向かいます。(多分スゴイ顔してたと思います。)

演奏で迷惑をかけているのですから、とにかく指揮者には謝らなければいけません。

「済みません。大変なご迷惑をおかけしています。今日まで知らず申し訳ありません。」

「いえいえ、河井さん。大丈夫ですから。」

(どう見ても大丈夫なわけないやん。)

苦し紛れに出た言葉でしょうが、指揮者もこれ以外に言いようが無かったのでしょう。リハーサルが終われば一時間後には、本番です。もう手の打ちようがありません。本番で緞帳が上がってしまえば、お客さんに言い訳出来ない事は、誰でも知っています。

私を避けて楽屋に向かう隊員を追いかけます。

すれ違う他の消防音楽隊関係者に目が合っても、あちらは苦笑いするだけ。

リハーサル前に挨拶に回った時、どこかよそよそしいと感じたのは、これがあったからのようです。

自分だけが知らなかったと言う思いと、自分の隊員に2ヶ月以上辛い思いをさせていた事が、堪らなく腹立たしかったです。

やっと楽屋口で追いつきました。

「いったいどうなってるねん！」

「そんなん言うても、出来へんもんは出来へんもん！」

「ちゃうがな、なんでお前が『ソロ』してんねん！」

「そんなん知らんやん。」

「ちゃんと『2番フルート』の楽譜渡したやろ？お前吹いてんの『1番フルート』の楽譜やんけ。」

「そんなん知らんやん、1回目の合同練習で『これしてもらえますか？』って渡されて。」

「知らんやん、渡されてって、お前子供か！？ オレが楽譜渡したやろ！ さんのために会議で決めて来たと思ってるんや、勝手なことをするな！！」

「1番も2番も分かれへんもん。」

「楽譜の左上に書いてある数字が分からんのか！」

「……（慚然）」

ほとんど言い争いです。

「いままで一回でもチャント吹けたことあるんか？」

「一回もないです。」

「全然？」

「全然。」

参った～。

「お前も出来へんねやったら、断れよ！」

「……（超慚然）」

「誰から楽譜渡されたんや？」

「 の人。」

「分かった。スタンバイまで余り時間ないぞ。本番は思いっきり行けよ。」

「思いっきりなんか行かれへんワ。」

「いいから。今日で終わりや。思いっきりやってこい。」

「もうええねん！」

「ええことあるか、何のためにがんばってん。できんでもいいから、最後まであきらめるな。」

私も、本人もほとんどキレかけています。

やっと経緯が分かりました。私の放任主義にも原因があります。しかし、会議調整した事を無視しているやり方も、ウチの隊員が幼過ぎたのも原因です。

その結果、やはりウチの隊員が辛い目にあっていた事に我慢出来ません。今度は、その張本人『 の人。』を探します。

見付けた！！！！

こいつか～。

お前の顔憶えたからな - ! 絶対逃がせへんぞ！！

(完全に「**怒りモード**」にスイッチ入ってしまいました。)

「くっそ 絶対許さん、演奏会終わったらきっちりカタつけてやる！」

次回「大逆転、大ドンデン返し！」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その45）

演奏会では、スタンバイまで各自自由時間になっていることが多いです。(なかにはミーティングや、写真撮影があつたりしますが・・・) 緞帳の客席側では「客入れ」が行われています。一方、楽屋では、弁当を食べたり、演奏服に着替えたり、水分補給したりして過ごします。でも、急に探し物する人や、うろろろ落ち着かない人など、いろいろな人が見れて結構興味深い光景が展開されます。(自分も学生の時、スタンバイの時間になってから、機材が足りない事に気づき、楽屋中走り回った経験があります。ロックバンドの銀色キラキラ衣装で。)

自分では、普段は温厚だと思うのですが、(自分では、そう思っているんです。)しかし、今日はムカムカしているのと心配なのがゴチャゴチャに混ざって、そんなものを眺めている余裕はありません。楽屋付近にいると余計イライラするので、建物の外に出て気分転換します、が、まだ治まりません。フルート君の姿を探します。楽屋、ロビー、自動販売機コーナー、喫煙場所、トイレ、どこにもいません。一層心配になってきました。仕方なく開演前の無人の舞台でも見て気を静めようと思つくと、

「!？」

フルート君が、誰もいない舞台上で、独り練習しています。いくら緞帳が下りていても、その向こう側には既にお客さんが入っているので、開場後、舞台上で「音」を出す事は良い事ではありません。でも、一心不乱に練習している様子に、声をかけることも出来ません。しばらく遠くから静かに見ていました。『美空ひばりメドレーのソロ』を何回も練習していますが、やっぱり出来ません。へ口へ口でなんとか前半出来ても、中盤から後半は全くです。

本番寸前にこれ以上続けても意味はありませんし、可哀想になってきました。近寄って行くと、こちらに気付いたようでフルートを下ろし練習をやめてしまいました。

「ここに居たんか？探したよ」

「はー。」

「もう、ええやん、十分頑張ったやん。」

「はー、もうしゃーないですわー。」

「今日で終わりや、出来るだけのことをしておいで。もうすぐスタンバイや、用意しーや。」

「はー、分かってます。」

と言って、ぶっきらぼうな返事と態度のまま楽屋のほうに去って行きました。

このままでは、1000人の観客の前で、彼が大恥をかくのは確実です。多分、彼は音楽自体嫌いになっているでしょう、当然音楽隊の事も。これでは自分はなんのために頑張ってきたのか分かりません。耐え得る試練はいくらでも与えるつもりですが、もともとやる気のない隊員を、無理やり音楽隊に入れて演奏業務を行っているのに、全く不可能なことまでさせて、これ以上隊員を追い込む気は毛頭ありません。

音楽隊員を瀕死状態に追い込む気は毛頭ありませんでした。(既に瀕死状態ですから。)

しかし結果は逆方向に。空しさまで感じてしまいます。誰もいない舞台上、こんどは私が開演前の演奏席に座り込んでしまいました。

スタンバイの時間が迫ってきました。舞台袖に出演者が集まってきてザワツワワしています。私は、人と顔を合わせたくないの、伏せ目がちに一人客席へ。

冷酷にも時間は流れ、その時は来ます。緞帳が上がりました。

キレイな照明に照らし出される出演者達。軽快で、迫力のある演奏です。

何の問題もなく、プログラムは進み、今日のステージのフィナーレを飾る『美空ひばりメドレー』です。有名な曲が次々に演奏され、お客さんが喜んでいきます。あと数十秒でフルートの独奏です。逃げ出したい気分にはなりますが、フルート君はもっとそう感じているでしょう。たとえフルート・ソロが原因で、合同演奏が失敗しても、最後まで見届けるのが私の役目です。(胃が痛いです。)

急に、65人の演奏が止まり、シーンとしました。会場も次になにが起こるのが注目しています。舞台上で一人だけフルートを構えます。こちらも力が入ります。

~~~~ ~ ~ ~ ~ . . . .

前半、決して上手ではないですが、丁寧に、チャント吹けています。

「(ガンバレ、ガンバレ。)」

心の中で、ずっと応援しながら、でも、だんだん力が入っていきます。

中盤、後半、そして最後。彼は見事にフルート・ソロを吹き終わりました。練習でも、当日のリハでも、直前の自己練習でも、一回も出来なかったのに、本番でバッチリ。メチャかっこいい！でも、周囲には大迷惑です。(でも、その分頑張ったもんね。)

会場から拍手が巻き起こります。私も一瞬で全身の力が抜けてしまいます。(脱力~~~~。)その後の演奏は全く耳に入りませんでした。(あ 疲れた~~~~。)

演奏が終わり、拍手の中、緞帳が下がります。

ゆっくり舞台裏へ向かいます。

無事演奏を終えた出演者達は、いつもより数段にこやかで、談笑しています。その中心に「フルート君」がいます。ほぼ全員から労いと褒め言葉を浴びています。本人も笑顔全開。嬉しそうです。もう私の出る幕ではありません。

落ち着くまで待って、やっと声をかけました。

「お疲れさん、良かったな、立派なソロやったで。」

「はい、ありがとうございます。」

本人は分からないようですが、充実感に満たされたいい顔しています。

「楽長、」

「ん？」

「もうコリゴリですわー。」

「なに言うてんねん、来年も（合同演奏に）引きずりだすぞ！」

「あ もう絶対音楽隊辞めるもん。」

「ダメ！認めん。」

お互い笑顔で話しました。フルート君の、逆転サヨナラ満塁ホームランの大ドンデン返して、怒りもなにもかもぶっ飛んでしまいました。

合同演奏の打ち上げでは、フルート君は『話題の主演』で、あちこちから、

「深ちゃん、深ちゃん。」と引っ張りだこ。（フルート君の本名は深山です。）

会議調整を無視して譜面を渡し、今回の騒動発端の張本人『 』の人。』と仲良く肩を組み、二人とも千鳥足で夜の南のネオン街に消えて行きました。（おーい、そいつのお蔭で大変な目にあったんやぞ～、もう忘れたのかー？）

やれやれ。（・・・；）

（僕はもう帰るけどいい？って聞こえてないみたい。）

次回「楽長、千代の富士に叱られる？」です。

おまけ1：「2003年4月7日東京、高田馬場、科学省で鉄腕アトムは生まれました。」アニメでのお話ですが、単にアニメの主人公としての枠を超越したところに今でも鉄腕アトムは生きていて、我々日本人がアトムの事を話す時、アニメ「鉄腕アトム」の事を話すより、科学やロボット技術、快適で、平和な、明るい未来を漠然とイメージする事が多いと思います。世界中で愛され、これほど長きに渡り生き続けるアトムを生んだ、手塚治虫氏の想像力は素晴らしいのだと改めて感心してしまいます。（氏は大阪府豊中市生まれらしいです。）アカデミー賞長編アニメ部門でオスカーを受賞した「千と千尋の神隠し」に代表される日本アニメは唯一メイド・イン・ジャパンが世界に誇れるモノになった気がします。ノーベル賞でも日本人が話題になりましたが、世界で一番有名な日本人は「オノ・ヨーコ」氏です。彼女の作ったムーヴメントも世界中で「反戦運動」を起こしました。毎日流れる映像に、早く戦争が終わる事を願うばかりです。

アトムのように、真っ直ぐに、一途に、正直に生きる事。正しい事を信じて行う事。私も正直に真っ直ぐ生きたいと思っています。

しかし、実際は、何が正しくて、何が間違っているのかさえも分からない。

正しいと言う定義や意味も難しい。権力者だけが、都合のいい正義を振りかざし、取るに足りない人間は命さえ軽く扱われている様に感じます。TV アニメ「鉄腕アトム」は、人間を守るため、地球を守るため、燃え盛る太陽に向かって行き終わっています。

生まれたばかりのアトムは、今の世の中を見てどう思うのか。アトムをガッカリさせない世界を。恥じない生き方を。

おまけ2：いつもアクセス頂きありがとうございます。皆様のおかげで、もうすぐ連載4周年になります。でも、最近チョットくじけそうになっています。この「ガンバレ、消防音楽隊！」に関するご意見をお聞かせ下さい。

「長い」とか、「ダルい」とか、「くだらない」とか、「面白くなくなった」とか、「長くて、ダルい」とか、「長くて、ダルくて、くだらない」とか、「長くて、ダルくて、くだらなくて、面白くなくなった」とか。とかとかとかとか……。

正直なご意見、よろしくお願いします。 from 楽長

## ガンバレ、消防音楽隊！（その46）

電話など音声だけで説明する場合に困るものに、名称の「漢字」があると思うのですが、当消防本部は、三つの市で運営しているので名前も「柏原羽曳野藤井寺消防組合」と長い上に、「羽曳野」の『曳』って言う字がナカナカ説明し難いです。

「……」「船を曳航する。」って言う時の「曳」って字で。……栄光じゃなくて曳航!!って。(--;・いやいや、「ひく」って、弓に縦棒の引っ張るの字と違うって。曜日の日って言う字に、上から右下へ線を貫いて……あ～後で地図で確認してもらえますか？」

説明が下手なうえ、ボキャ貧なもので、電話ではなかなか分かって貰えません。

ここ羽曳野市には「白鳥伝説」と言うのがあり、市発行の「羽曳野の文化遺産」によると、

「ヤマトタケルは、第12代景行天皇の皇子。勇敢でその名を知られている。大和朝廷全国統一のために命令を受け西方と東方に出陣、勝利を収めたが、帰途に伊勢の能褒野（のぼの）で没した。ヤマトタケルは白鳥に姿を変え、大和の方へ飛び立った。琴弾原（奈良県御所市付近）に降り立ったあと再び飛び立ち、河内の旧市邑（羽曳野市軽里付近）にとどまった。この3ヶ所にはそれぞれ墓が造られ、合わせて白鳥三陵という。～中略～また、古市の白鳥神社の縁起には、「さらに白鳥は舞い上がり、埴生の丘を羽を曳くがごとく飛び立った」と記されている。ここから「羽曳野」の地名がつけられたといわれている。」

となっています。

柏原市や藤井寺市も含め南河内には沢山の古墳があり、古代の息遣いが感じられます。

（アカン、歴史の講義みたいになってしもた。学校の歴史の時間は大嫌いやったなー。）

んで、誉田八幡宮と言う、第29代欽明天皇の命で応神陵の上に設けられた日本最古といわれる八幡宮がありますが、そこで消防訓練を行う事となりました。

（長い前説でした。（^^ゞ やっと本題です。）

直接、消防訓練とは関係なかったのですが、なぜか、大阪場所で羽曳野市内に来ていた九重部屋の力士さん達と訓練の前にパレードをするという企画になっていました。

（いったい、どう言う企画や！）

例のごとく、呼ばれ、企画を聞いて、パレードの曲を練習するといういつものパターンになっていきます。（やれやれ(>\_<)）

当日、駅前のスーパーの駐車場に、パレード参加団体が集合して、音楽隊を先頭にパレードです。我々もマイクロバスと楽器搬送のトラックで集合場所へ。楽器を持って整列すると、そこに「千代の富士」ご本人!!

(( 〇 )お 、テレビと同じやー。)

当時、「九重親方」はまだ引退して浅かったので、「千代の富士」と呼ぶほうがシックリしました。

パレードに動員された市内のお母さん達が、もう黄色くない奇声でワイワイ騒いで、既に記念撮影大会になっています。(興奮気味の集団で迫力満点。肉食野獣の群れのよう。ガルウウウウ ! )「千代の富士」でさえウッチャリされてしまいそう。

隊員達も「千代の富士や!」「千代の富士や!」って話しています。広い駐車場に集まった全員が「千代の富士」一人を見ている状況です。が、私は担当者と最終確認しに。

途中、この大騒ぎから少し離れ「北勝海」が防火バケツ持って、無表情で微動だにせず立っているのを発見。少し寂しそう。(その姿にも驚いてしまいました。(\*\_\*) なんか怒っているようで不気味です。)

戻って来ても、まだ騒ぎは収まっていません。兎に角、隊員たちにパレードの準備をさせなければ。

隊員達の注意を「千代の富士」から引き離して演奏体制に入るために、「千代の富士」が見えないように、無理やり隊員達を騒ぎの中心方向と反対側に向かせ、全員一緒に音階を吹かせウォーミングアップさせます。(アップも強制的にさせないと誰もしません。)

が、いつもの下手くそ音階が、一層下手くそのバラバラです。どうも皆の視線が指揮をしている私の頭上を通過しているような・・・。

ふと後ろを振り返ると、いつの間にか、指揮をしている私の真後ろで「千代の富士」が私の真似して同じように指揮しています。

「へ?(なにしんの?)」って言う顔した私に、

「オイ、全然気合入ってないなー！！(-.-)」

あのね、ジョークのつもりでしょうが、あなたが指揮の真似してるから、誰も本当の指揮者見てへんねんって。

隊員達に、

「ほらみる、千代の富士に怒られたやんけ！」

気を取り直してもう一度やり直し。

パレード前に、挨拶があったり、挨拶があったり、挨拶があたり……。 (もう、そろそろいいんじゃないの？っていつも思っています。)

やっとパレード開始。音楽隊が先頭で、すぐ後ろが力士さん達。だから音楽隊はその様子は見れません。

菅田八幡宮にパレードが到着すると、すぐ消防訓練が開始されようとしています。我々は撤収にかかり引き上げる用意です。

と、一人の隊員が、焦った顔つきで、

「千代の富士と握手してきていいですか？」

「なんて??」

「訓練見学用の来賓席に千代の富士がいてはるから、握手を。」

真っ白い演奏服でいてるだけでも目立つのに、見学席に入って握手したらもっと目立つでしょう。まして工作中。「千代の富士」も仕事。でも、本人は真剣。

「それマズイで-。」

「あきませんか？」

そりゃ認めてあげたいけど、ね。



そこへ、すかさず周りの隊員達が、

「お前、そりゃアカンぞ！」

「アホか、なに考えてんねん！」

「状況を考えろ。工作中やぞ。」

と、口々に突っ込みを入れられて、本人も渋々諦めました。

憧れのスターに会える事なんて、めったにないチャンスですから、どうにかならないかと一瞬躊躇した私に比べ、音楽隊の事に関しては相当チャランポランな隊員達が、極めて常識的な判断を下した事が非常に意外でショックでした。(それなら、練習もチャンとしようよ。)

帰りのマイクロバスの中で、残念そうな表情の一人の隊員を見ながら、そんな事を考えていました。

でも、みんな、人の会話をよう聞いているんやな~。(耳ダンボ。)

あっ、そうそう演奏の事は書いてないでしょ。

ピンポ~ン、皆さん、ご想像とおり悲惨な演奏です。(ToT)

次回、「運命に翻弄され続ける私」です。

## ガンバレ、消防音楽隊！(その47)

消防職員に採用されると、土日開放される以外、半年間の入寮生活を強いられ、基礎的な訓練教育を受けます。これが終わって各所属に配置されるのですが、この「新人」と呼ばれる時期に、音楽隊としてどうにか演奏出来るよう、強制的に入隊させて人数を確保していました。しかし、当然やる気のない人間

を強制的に入れたところで、邪魔になるだけ。そんな事を分かっている、もうせざるを得ない状況まで切羽詰まった状態に音楽隊はありました。

「練習に来い！」と激を飛ばしても、空しいだけ。誰もなんとも思っていない。サボって来てない人間から「休む連絡受けてます。」と弁解し合うルールまで存在する始末です。(学校の代返と同じです。)

そこで、アプローチの仕方を変えて、

「どうしたいのか？」話させました。横で先生方にも聞いてもらいます。

「別に練習に来なくても、楽長以外には誰にも注意されない。幹部連中なんか、自分は関係ないから見て見ぬふりしている。こんな状態では、音楽隊は適当にやっておいて言ってるのと同じです。楽長一人頑張っても無理じゃないですか？」

私は黙って聞いています。

また別の隊員が、

「なんで、俺がこんな事せなアカンネン。」

「僕も音楽大嫌いです。すぐ辞めたい。」

唯一の経験者が、

「1時間も、2時間も消防の訓練する事に比べたら、僕は楽器吹いてる方が好きです。」

「あいつは経験者やから、おもしろいかも知れんけど、そんなんあいつだけや！他の全員嫌がってるし、俺は絶対嫌や。」

「職員で、誰もこんなん仕事やと思てないし、上にも仕事と思われてない。」

「音楽隊作れって言うた奴が、自分でしたらええんじゃ。」

「非番や休日に出てくるだけでも、嫌やのに。こんなんアホらしくて、やってられんワイ。」

「やりたい奴だけで、勝手にやったらええネン。」

「こんなアホなこと、いつまで続けなあきませんか？俺もう辞めさせてもらいますから。」

「所属で『練習言ってきます』と言うたら、『ラッパ吹いて遊んでるだけやんけ！』って言われてます。」

ま一言いたい放題。でも無理もないです、やる気のある隊員でさえ、所属所属で嫌な目に会っているのです。これこそが実態です。彼らの正直な気持ちなのです。

「じゃー、どうしたらいいのか来週までに各自書いて提出してくれ。」

「書いてどうなんねん!!」

「消防長に提出する。」

「シ~~~~ン」

しぶしぶ、なかば無理やり了解させました。

以上の経過を見てもらっただけで、分かって頂けると思いますが、つまり、

- 1、 自分は嫌な事させられているから、それから逃れたい。
- 2、 でも、矢面に立つのも嫌。
- 3、 幹部も含め、自分だけは関わりたくない。
- 4、 強制的に無理やり音楽隊員にされても、影でだったら文句言うが、直接言うのは上から睨まれるから嫌。

総合すると、こう言う事です。

(「自分だけは。」って言う風潮は、大っ嫌いな考え方で、聞いているだけでもムカムカ、イライラします。)

隊員だけではなく、職場全体の状況を横で聞いていた先生達も呆れ顔です。

この頃、係長になっていた私の仕事は、一番忙しい救急隊の隊長と、時々消防隊の隊長。非番日には音楽隊と救急関係会議や打ち合わせや講演会、それ以外に、消防庁舎検討小委員会という、新消防庁舎建設に向け、他の消防本部に出向き見学結果を踏まえて、提言するという仕事をしておりました。(日帰りで行ける距離内で、比較的新しい庁舎を視察し、報告書を作成、自分達の庁舎を建てる参考になるよう、幹部に提案するのです。約10名程の“若手職員”で構成されていました。)

泊まりの勤務シフトのはずが、2日に一回当直しながら、殆ど毎非番夜まで仕事です。

(いまから考えると、我ながら良くやっていたなと感心します。)

さて、「音楽隊についての意見書」を回収した練習日、いつもの様に合奏練習していたところへ、当時の次長(消防長の次に偉い人)が入って来て、

「話あるんやけどな。ええか？」

「はい？何でしょうか？」

「ちゃうがな、全員に話あんなん。時間空けてくれ。」(セッカチなので、いつも言葉足らずです。)

と言い、すぐ済むからと、合奏を中断して次長が話し出しました。

わざわざ、時間作った割には、当たり障りのない話が続きます。

「・・・・と、皆も頑張ってくれているが、河井君一人に全て頼っているようでは、現状の打破は遠い訳です・・・・」

ん？いったい何の話でしょうか？主旨が全く分からないまま怪訝そうな顔している、

「・・・・特に楽長の河井君には、来月4月から6ヶ月間、救命士養成のための研修に行ってもらおう事が既に決定がされており、・・・・。」

(えっ!?なんて?聞いてないで!!(\*\_\*;))

「・・・ですから、その不在の間、各自自覚を持って・・・。」

(済みません、その後の話は全く覚えてません。)

「・・・風雲急を告げるような状況ではありますが、一層奮起して望むように。以上。」

足早に練習室(会議室)を出て行く次長を追っかけます。

「一体どういう事ですか!?!」

「言うたとおりや。」

「そんなん聞いてません!!」

「もう決定事項や。」

「そんな、」

「消防長も了解している。文句あるなら直接言え!」

「(絶句)」

そんな大事な事を本人が知らない状態で発表するなんて。

練習場へ戻ると、皆こちらの顔を見えています。

「ん~~~~、何も知らなかった。何も聞かされず、いきなりの事で。今日、次長が急にきて、突然の話でした。」

説明する私にジッと聞き入っています。

「今の話では、多分もう手続きにかかる頃だろう。詳しく分かり次第みんなに説明します。」

すぐにでも確認に動きたい気持ちを抑え、合奏を再開します。

しかし、いささか人間扱いされていないような、冷酷過ぎる対応が、胸に引っかかります。

練習終了後、即、直属の上司、課長のところへ。

「河井君は既にもう救急業務が長いし、他の仕事もしてもらいたいから、ワシ等も反対したんや。次長も反対してた。けど、幹部会議での決定や。どうしようも無かった。一番押してたんは消防長や。」

「課長、どうしたらいいんですか？」

「直接、直談判以外方法はないな。」

「消防長にですか？」

「うん。でも悪いが誰も付いて行ってやられへん。幹部会議で決定してしまってるからな。」

「分かりました。自分でなんとかします。」

(この課長は、最も信頼していた上司でしたが、この1年半後亡くなられました。とても残念です。生きておられたら、消防本部も大きく違っていた事でしょう。ご冥福をお祈り致します。)

研修に行ったり、勉強する事は苦にならないのですし、むしろ知識が増える事が嬉しい気もする程です。

以前、消防大学校入校の話でも「救急救命士法」の事を書いています。当時、消防本部では、この「救急救命士」は、なったら「最低10年間は救急隊」を覚悟すると言われていました。既に8年ほど救急の中心に携わっていたので、勤務する約40年のうち、合計18年以上救急業務だけになってしまいます。仕事を選び好みして選ぶような卑怯な気持ちはありません。が、自分の将来を決定する重要な事柄でした。

自分の事と音楽隊員「意見書」の二つの問題を持って、消防長室へ。

次回「どうなる？久々の対決！ v s 消防長 」です

### ガンバレ、消防音楽隊！（その４８）

私にとって消防長室は、何回行っても敷居が高く、何回入っても居心地の良い部屋です。特に今日は、多分、逆鱗に触れるどころか、逆鱗に食らい付きに行く訳ですからなおさらです。無謀な行動と言う事は分かっています。でも、話をしなければ何事も進みません。

メッチャ入りにくい。

ドアの前で一息ついて(-o-)、ノックします。

「お話があるのですが。」

「なんや？」

私が来る事は、ある程度想像されていたのか、少し威圧的です。（既にバトルモードです。（-\_-# ）

「救急救命士養成へ入校の話です。」

「・・・」

「先程、音楽隊練習中に次長から聞きました。どういうことですか？」

「聞いたんやろ？そういう事や。」（ゲ〜〜、既に迎撃体制！）

「違います。自分はこの先１０年間、救急車に乗ると言うことですか？」

「そうなるわな。」

「消防長は、私をどの様に使って行くつもりですか？」

段々赤鬼になって来ました。（うわ、怒ってるし〜。）

でも、ココで怯んではいけない。間髪入れず、

「今まで救急分野では、近隣にも『救急の河井』と呼ばれるほど頑張ってきて来ました。消防大学にも救急科で行かせてもらいました。一番忙しい本署救急隊長として、そのうえ救急係を兼務しながら、非番日も休日も関係無しに、会議や研究会に出席しています。既に8年間、救急業務の中心で仕事して来ました。私は責任者として音楽隊の練習も休めません。そんな状況の中で、これから先、さらに10年も救急隊をさせるつもりですか？」

「なんや！お前イヤなんか！！」

(耳まで真っ赤！)

「そんな事言ってません。」

「言うてるやないか！」

ひょえ～、もうカンカンです。(お体に障りますよ～。)

「最長40年程の勤務の内、18年も救急しか知らない人間になってしまいます。それをどう思ってはるんですか。」

「お前、そんなに救急に対する後ろ向きな考え方してんのか！！」

(メッチャ怒ってるよ～(>\_<) )

「そんな風にとれますか？でもさっきから、そんな話一切してません。」

「もうエエ！もうお前なんか行かせへん。」

「子供のケンカをしに来たんちゃいます。救命士の資格取って来いと消防長が言うなら、いくらでも取って来ます。そんな事を嫌がってるのではありません。半年や1年の派遣ぐらいなんとも思っていない。聞きたいのは『私の事』をどう考えているか、どう使って行こうと思っているかです。」

「もうエエ！！違うヤツ行かす！」

「私の言ってる事、チャント分かってもらえてるんですか？」



「もうエエって言うてるやろ！！お前は違うところで使う。」

「・・・(-o-)・・・そうですか、分かりました。」

(ホンマに伝わったんかなあ～(-\_-;)?)

「それから・・・」

「まだ、なんかあんのか!？」

「ハイ、音楽隊に対する隊員からの『意見書』を読んで欲しいんです。」

「『意見書』?」(-“-;) )

「これです、お願いします。」

眉間の皺はそのままで、一枚ずつ目を通して消防長。

この部屋に入ってからずっと不動姿勢で立ったままの私。

段々、膝の裏側が痛くなってきました。(革靴履いてるから余計です。)

一通り読み終え、

「やる気ないヤツばかりやんけ!!!」

(知らなかったんすか?)

「はい。」(キッパリ。)

「こんなヤツ等辞めさせろ!」

「ハ-、分かりました。やる気の無い人間は辞めてもらいます。でも誰にさせても同じと思います。消防長には音楽隊の現状を分かってもらいたいんです。」

長~~~~い無言。そして急に冷めた口調で、

「はい(束ねた意見書をこちらに渡しながら) 良く分かりました。」

「え？」(やばい、先方の作戦が変わった！)

「だから、分かった。これでエエねんやろ？」

「は -。(x\_x)」

「まだあんのか？」

「いえ、以上です。」

部屋を出て、ドヘ                    っと大きなため息(>\_<)

こう書くと短い時間のようにですが、実際は、消防長室に入ってから出てくるまで3時間！(新幹線なら東京まで行けます。と言う事は、東京まで立って行ったのと同じなん!?ひょえ～)消防長は椅子に座ってるからいいけど、私は直立で立ったまま。とりあえず膝の屈伸。(イッチニー、イッチニー)今、出てきた消防長室の扉の前で屈伸している事に気付き、早々に立ち去りました。(消防長出て来そうやし。すぐ顔合わせるのも気まずいし、ね)

でも、どれだけ伝わったのかなあ～～～。怒ってはったし(..)

メチャメチャ疲れた(まだこれから明日の朝まで仕事あんのにー。救急出動で眠れないだろうし。(ToT))

知識も経験も豊富な、百戦錬磨の消防長に当然敵う訳もなく、更に消防長の「育ててやろう。」と言う折角の親心を踏みにじってしまい、かえって悪い結果に結びつくかもしれません。・・・今日の事が、これからどう影響するのでしょうか？

(で、僕は何に使われるのか?どう言う目に合わされるのか?)

「消防長、怒ってるやろな～(-\_-# ハア～憂鬱」

次回「運命のイタズラに翻弄され続ける私。平成4年4月1日付人事異動発表！」です。

おまけでーす：毎年恒例「特別番外編」来月公開予定！

今年で連載4周年。今、懸命に書いております。

「もう要らん！」って言われても公開しちゃいます。

お楽しみに(^o^) from 楽長

### ガンバレ、消防音楽隊！（その49）

毎年、春の気配を感じるともう4月。新しい生活を始める人、慣れた場所を去る人、人それぞれの出会いと別れがありますよね。この季節、サラリーマンの大きな関心事のひとつに「人事異動」があります。誰が、どこへ行き、誰が、どこから来るか？誰が上がり、誰が下がるか？熾烈なレースの結果、勝った人、負けた人が一斉に発表されると言う側面も持っている訳です。

消防も含め、役所には、数千～数万人の巨大組織から、数十人の豆粒組織まで規模は様々。うちのような250人レベルでは、全員の顔が分かるけど話したこと無いとか、あるとか。誰がどうなろうと、いい事でも、悪い噂でも、（特に異性絡みの噂は）一瞬で広まってしまう程度の小さな規模です。人事発表にしても、全員の名前が掲載された「配置表」が回ってきます。

今回の人事異動は、

**「お前は、違うところで使う！」**

って言われたので、いったいどうなるのか気になっていました。本署、各出張所とズ　　っと目をとおしていきますが、自分の名前がありません。見落としたのかと、2度見直しましたがやっぱりありません。「あれー？」って思っているところへ、後輩に「今度、総務ですね。」（エッ、マジで!?!）って言われて初めて見付けました。「あった！」

『総務課企画係長 河井賀文』アッチャ～そうむか～！

（総務課とは、全く予想していなかったの、見もしていませんでした。  
(>\_<) )

総務課企画係と言うのは、消防の全予算を一手に引き受ける部署で、なんだ

かややこしそうだと多くの職員が最も敬遠する「係」のひとつです。勤務時間は、平日の9時 5時の毎日勤務ですが、予算編成時期には、11時や12時まで毎日残業しています。

これは、救急隊へは二度と戻らない事を同時に意味していました。

自分自身、一生懸命に携わってきた救急業務から完全に外れてしまい、もう戻れない事は心残りでした。

現在も救急隊は「三宅一生デザイン」(ミヤケ・イッショウと読んでいる職員もいました。)の制服を着用していますが、当時はまだ、この新救急服が十分行き渡ってなく、洗い替えにも不自由するほどでした。今回、救急隊を降りる私の救急制服は、「頂戴、頂戴」の総攻撃を受けた結果、人事異動発表になって1時間以内に全て無くなってしまいました。(ハイエナ軍団 (ToT) )

まずは直属の上司、課長にご挨拶、

「総務へ異動です。大変お世話になりました。」

自分の丸坊主頭を搔きながら、(この人のクセです。)

「まー、消防本部のために頑張ってください。ハハハ。」

「はい？」(ん？イマイチ意味不明です？)

次は総務課へ、

「4月からお世話になります、河井です。よろしくお願い致します。」

「おー、まー頑張る。」の一言で終わり。(それだけかよ！ひょえ～、愛想ないわ～。)

どうも歓迎されている空気ではありません。後に、年度末業務でバタバタしている最中だったらしいと知るのですが、なんとも素っ気ない第一印象。

総務課を出たところで、消防長とバッタリ、

「今度、総務課へ異動となりました。」

「うん。」

課長以上は事前に知っている事だし、特に消防長は前の一件もあるので、この返答も分かります。が、どうも、なぜかシックリ来ません。

よく考えると、今回の人事異動で総務課は一名増員になっています。十分では無いかも知れませんが、いままでの人数でやってこれたところへ、私が増員として入るのです。

「仕事はあるのかな～？」って気になってきました。でも、毎日勤務になるのですから、音楽隊の業務も密度を濃く出来るようになるでしょう。

人事異動があると必ず歓送迎会を行う慣例になっています。

「大変お世話になりました。新天地、総務課で頑張ってください。」と、私も「あいさつ」。すると、先輩職員達から一斉に、

「お前はようやった！！」

「がんばれよー！」

「総務の奴等に負けんなよ - ！」

「ギャフンと言わせて来いよ！」(それは、ちょっと意味が違うような...)

と、予想もしていなかった声が口々に上がり、皆の気持ちが心にジワーっと沁みこんで行きました。

普段から人付き合いが大変下手クソな私ですが、この時は「仲間を持つっていいな。」と素直に思っていました。

(お酒の勢いとノリもあったでしょうし、特別な意味も無かったかもしれませんが、私にとっては、今思い出しても「ジーン」ときてしまう大切な思い出です。ありがとうございました。)

救急隊の服を脱ぎ、平成4年4月1日、河井、総務課へ。

次回、「            担当」です。

## ガンバレ、消防音楽隊！（その50）

多分どこの会社でも、総務課って同じ様な業務を行っているとは思いますが、消防本部の総務課も、書類を作ったり、数字を計算したり、支払い業務を行ったりと、机に向かって皆カリカリ、カタカタ。キーボードを叩く音や、書類をめくる音、電卓もブラインドタッチでカチャカチャ、カチャカチャ。

（ソロバン使ってる人が居るよー。ジ　　、パチパチって軽快な音がしています。）

これ以外の音がしていない事がツライ(>\_<)

4月1日は、「年度始め、月初め」と「前年度末」とゴチャゴチャになって同時進行しています。（公共団体の会計年度も、4月1日から3月31日までですが、出納閉鎖は5月31日までなんです。）

総務課企画係には着任したものの、皆忙しそう。全員下向いて仕事しているので、回りを見渡しても誰とも目が合いません。話掛けるのも気が引ける空気です。（何だよこれ - (ToT)）

正直ナニやったらいいの？って感じ。

仕方がないと言うか、やる事ないので(^\_^;)、机の上に大きい紙広げて、消防庁舎検討小委員会（ガンバレ、消防音楽隊！（その47）参照してね！）で考えていた構想をラフ・スケッチに書いてみます。4階層で消防車の車庫や、事務所、通信指令室、屋内訓練場、音楽隊練習室、訓練グランド……。総務課の部屋で一人だけ全く違う事していますが、総務課長もナニも言いません。（こんなんしてていいのかなー？）現在、会議室を間借りして続けている音楽隊の練習も、専用練習室を確保したいです。

野暮ったい、泥臭い外観も避けたい。

既に1カ月前に、国道170号線（外環状線）に面して、新しい消防庁舎の建設用地は購入されていました。今年度は設計、来年度に建設事業の予定らし

いです。

2、3日こんな状態が続きました後、総務課長に「ついて来い！」って言われて、庁舎建設関係の仕事に同行する様になり、いつの間にやら「新庁舎担当者」になってしまいました。

建設事業自体、消防本部では特殊な業務ですが、私自身は財政担当なので、地方債や国庫補助金の担当でもあります。つまり、考えて、建てて、資金調達手続きと一連の関係を一手に担当する事になる訳です。この事が分かるまで結構時間かかりましたが(^^ゞ(相当鈍感!?)「お前は、違うところで使う！」って言われたのは、こういう意味だったのかな？

これって思うツボ？

一方、音楽隊は、人事異動してすぐの4月3日には交通安全パレードで1km歩いて演奏もありましたけど、今までは出勤がかかると合奏中でも出勤して、練習を抜ける事がありましたけど、出勤が関係ない状態になったので、音楽隊業務には好都合です。体も随分ラクです。

これからは、最初から最後までシッカリ練習を見ていける様になります。

(頑張るぞ - !って指揮者だけ張り切っても、演奏は易々とは上達しません(^\_^;))

この時期、無謀にも当音楽隊初めての曲(?)「ディズニー・メドレー」って言うのにチャレンジしていました。初めての本格的な曲です。メドレーですので転調も何回かありますし、クラリネットやテナー・サクソ、トランペット、トロンボーンにはソロがあります。特にトロンボーンなんて、今まで吹いた事ないような高い音程も時々出てきます。

隊員のみんなから、

「こんな曲、いつ、どこで使うの？」

って文句だけ先行して出てきます。実際練習してみても、「白雪姫」が「河内のオバちゃん」になりそうな演奏に、「ミッキー・マウス」も、剃りこみ入ったヤンキー姿で怒鳴り込みに来そうな出来です。

「チョット無理だったかな～？」と思いつつも、「いつか必ず使います！」としか言いようが無いのですが、いつ出来上がるのか？こっちが知りたい程です。

しかし、いつの間にやら隊員の中に、

「練習しても、この曲は使い物にならない。」って雰囲気蔓延してきました。これはヤバイ！（見抜かれてる？）

4月末に出演予定になっている「羽曳野市グレイプヒルズ・スポーツ公園竣工式典」ってのが有ります。

エエ～イ、

「そこで「ディズニー・メドレー」します！」

「エ～、竣工式で「ディズニー」？変やん！」

「やるったら、やるの！」

「来賓の人に「ハイホー、ハイホー」って吹くんですか？」

「やります！」

隊員達は「信じらんない(-“-;)」って顔してますが、本番で演奏する事にしなくちゃ、練習しないんで、強引に決めちゃいました。が、当然式典では使えません。その出演の1週間後に「羽曳野市民フェスティバル」でも舞台演奏予定があったので、そこでも使う事にして、「竣工式典」では、「試し」として、式典が始まる直前にBGM程度に演奏する事で、やっと隊員達も納得。

「羽曳野市グレイプヒルズ・スポーツ公園」は、駒ヶ谷と言う地区の山頂を切り開いてグラウンドにした施設。当日行って初めて知りましたが、回りは「ぶどう畑」しか有りません。竣工式典会場のテントに演奏用意して、式典前に「ディズニー・メドレー」を演奏しましたが、ガタガタのズタボロ。まだ関係者もパラパラしか居なかったので、助かりましたが、市民フェスティバルでは舞台演奏。どうなる事やら(x\_x)

次回「花火が上がり、白い鳩は飛んで行く！？」です。